日本被団協原爆被害者調査　資料集Ⅲ

被爆者の死（その１）

――「あの日」から昭和20年末まで――

日本原水爆被害者団体協議会

日本被団協原爆被害者調査資料集Ⅲ

被爆者の死（その１）

――「あの日」から昭和２０年末まで――

発行にあたって

日本被団協の「原爆被害者調査」(' 85.11 ～' 86.3 実施）には、原爆で亡くなった家族についての設問が含まれている。この資料集は、そのうち昭和２０年末までの死亡家族についての自由な記述回答から、「原爆が人間にもたらした死とはどのようなものであったか」をよく伝えている３００例を選んで編集したものである。

原爆による家族の死は、遺族にとっては、思い出すのもつらい、また、それを伝えることばもないようなものであった。その死のかたちのむごさは、肉親の死に直面しながら何らなすすべもなかった遺族のこころを今なお苛(さいな)み、彼らを激しい情動ー悲しみ、悔い、怒りなどーへと駆り立てずにはおかない。

この証言を読まれる方々は、そのような苦しみをのりこえてあえて筆をとった人たちの気持ちを汲みとりながら、その一言一言から、原爆のもたらした死が「人間としての死」といえるようなものであったのかどうか、を考えてみていただきたい。

これらの証言はまた、被団協調査の「第２次報告」(原爆死没者に関する中間報告）で明らかになった年内死没者の死亡状態の推移ー「あの日」の圧倒的多数の建物内での圧焼死、戸外での爆死、その後１～２週間の大やけど、大けがによる死から急性原爆症による死への変化ーを遺族の生のことばで裏づけている。第２次報告と合わせ読んでいただければ幸いである。

なお、厚生省が昭和６０年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」には、さらに多くの「原爆で亡くなった家族についての思い出」が書き込まれているという。＜原爆は人間にとって何であったのか＞を永く人類の歴史に刻む資料として、国はその全容をありのままに公表すべきである。

最後に、この資料集の作成にあたっても、一橋大学の「＜原爆と人間＞研究会」や社会調査室をはじめ、多くの方々のご協力をいただいた。付記して、心からの謝意を表したい。

目　　次

発行にあたって
凡　　例

広　　島

頁
Ⅰ．「あの日」の死（８月６日）……………… 9
Ⅱ．２週間以内の死（８月２０日まで）……………… 61
Ⅲ．８月以内の死 ……………… 115
Ⅳ．昭和２０年内の死 ……………… 138

長　　崎

Ⅰ．「あの日」の死（８月９日）……………… 165
Ⅱ．２週間以内の死（８月２３日まで）……………… 195
Ⅲ．８月以内の死 ……………… 218
Ⅳ．昭和２０年内の死 ……………… 225

＜付録＞広島・長崎地図（被爆当時）

表紙写真：「嵐の中の母子像」本郷新・作（連合通信）

凡　　例

1．この証言に関する設問は、次のとおりである。

【問５】被爆当時の、あなたのご家族のことについて、おたずねします。

〔２〕被爆したご家族のなかで、被爆の当日から昭和２０年末までの間に、亡くなられた方がありますか。

「ある」と答えた方について、

【亡くなられたときの状態について、つぎの例を参考に、できるだけくわしく、おしえてください】

◇例◇

ア．遺体も遺骨もなく
イ．生前のおもかげもなく
ウ．骨や灰になって
エ．だれも助けにくるものもなく
オ．やけど・けがに、もだえくるしんで
カ．からだが腐り、枯れるように
キ．ふっと、突然に

【あなたは、その方（たち）の死について、どんな悲しみや思いをいだいてきましたか。やはり例を参考に、書いてください】

◇例◇

ア．死に方がむごすぎる
イ．もっと早く見つけてやっていたら
ウ．何もしてやれなくて
エ．自分のみ助かったことがくやまれて
オ．生きていてくれたら
カ．こどもを返せ、父を、母を、失った人を返せ

2．証言はすべて原文のまま。ただし、表記の誤りや、漢字、仮名づかいについては、改めたところもある。また、特定される人名は△△…◇◇…で、編集にあたって補った部分は文中〔　〕で、示してある。

3．３００例の証言は、被爆地により二分したうえ、家族の死亡時期によって次の４つに分類、編集した。

①「あの日」の死：被爆当日（広島＝8/6,長崎＝8/9 ）の家族の死について証言しているもの

②２週間以内の死：１４日後（広島＝8/20，長崎＝8/23）までの家族の死について証言しているもの

③８月以内の死：８月末日までの家族の死について証言しているもの

④年内の死：昭和２０年１２月末日までの家族の死について証言しているもの

4．【死亡家族の概況】には、調査票の死没家族表から次の事項を記載した。

死亡家族の番号，死亡月日，続柄（回答者からみた），被爆時年齢（＝死亡時年齢），被爆の状況（距離），死亡の状況，死亡の確認状況

〔死亡の状況〕欄の略語は次の事項を示す。

爆死：戸外で被爆し死亡

圧焼死：建物内（下）で圧焼死

大けが（大やけど）：大けが（大やけど）による死亡

原爆症：急性原爆症による死亡

〔死亡の確認状況〕欄の略語は次の事項を示す。

遺体で：遺体で死亡を確認

遺骨で：遺骨で死亡を確認

各欄のＮＡは、無回答を示す。

5．各証言のあとの〔　　〕（　　）内は、回答者についての次の事項を示している。

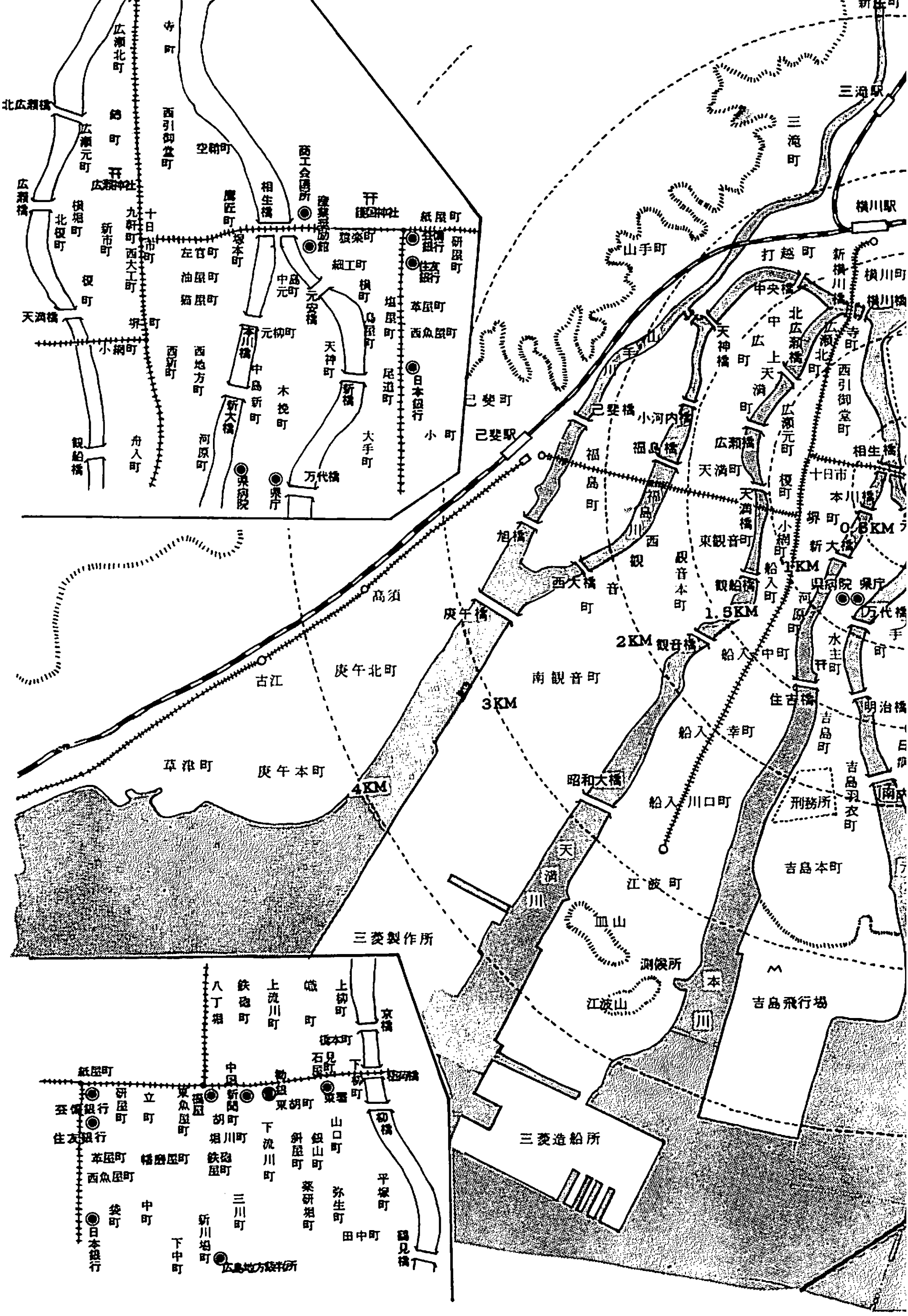
〔被爆地，被爆状況（爆心からの距離），性別，被爆時年齢〕（整理番号）

………………………………………………………………………………

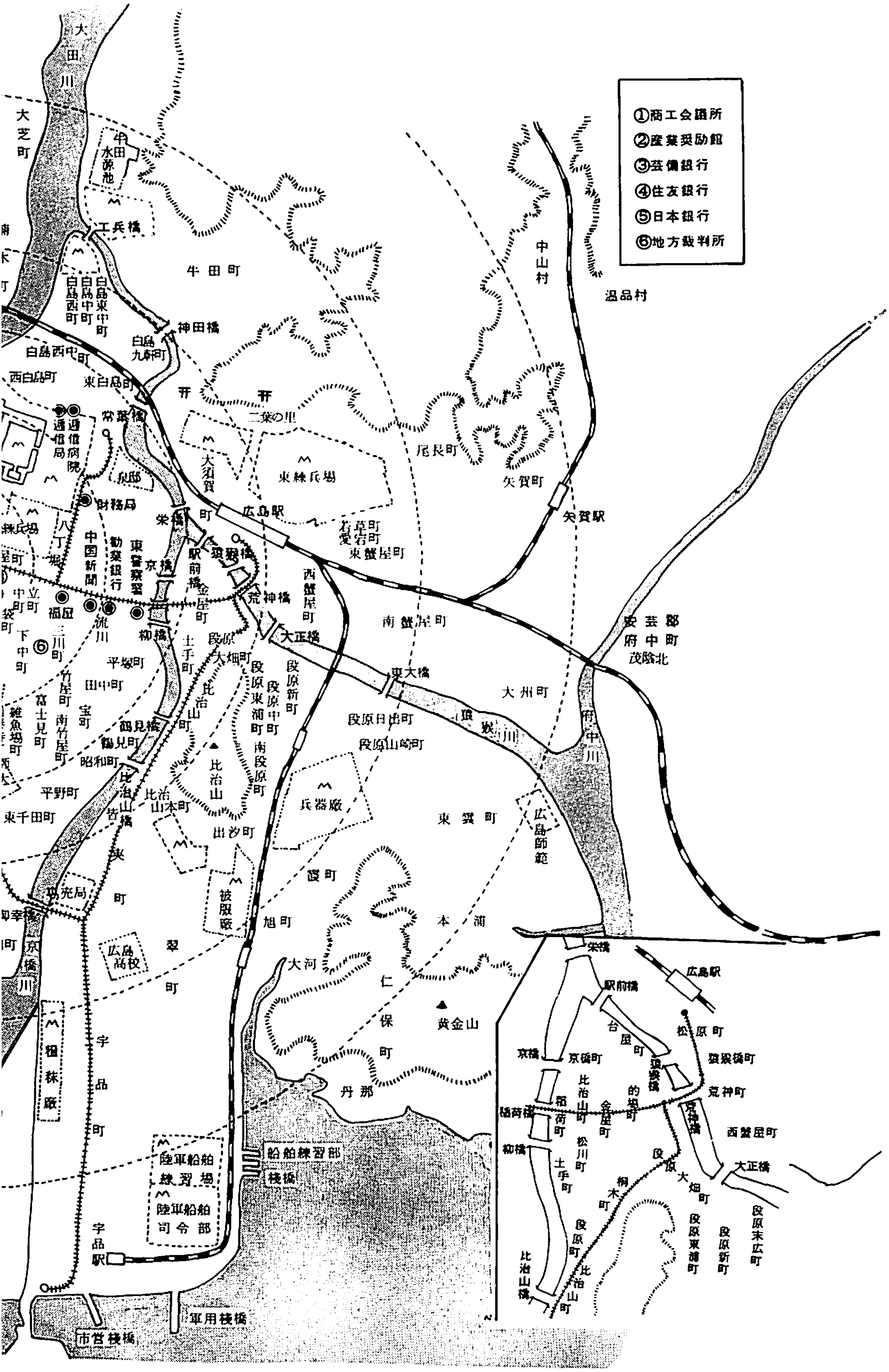
◇　「原爆被害者調査」の自由記述回答については、ひきつづき資料集Ⅳとして『被爆者の死（その２）－昭和２１年以降－』（仮題）の発行を予定している。

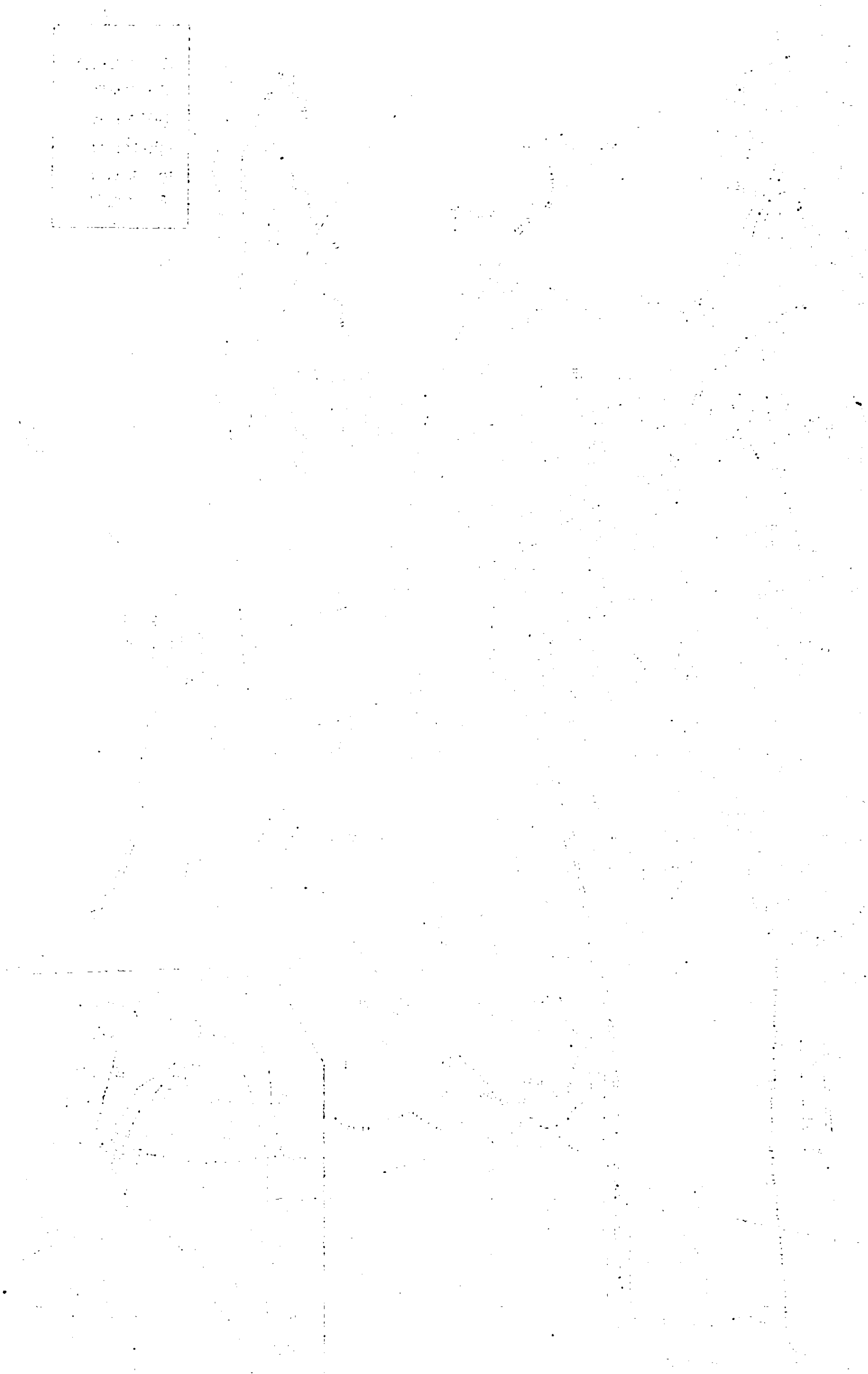
広　島

広島



三滝駅
三滝町
横川駅
新庄町
山手町
打越町
己斐町
己斐駅
己斐橋
小河内町
福島町
福島橋
福島川
西観音町
観音本町
東観音町
南観音町
西大橋
旭橋
庚午橋
庚午北町
庚午本町
高須
古江
草津町
天満川
天満町
天満橋
観船橋
観音橋
昭和大橋
船入中町
船入幸町
船入川口町
江波町
皿山
江波山
測候所
本川
住吉橋
吉島町
吉島羽衣町
吉島本町
刑務所
吉島飛行場
明治橋
万代橋
県病院
県庁
水主町
河原町
新大橋
本川橋
十日市
堺町
中広町
上天満町
広瀬元町
広瀬北町
北広瀬橋
中央橋
寺町
西引御堂町
相生橋
横川町
横川橋
新横川橋
三菱製作所
三菱造船所
0.5KM
1KM
1.5KM
2KM
3KM
4KM


①商工会議所
②産業奨励館
③芸備銀行
④住友銀行
⑤日本銀行
⑥地方裁判所
大田川
大芝町
牛田水源池
工兵橋
牛田町
白島東中町
白島中町
白島西町
神田橋
白島九軒町
白島西中町
西白島町
東白島町
常葉橋
通信局
逓信病院
泉邸
二葉の里
大須賀町
東練兵場
広島駅
若草町
愛宕町
東蟹屋町
西蟹屋町
南蟹屋町
尾長町
中山村
温品村
矢賀町
矢賀駅
財務局
八丁堀
中国新聞
勧業銀行
東警察署
栄橋
京橋
駅前橋
猿猴橋
荒神橋
金屋町
大正橋
中立町
袋町
福屋
流川
柳橋
三川町
下中町
平塚町
土手町
段原大畑町
段原東浦町
段原中町
段原新町
東大橋
大州町
安芸郡府中町
茂陰北
府中川
段原日出町
段原山崎町
猿猴川
田中町
竹屋町
富士見町
宝町
南竹屋町
雑魚場町
鶴見橋
鶴見町
昭和町
比治山
比治山町
南段原町
平野町
東千田町
比治山橋
比治山本町
皆実町
出汐町
兵器廠
東雲町
広島師範
被服廠
専売局
御幸橋
京橋川
霞町
旭町
本浦
大河
仁保町
黄金山
広島高校
翠町
宇品町
糧秣廠
丹那
船舶練習部
桟橋
陸軍船舶練習場
陸軍船舶司令部
宇品駅
軍用桟橋
市営桟橋
台屋町
松原町
猿猴橋町
荒神町
京橋町
比治山町
的場町
稲荷橋
稲荷町
金屋町
西蟹屋町
松川町
段原大畑町
段原末広町
土手町
桐木町
段原町
段原東浦町
段原新町
比治山町



Ⅰ.「あの日」の死（8月6日）

【死亡家族の概況】

①	８／６	母	３９歳	直爆１．０㎞	不明	行方不明
②	８／６	妹	１３歳	直爆１．０㎞	不明	行方不明
③	１１／２１	祖母	７９歳	直爆２．０㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕建物疎開の勤労奉仕で、町内から２人行きました。場所は十日市辺りだとは聞いていますが、８月６日の爆撃以来、行方不明で遺体すら分かりません。どんな思いで、どんなに辛く淋しく逝ったことでしょう。原爆写真展など見るとき、黒こげの遺体の中に、または、行き倒れた遺体の中に、母がいるのではないかと、目をこらして見ますが、未だに実態もつかめません。

〔妹〕女学校の２年生でした。やはり建物疎開の勤労奉仕で、学年全部が市役所付近竹屋町辺りに行きました。妹の消息も分からず、行方不明でしたが、私達が２０年１１月に北海道へ来てから３、４年経って、中国新聞に無縁仏としての名が記載された中に妹の名があり、知人が知らせてくれました。

妹は坂の収容所で亡くなったとのことです。遺骨を貰いに行きましたが、合同で焼いた遺体は妹だけというのは無理で、今、広島の学徒の墓にねむっています。

父と弟が、爆撃の翌日から母や妹を捜しに、市中へ出かけて行きました。私は爆風で目をやられ何もできず、とうとう一度も捜しに行ってあげられなかったことが、とても心のこりです。

私の従妹が、女学生でしたが、収容所で見つかり、その時のことを叔父、叔母に聞きました。１人１人をいくら見ても分からず、「この中に△子はいないか」と叫んだそうです。するとかすかに声がしたので、その人を見たが、あまりの変わりようで信じられなかったそうです。顔も体も丸太のようにはれ上がって、どうしても分からず、「貴女の父の名は、母の名は？」と聞いて、はじめて我が子と判明したそうです。その焼けただれた傷口にはウジがはい回っていて、もうとうてい生地獄の有様だったと教えてくれました。家へ連れ戻した従妹も２、３日

後亡くなったそうです。

妹も母もこのような地獄の中で、水を欲しがって亡くなったのではないかと、あまりのむごい死に方に、戦争の恐ろしさ、非情さをいきどおらずにはいられません。

〔広島　直爆２．０㎞　男　１５歳〕
（０１－００４７）

【死亡家族の概況】

①　８／６　兄　２０歳　直爆２．０㎞　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕県庁の地下室で、女の事務員さんと２人で仕事をしていたそうです。大きな柱が足の上に落ちて来て、女の方が一生懸命どかそうとされたそうですが、どうすることもできず、そのうち火事になり、兄は早く逃げるようにその方に言ったそうです。

その方が亡くなられるとき、兄のことを話されたので、両親で県庁の地下室に行ったら、遺骨が１体あったので、兄のだろうと思い、持って帰りました。

行方不明の方がたくさんおられますが、その時の様子や遺骨があっただけでも幸せと思います。

２０歳で亡くなり、これからという時でしたので、両親はとてもかなしい毎日でした。いつもあの子が生きていたらと、何かあるごとに言っていました。

両親が亡くなったら、兄のことは忘れず線香をあげるよう、私に頼んでいます。一生忘れることはないです。兄の分まで長生きして。

〔広島　直爆１．５㎞　女　７歳〕
（０４－０３７０）

【死亡家族の概況】
① 8／6 姪 6歳 直爆1．8㎞ 圧死

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姪〕幼稚園（お寺）のハリの下敷きで、頭の骨・足の骨がぐにゃぐにゃに折れ。

o りはつな子だったから、自己判断でうごいたのか、たった1人だけ園児の中で死んだという運の悪さに、ふびんで仕方ありません。
o 意識ないまま、2時すぎ家の中に私が入ったとき、息を引きとりました。
o 半分くずれた家の中で、一晩ローソクのゆらぐ下で、同じいとこと2人、まくらを並べて6日の夜をあかしたこと、誰も口をきく人もなく、涙がかれるだけじっと泣いた日のこと、忘れない。

〔広島 入市 女 19歳〕
（08－0030）

【死亡家族の概況】
① 8／6 弟 19歳 その他 遺体で
② 8／6 妹 12歳 直爆1．3㎞ 大やけど 行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕肺が悪く、五日市のサナトリウムの病院へ入院しておりました。ちょうど、原爆が落ちたときに、ビックリして心臓病で、その時亡くなったそうです。
〔妹〕女学校の1年生で、建物疎開へ出ていて、クラス全員原爆にあい、妹は顔がやけどと水ぶくれで、吉島町の方へ走って、あるお宅へいって、「水を下さい。私の家は己斐町△△番地ですので、家へ知らせて下さい」とお願いしたそうです。私方へ何日かして見えたそうですが、兵隊さんにつれて行かれたそうです。妹の写真を見て、可哀相にと泣かれたそうです。顔は水ぶくれで、「こんなに

可愛らしいのに、本当に可哀相な」と言われたそうです。

お話を聞いて、原爆さえ落ちなかったら、今頃は良い話し相手になっていたのにと思います。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２２歳〕
（１１－００７１）

【死亡家族の概況】

①	８／６	姉	２１歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死	遺骨で
②	８／ＮＡ	祖母	ＮＡ	不明	不明	行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕台所で仕事をしていたとき直爆、生きている間に、家のこわれた材木の中から出られず、「助けて、助けて」言いながら、足に火がつき、一歩も動けずに焼き殺された。このことは姉と一緒にいた人が私に話をしてくれた。あくる日に捜しに行ったとき、火のカッカッともえた中で、真白い骨になっていた。

〔祖母〕近くに１人で住んでいたが、どんなに捜してもわからず、遠い島の方、田舎の方と、何年も捜したが、未だにわかりません。

真白いお骨になった姉、２１歳の結婚前で、仕度は全部できていたのに。私は結婚し子供もいる。姉はどんなにくやしかったか可哀相で仕方ない。お国のためお国のためと、軍需工場で一生懸命働き続けていました。

６人兄弟だったのに、弟が病死、姉が原爆死、父、母、兄、次々とガンで死亡しました。兄嫁は白血病、その三世が白血病、下の兄が現在病気中です。

父は、この原爆のおそろしさを、若人に話しておきたいと言いながら、ほとんど話せないままに死亡しました。さぞ心残りと思います。

祖母はどこを捜しても何も見つからず、むごい死に方をしたのではと、私たち

生きている者の身がわりになってくれたのではと思う。

〔広島　入市　女　１７歳〕
（１１－００９７）

【死亡家族の概況】

① ８／６ 父 ６０歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺体で
② ８／６ 母 ５２歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺体で
③ ８／６ 姉 ２８歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺体で
④ ８／６ 妹 １６歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺体で
⑤ ８／６ 甥 ６歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺体で
⑥ ８／６ 甥 ４歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

被爆当日午前６時、家族７人で朝食をとり、小生は学徒動員で工場へ出勤した。小生は前記場所で被爆、残った家族６人はそのまま自宅で圧焼死した。

翌朝、やっと自宅にたどりついた。もちろん、生前のおもかげをわずか残し、遺骨となっていた。

だれも助けてくれるものは無く、戦争の悲惨をつくづく感じた。

今日の我が国の隆盛を見るに、もっと長生きをして貰いたかった。とくに妹と２人の甥には。両親等には、ご恩返し（親孝行）もしてやれなかったことが悔いられます。

〔広島　直爆１．５㎞　男　１８歳〕
（１１－０１３５）

【死亡家族の概況】

① 8／6 弟 8歳 直爆1．5㎞ 爆死 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕観音小学校２年生で、朝礼中に校庭で被爆。先生に引率され、級友と一緒に郊外の己斐国民学校まで逃げ、教室内で、先生、生徒全員死亡（その中の１人でした）。

被爆後３日間、市内中心から全市内を、父と２人で歩き回って捜し、被爆３日目に上記己斐国民学校にて、洋服のネームで発見いたしました。顔が水ぶくれのようにはれて、ネームがなければわからなかったかも知れない、悲惨な状態でした。

己斐国民学校の教室内で死亡していた弟の足元に、口にすることができなかった「カンパン」が散らばっていた悲しい光景が、４０年後の今もって、焼きついて脳裏を離れない。

ペンを走らせていると、改めて当時のおもいに涙がこぼれ、ペンもとぎれる。

１人息子を失った父母の悲しみ、肉体的、精神的苦痛は言葉では表せない。

戦後を引きずって、報われないまま父母も死亡。罪もない小学生が、戦争によって短い生涯を閉じさせられる。まして人道的許されるべくもない原爆によって……。生きている限り心の苦痛は拭えない。今生きていてくれたならば、どんなにか心の支えとなったであろうかと。原爆が落とされる前に、終戦となっていたならと、常にくやまれてならない。

〔広島 直爆２．０㎞ 女 １５歳〕
（１１－０１６６）

【死亡家族の概況】

① 8／6 父 ６７歳 直爆１．２㎞ 圧焼死 遺骨で

② ８／６　母　　６１歳　直爆１．２㎞　圧焼死　遺骨で
③ ８／６　伯母　７７歳　直爆１．２㎞　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父・母〕自宅の茶の間で食事中であったと思います。今は亡き夫が骨をひろいました。
〔伯母〕つぶれた家の中から引っぱり出して、話もできない様子の歩行困難でしたが、子供を背負った私とお手伝いさん（居場所が良かったのでわりと元気でした）とで、川まで連れて逃げましたが、水の中に入っている間に死亡なさいました。

老夫婦が語り合って、静かな朝食をしていて、そのままおしつぶされ、そのうえ焼かれて、どんなにか痛かったか熱かったか、地獄とはこんなものでしょうか？
伯母は、放っておけば、じりじり眼前に火災がおそって、あぶり殺されると思い、引っぱり出して、その時は命は助かったけれど、出血多量で亡くなられました。気の毒でした。

〔広島　直爆１．０㎞　女　２８歳〕
（１２－００２４）

【死亡家族の概況】
① ８／６　夫　　４３歳　直爆距離ＮＡ　爆死　　　　　行方不明
② ８／６　次男　１２歳　直爆距離ＮＡ　爆死・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕遺体も遺骨もなく、朝家を出て途中（中心部）で被爆。
〔次男〕広島県立第二中学１年。学徒動員にて疎開作業の後片付け（中心部）。
長男もやけどをしていましたが、場所がわかっていたので捜しに行き、ちょ

うど朝礼だったようで、皆やけどで、もだえ苦しんでいたそうです。次男の白の名札がどうにか手がかりになって、連れて帰りました。生前のおもかげもなく真黒でしたが、息はたえだえで、名前を呼ぶとうなずいていました。

死に方がむごすぎます。可哀相です。思い出す度に涙が止めどなく流れます。一家の大黒柱を一瞬にして失い、途方にくれました。
一時は生きて行く自信もなくしました。

〔広島　直爆３．０㎞～　女　３５歳〕
（１２－００３４）

【死亡家族の概況】
①　８／６　義弟　１２歳　直爆距離ＮＡ　爆死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義弟〕亡くなった子は、私から見れば、養父母の長男でありますが、当時この子は文理科大学の付中１年生でした。

［空襲］警報が解除されたので、登校して建物疎開の作業をするため、学校からその場所まで、向かっている途中だそうです。

私が逃げてる途中で、付中の生徒さん何人かにお会いしたので、名前をいってきいてみると、逃げるのを見たといってくれたので、ああ大丈夫だったんだナと思い、安心していました。

１週間後の１３日、軍人だった養父がお骨を見つけて来ました。小さい箱には、頭蓋骨は完全でなく、その他の骨も少ししかなく、その時着ていた上着の布端とベルトのバックルが入っていました。このバックルで身元が分かったのです。

８日～１０日まで、養母たちが捜しに入市して捜したのですが、他の方が間違って持ち帰っていらしたので、わが家に帰るのがおそくなったのでした。

被爆時、もし警報が出ていれば、家には私と２人いたのに……と思うと、私だけ生き残ったことが、申し訳ない思いでいっぱいです。

養父は宇品におりましたが、私がわりと近い所（爆心地から）におりましたので、さっそく捜しに来てくれましたが、その前に私は運良くにげきれました。なお、今、この子が生きていてくれたら、今、寝たきりになっている養父も、さぞ心強かったことと思います。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１６歳〕
（１２－０１７７）

【死亡家族の概況】

①　８／６　父　５８歳　直爆１．９㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕古い家でしたので、おおきなハリが背と足のところをおさえておりました。

（知人の話）

家全体はペシャンコになった由。顔と足の先は焼けておりました。体全体は衣服をつけたまま、むし焼きのようでした。

私と父と２人だけで、広島の家にいて、父は私の身を案じつつ、「残念」の言葉を残して、家とともに焼死しました。

生きたまま、意識のあるまま、家とともに焼かれるわけで、残酷の一言に尽きる。

父が所帯主で、家のことについては、子供である私たち兄弟は知らされていなかったので、戦後の動乱のとき、土地さえ他人手に渡り、不在地主で没収され、経済的にも一瞬にして谷底に落ちたわけで、父の亡くなったことの大きさを身にしみて感じた。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２５歳〕
（１２－０２２２）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 姉 １８歳 直爆・爆心地 ＮＡ 行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕会社が爆心地であったため、時間的に会社に着いたであろうと思われる。会社に出勤したと思われる３０数人は全員死亡のため、ガレキの下に遺骨があったそうで、後日会社で拾われ、全員の合同葬の折、煙に還ったであろう遺骨を分けていただいた。

私のすぐ上の姉で、１８歳だったので仲がよく、父母は死体を見ていないので、いつまでも帰って来るとまっていました。

〔広島 直爆１．５㎞ 女 １５歳〕
（１２－０２４１）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 父 ５０歳 直爆０．５㎞ 圧焼死 遺体で
② ８／６ 母 ５５歳 直爆０．５㎞ 圧焼死 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕台所で、仰向けに片足を立て、手は両手とも上に横に伸ばし、首はありませんでした。何となくお腹のあたりブヨブヨしていたようです。もう炭のように真っ黒でした。
〔父〕防空壕近くの土の中から出てまいりました。これも首はなく、長い間、中風で半身不随でしたので、着物着ていました。その羽織の裏の布に見覚えがあり、骨にくいついていましたので、父と分かりました。

本当に、父も母も苦労して１人っ子の私を育ててくれました。とくに母は、朝

晩、寝食忘れて働きました。父がもう長い間中風で、それも半身不随なので、生活は全部母の身体にかかっていました。でも、母は私１人を育てるために、ただ一生懸命に働いていました。これから何とかして、少しでも親に孝行しなければと思っていたときに、このような結果になり、亡くなった両親に何をしてこたえてあげればよいのか。それも病気とか何かで亡くなったのであれば諦めもつきますが、何も悪いことをしない者が、戦争のために犠牲にされ、むごい死に方。自分のみ助かったことが悔やまれ残念です。父を、母を、失った人を返せ、大きな声で叫びたいです。

〔広島　直爆２．０㎞　女　１８歳〕
（１３－１２－０５０）

【死亡家族の概況】

①　８／６　父　７１歳　直爆１．０㎞　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕八丁堀の方で、直前に見たという方がありますが、遺体も遺骨もなく、私の存命中は一番心にかかることでございます。

いろいろな被爆者の写真をみるにつけ、想像したくないと思っても、父のむごい状態を思われて、心痛み苦しみます。

人格者と言われた父、どうしてこんなひどい死に方をと、腹が立ちます。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２８歳〕
（１３－１２－１１４）

【死亡家族の概況】

① ８／６　三男　１３歳　直爆０㎞　　爆死　行方不明

② ８／６　母　　７５歳　直爆４．１㎞　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔三男〕学徒動員で、原爆ドームの前の川原で、各学校の生徒が朝礼でならんでいるときに、被爆した様子であった。川の砂の上には、各中学校の生徒がそのまま亡くなっており、その中に我が子もいたであろうと思われるが、皆同じような姿で焼死しているのでわからない。

あるいは「帰宅しているのでは」と期待して、夜、被爆者がお化けのような姿で、沿道をはだしで列をなして村へ帰って行く姿を見て、わが子くらいな男の子を見ると声をかけてみたが、とうとうわからなかった。

８月６日の朝、中学１年の（△△）は、疎開作業のため、学徒動員で出かけようとしたときに、空襲警報が鳴った。その後で、米軍の飛行機が１台、広島市内を通過、中国山脈の彼方に去った。空襲警報解除になった。警報解除になったので、「私はお国のために」ということで、子供は友だちと２人で出かけた。

原爆中心地で、朝礼の時刻に空襲を受け、爆死しました。「軍国の母でなく」子供の命を大切にしなかったかと、愚かさを反省する。と同時に、核兵器はいかなることがあっても使ってはならない。廃絶すべきです。

〔広島　直爆３．０㎞～　女　４０歳〕

（１３－１２－１５１）

【死亡家族の概況】

① ８／６　兄　３４歳　直爆０．１㎞　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕軍属で司令部（陸軍）に出勤して、庭に立っていたらしいとのことで、行方不明。遺骨もなく、両親は毎日捜し歩き、帰って来るのではないかと、夜更けに靴音がすると皆で耳をすまし、兄の帰りを毎日待ちましたが、ついに何もなし。

兄には病身の嫁があり、子供が２人いました。兄が帰らないのを待ちながら、９月１日、姉は死亡し、両親は３歳と１歳の孫を育てました。

１人息子でしたので、女ばかり残り、父がとてもくやしがり、孫を４人（姉も未亡人になり２人子供）連れて上京し、マッカーサーにどうしてくれると会いに行くと、よく言っていました。

女のわたしが生き残ったことを、申し訳なくとても思っていました。今でも火の中を、幼子を抱いて逃げ惑う夢をみます。

〔広島　直爆３．０㎞　女　１８歳〕
（１３－１４－０１１）

【死亡家族の概況】

①　８／６　次女　１４歳　直爆０．８㎞　圧焼死

【死亡の状況・家族の思い】

〔次女〕小網町のコンクリート建物の中で、胸に角材が落ちて、初めは苦しいと言って泣いてたそうですが、そのうち、泣くこともなく苦しんだ後、息絶えたそうです。（助かった事務員のお話です）

タンカが会社から来るのを待たずに、夜になって、その所はすっかり焼けましたので、遺体はありませんでした。７日の日に、父と２人で町にさがしに行きましたが、自転車の輪と屋根瓦だけでした。

それでもモンペの小切れでもと、暗くなるまでさがしましたが、何も見つけ

ることができませんでしたので、せめて土なりと少しでもと、持ち帰りました。

朝早く元気で、「行って来ます」と言った声が最後でした。まだ１４歳では子供ですが、三菱重工に義勇隊として出されました。

私は広島で生まれ、小学校のうちに東京に出ましたが、父や弟たちは広島に帰っていまして、広島に疎開するよう、手紙ですすめてくれますので、毎日の空襲の激しさに、年寄り２人、子供３人を伴って、広島に疎開しました。

８月６日に、街に出されなければ助かっていましたのに、私が連れて疎開したばかりに死なせてしまいました。それに、食べるものもとぼしく、米１粒もない時などにも、耐えに耐えてたときでしたので、その時の死でしたので、なおのことあきらめきれません。

死んだ子供のことを思いますと、今なお泣けて涙が止まりません。実に残念です。

〔広島　入市　女　３４歳〕
（１３－１６－０４１）

【死亡家族の概況】
① ８／６　父　５７歳　直爆距離ＮＡ　圧死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕海軍の用達で爆薬箱等を作っていたので、その工場の現場で下敷きになり、両足骨折で助けを求め、近所の人に引き出してもらい、防空壕に入れてもらい、後その壕よりはい出して、死んでいたそうです。

私はやけどで身動きができず、７日の朝、兄嫁が工場に行き、遺体を見つけて、二中に運び、遺骨にしてもらいました。

午後３時頃まで、万一の時は出会う場所と決めていた、三条の親類にも来ない

ので、なかばあきらめ、己斐の紅葉谷まで、みちみちさがして歩きました。両足骨折の身で、はい出し死んでいたと聞いて、自分も動けなかったので、１目でも会うことができたらと、今でも思います。

兄２人を１９年に戦死させ、我が身が怪我をして、１時間くらいは生きていたらしいので、どんな気持ちだったかと思うと、残念でたまりません。

８月１５日に高田郡吉田町の山の上から、一面についた灯を目にしたとき、終戦がもう少し早ければ生きていたであったろうと、涙が出て止まりませんでした。

〔広島　直爆１．５㎞　女　２２歳〕
（１３－１７－００９）

【死亡家族の概況】

①	８／６	母	６２歳	直爆１．５㎞	圧焼死	遺骨で
②	８／６	姉	３３歳	直爆１．５㎞	圧焼死	遺骨で
③	８／６	姪	３歳	直爆１．５㎞	爆死	行方不明
④	８／６	姪	１歳	直爆１．５㎞	圧焼死	遺骨で
⑤	１０／１９	姪	ＮＡ	直爆距離ＮＡ	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

我が家の焼けあとに、ちらばっている鍋、釜と一緒に、真白い粉となったところ、ゴソゴソの骨、そして焼け残った３０㎝位の真黒な背骨。真白くキレイに焼けて、小さな歯が並んでいた。みつからない子供の骨を、焼けあとのいたるところをほり返してさがした。

なんとも言いようのない淋しさ悲しさでいっぱいでした。

その骨は、言いようのないにおいで、頭の痛くなるようなムカムカして来るような強烈なものでした。

街中で死体を焼くので、そのにおいは言葉では言いあらわせません。

戦争さえしなかったら、母や姉たちを一度に失うことはなかったし、その上、家とともに焼き殺されることもなかった。

誰でも人生の最後は、家族にみとられて息をひきとり、たくさんの人たちにおくられて手厚くほおむられるものだと思います。

国はこれら死者に対してどう考えているのでしょうか？

〔広島　入市　女　２７歳〕
（１９－００２０）

【死亡家族の概況】
①　８／６　長男　１４歳　直爆距離ＮＡ　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男〕５日間捜しましたが、見つからなかったけれど、宇品港で死体を船に積んでいると聞き、そこで見つけた。一中校までやっと運んで、そこでダビにふす。

５日間、冷たいコンクリートの上に寝かされ、水１滴やる人もなく死んで行ったと思えば、胸は張り裂けそうにくやしい。

戦争はどこの国ともしてはならない。幸がいっぺんに不幸のどん底に落ちてしまうから。

「はえば立て、立てば歩めの親心」と、昔の人は子供の成長を願っている。それが戦争とはいえ自分の生んだ子を、母のその手でダビにふすとは、何とむごいことか。

どんな理由があるか知れないが原爆投下したアメリカが憎い。今でも許すことはできない。もっと若ければ、あの地へ行って大声でさけびたい。生命尊厳は、誰人たりともいかなる理由がありとも、厳に守るべきである。

それをおかしたことは魔だ。

７６歳　老女

〔広島　直爆３．０㎞　女　３６歳〕
（２２－００８２）

【死亡家族の概況】
①　８／６　母　５０歳　直爆０．７５㎞　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕投爆日の翌日、大きな樹木がまだくすぶっていた。その周辺を父と２人で掘っていると、１片の母のはいていたモンベイ［モンペ］の布と、カギホックと、焼け残りの布端を見つけ、そのすぐ近くに、黒く焼けた母の、生前のおもかげの姿なく発見しました。

父が所用で出張で留守中であり、（父母）２人で困苦の末、やっと独立、営業の権利も（熔接用酸素販売権）取得し、店舗もかまえ、当日は１人で店を守っていたときの被爆で、さぞ心残りであったかと思います。また、さぞ淋しかったと思います。

妻を失い、商売も軌道にのった時期に、すべてを断念して、家のない故郷に帰らざるを得なかった父の心境も、はかりしれないものがあった。

〔広島　直爆１．０㎞　女　１４歳〕
（２２－０１４１）

【死亡家族の概況】

① ８／６　夫　３３歳　直爆０．３㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕朝出勤（当時、師団指令部に軍属）し、部下の方達に朝礼していたときだそうで、ひどいやけどとけがで、２、３人の方たちと、己斐に両親たちがいるので、そこに行くと、その方たちと別れたと ― その途中まで一緒だった方は、家まで帰られ、３日ぐらい家族の方の看護のもとで亡くなられ、その苦しい息のもとで、途中まで一緒だったことを［語られた］― ずーと後で私は知りました。己斐までたどりつくこともできず、途中で動けなくなり、死亡したと思います。

当時、年老いた両親と幼児をかかえて、家は焼かれ、子供を育て上げねば、と夫の死にも泣いているひまもなく、原爆の症状と思われる体にむちうち、必死に生き抜いてきた４０年、けわしい道のりでした。

〔広島　直爆１．５㎞　女　２５歳〕
（２７－０１６８）

【死亡家族の概況】

① ８／６　父　５２歳　直爆０．３５㎞　圧焼死　遺骨で
② ８／６　母　４３歳　直爆０．３５㎞　圧焼死　遺体で
③ ８／６　弟　１５歳　直爆０．３５㎞　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

全員、家の下敷きになったまま、焼け死んでお骨になっていました。下敷きになった時点で、生きていたのか、死んでいたのかは、不明。

〔母〕台所で洗い物をしていたらしく、両側の食器（戸棚）に埋まって、蒸し焼き

の状態で、姉２人が自分たちの手でお骨にしました。
〔父・弟〕表のソファーに座っていたとみえて、皮のベルトをした状態で、お骨があったそうで、側に皮財布が焼けて縮み、３分の１くらいに焼けて、残っていたそうです。

むごいことです。でも皆がそんなですし、考えようによっては、家でお骨も拾うことができたことを、感謝しなければならないかも知れませんが、後日占っていただいたとき、母だけは苦しんだとのおつげでしたが、子供の手で焼いてもらって、あの世では平和にくらしてると思います。

当時、広島には爆弾もあまり落ちたこともなく、戦争とはいえ、平和に過ごしていましたが、一度に、それも肝心な両親を亡くしてしまって、貧底の生活でしたが、悲しんでばかりはおられません。誰も自分のことで精いっぱいなのです。国が手をさしのべてもくれません。泣いてばかりでは生きて行けません。苦しい悲しい悲惨な思いも、心の奥深くしまって、皆家族が助け合って、道に外れることもなく過ごせたのも、両親が守っていてくれたことと思っています。

せめて、一方でも生きていてくれたら……と思うことは度々ありますが……。

〔広島　直爆２．０㎞　女　１９歳〕
（２７－０２７０）

【死亡家族の概況】
①　８／６　父　５５歳　直爆０．１㎞　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕朝出たきり帰って来ないので、いまだにどこかにいるのではないかと思うばかりです。

〔広島　直爆３．０㎞　女　１３歳〕
（２７－０３８９）

【死亡家族の概況】

① ８／６　夫　２９歳　直爆０．４㎞　圧焼死

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕元柳町１８番地、森永製菓に勤務中、職員全員遺体も遺骨もなく直爆死で、名前の入った白木の箱を、支店長宅より持ち帰りました。

子供と自分だけ残って、目の前が真っ暗になりました。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２６歳〕
（２７－０４７８）

【死亡家族の概況】

① ８／６　父　４８歳　直爆０．８㎞　爆死　　行方不明
② ８／６　母　４２歳　直爆０．８㎞　圧焼死　遺骨で
③ ８／６　妹　　８歳　直爆０．８㎞　爆死　　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・妹〕遺体も遺骨もなく。

〔母〕投下時、母はすぐ近くに住む親戚の家にいたことがわかりました。その家の叔母は、３歳の女の子を抱いて逃げることもできず、一昼夜池につかっているところを助けられて、田舎へ連れて行かれたことを知り、１０日の日に、叔母に会うため、田舎へ行きました。その叔母は、目はつぶれ、頭はザクロのように割れて、何の手当てもできず、ただ水にひたしたタオルを当てているだけでした。そして、母が「助けてー」と叫んでいるのに、どうすることもできなかった。「ごめんね。すまなかった」と私に何度も言い続けました。それから４日後の１４日に、叔母は亡くなりました。

池につかっていた女の子は今は健在です。軍隊に入っていた叔父が、終戦と

同時に戻って来て、焼跡を調べてみると遺骨が出てきました。

何もかも一度に失って、悲しみなど通り越して、涙さえでませんでした。ただただ、明日の日をどうしたら良いかばかりを考えていました。

〔広島　入市　女　17歳〕
（28－0014）

【死亡家族の概況】

①	8／6	父	40歳	直爆0．5㎞	爆死	行方不明
②	8／6	母	35歳	直爆1．3㎞	圧焼死	行方不明
③	8／6	兄	12歳	直爆1．3㎞	大やけど	行方不明
④	8／6	妹	2歳	直爆1．3㎞	圧焼死	行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕出勤途中、500ｍの路上で爆死。

〔母・妹〕多分、家の下敷きになり圧焼死。

〔兄〕逃げ惑う中で、私と偶然会ったが、洋服は焼け、私に一言声をかけ、どこに行ったかわからない。私は足の怪我がひどく歩くことができず、おんぶされていたので……。でも、その時兄と一緒に逃げていればと、今でも残念に思います。4人の遺体も遺骨もないひどい状態です。

父、母、兄、妹に会いたい。地獄の中でどんな死に方をしたのか、それを思うと苦しい。今までも両親のことを思って、随分涙を流して来た。私が生きている限り苦しみは続くと思う。私だけが助かったことがくやまれて、「両親と一緒に死にたかった」と思う。素敵な両親でした。

〔広島　直爆1．5㎞　女　9歳〕
（40－0227）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 長男 ２歳 直爆０．５㎞ 爆死 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男〕外で遊んでいたらしいので、そのまま爆死。真っ黒く焦げてしまって、見るに忍びなかった。

あまりにむごい殺され方であり、これが戦争のなれの果てかと恨みました。

〔広島 直爆３．０㎞～ 男 ３５歳〕
（４０－０７７８）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 弟 １５歳 直爆０．５㎞ 不明 行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕崇徳中学３年生でした。その日、家屋疎開作業のため、小網町に早朝元気よく出かけて行きました。倒そうとした家屋の下敷きに、ほとんどの生徒はなったそうです。先生は元気な生徒の手を借りながら、「己斐に逃げろ」と指示され、下敷きになっていた子は、全員助けることができたと、自宅に帰られて翌日７日に亡くなられたと、助かった方に話を聞きました。弟のことは分かりませんでした。自分自身逃げるのが精いっぱいで、無我夢中で何も記憶していないとのこと。

母を捜し出したのが、５日目の朝、向洋小学校の講堂に、半身火傷で腕にウジ虫がわいて、着物は半分焼けてボロボロで、この世の人とは思えないような有様でした。危険状態の母より離れることができなくて、いとしい弟はそれ以来、捜してやることができず、重体でうめく最中も、いとしい我が息子のことを案じ続けておりましたが、どうすることもできず、何とか一命をとりとめました。

Ｓ．２１年春頃より、行方不明の弟を母と捜し始めましたが、遂にわからずです。

母が向洋小学校の講堂に収容されていた８月１０日に私が行ったとき、講堂内はいっぱいの被爆者で足の踏み入れる所もない有様でした。校庭の片隅に穴を掘って、毎日毎日亡くなった人を焼いていました。

老若男女を問わず、父の名を母の名を呼び、兄弟姉妹の名前を呼びながら、家族の来てくれることを待ちかねて、痛いよう痛いよう、助けて助けて、とただうめいていました。

幸いに、私は怪我もしていなかったのですが、皆さんに申し訳ないような辛い感じもいたしました。

弟はどうしているだろうか、どこかに収容されて、このように私たちの行くのを待っているのではないかと、どこかで元気に助かっているだろうか、じっとしていることが苦しく、家族の来ておられない人のお世話を手伝いすることで、弟への思いを慰めていたりもしました。

でも、毎日、あの人も、この人もと、どんどん亡くなって行き、病める母も胸を痛め、どんな状態であったか知りたいと今もそれのみ思っています。

〔広島　直爆２．０㎞　女　１７歳〕
（２８－００３９）

【死亡家族の概況】

①　８／６　母　５４歳　直爆１．０㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕登校して、留守番をしている母だけが、１人家に残っておりました。午前８時すぎでしたので、私を学校に送り出した後に、母が後片づけに炊事場で用事をしていたのだと思います。

父や兄、兄嫁たちが、すぐその日の夕方から夜にかけて、私や母をさがし歩いて死体を確認して歩きまわったそうです。

私のも、小学校に行って、学生さんのだったら誰でもよいから、仕方なく人のお骨を持って、母の下敷き（炊事場の下）になったお骨をお寺さんに持って行き、その時は私の位牌までも作ってありました。（私が歩けなくて、長い間、治療のために学校に収容されていましたものですから ── 私も死んだとあきらめていたそうです。）

母がむごい死に方をしましたので、私もそばにいておって、ともに母の側にいて一緒に死ねばよかったと、今でもいつも思っています。 ── でも、それでは母の供養をしてあげられませんので、自分の心を慰めては、鞭を打って、生き抜こうと努力しております。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１２歳〕
（２８－００５２）

【死亡家族の概況】

①　８／６　兄　２８歳　直爆０．３㎞　圧焼死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕行方不明ですから、遺体も遺骨もなく、いつまでも行方不明のままでもと、母と私とで死亡したものとして、比治山にできた市役所の出先にとどけを出しました。

私にとっては、父が早くに亡くなっていましたので、兄といっても父親と思うほど、頼りにしていましたのです。私１人で捜しても捜しても何も分からず、どうすることもできなかった。時が経つほど悲しみが大きくなって来て、生きていてくれたらと、どんなに思ったことでしょう。

〔広島　直爆２．０㎞　女　１９歳〕
（３３－００８６）

【死亡家族の概況】

① ８／６　義妹　１４歳　直爆０．５㎞　爆死・大やけど

② ８／６　義妹　１０歳　直爆０．５㎞　爆死・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義妹２人〕２人とも八丁堀付近で被爆し、一緒に広島駅の方向へ逃げたけれど、２人とも途中で倒れた。気がついたときは、駅東側の綿業の社長宅に収容されていた。そこも火災に追われて、次に東練兵へ移されて来たと言ってました。

２人とも全身大やけどしていて元の面影もなく、よく見ないと分からない状態でした。軍医さんの手当てを受けていましたので、他の人のようには苦しみませんでしたが、夜中に妹の方が、また、朝方姉の方が、２人とも死にました。

上記のような状態で、死ぬまでは一生懸命介抱したのですが、何分とも全身大やけどでしたので、とうてい助かることはないとは思っても、あまりにもむごたらしい。何でこのような目にあわなければならないのか、悔しさ、悲しさは、今日になっても当時のことを思い出せば、涙が止まりません。

原爆の悲惨さは、当時の状況を見た者しか分からないと思います。話だけを聞いたら、何とひどかったなあと思うだけだと思います。

〔広島　入市　男　２６歳〕
（３４－０２０５）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 義妹 １３歳 直爆１．０㎞ 爆死・大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い〕
〔義妹〕義妹△△△江は、親族一同総力をあげての捜索も空しく、最早帰らぬものと諦め、仮の法要を営んでいたところへ、突然上官の許しを得たと、兵隊が訪ねて来た。その兵隊の話によると、妹は、目を奪われ、体は黒焦げ、頭髪はチリチリ、皮膚は垂れ下がった姿で、人乞う、助けを求めて、道端に腰を掛け、必死の様子に、その兵隊は近くのトタンを集め、屋根を［に］して勤務についたが、後で現場へ行ってみたら、すでに死んでいたとのこと。他のたくさんの死者とともに火葬したと、遺髪のみを持参して下さった。

思うに、他のたくさんの被爆者とともに、被爆地の国泰寺町から逃れ逃れて、生家の両親の待つ我が家へと、比治山までたどり着いたものの、最早見えぬ目、よろよろと力つき、誰１人見守る人のないままに、悲しく寂しい思いで死んだものと思う。

原爆、何と恐ろしい兵器であろうか。目を失い、体は黒焦げになり、顔や体の皮膚は垂れ下がり、最もひどい人は、頭骨のみ、あるいは下半身のみの人、口あるいはお尻から吹き出たちょうどザクロの花のような赤い肉、２、３倍にも腫れ上がった人、馬。見えぬ目に救援を求めてさまよう人々。この有様はまさにこの世の地獄そのものであった。

死んだ妹も、まさか比治山下のそれも細道にいたとも知らず、早く見出だし、どうせ助からぬ命ながらも、せめて、手当て、求めたであろう水を与えてやれなかったことを思うとき、ただただ残念でならない。

〔広島 入市 男 ３７歳〕
（３４−０２０６）

【死亡家族の概況】
① ８／６　母　３９歳　直爆１．５㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕８月６日は炎に包まれ、家に近寄ることもできなかったので、７日の朝、まだブスブスとくすぶる中を、家の近くまで行ってみた。

家の形の通りに屋根瓦があり、その屋根瓦の間から、母の胸から上だけが見えた。頭髪は焼け爛れ、後頭に束ねたところだけ少し髪があり、女であることが分かるように焼けていました。口もとは半開きになっていて、前歯に金歯を入れていたので、その金歯で、紛れもない母の姿だと思いました。手は、両手をしっかりと組み合わせ、胸の前で祈るような姿は忘れられません。瓦を剥ぎとってみましたが、背中の上に大きな石があり、石の下から水色の服の切れ端、その服に血がついていたのです。明らかに下敷きになり、けがもしていたと思われます。逃れようともがいても、火の回りが早く、息があるのに焼かれたものと思います。家の中に母１人がいたのですから、誰も助ける人もなく、本当にむごい死に方だったと思います。

母であると分かっても、その遺体をどうすることもできず、立て札をして田舎に帰ったが、いつも気になっていたが、２５年経ってから市役所からの知らせで遺骨が返り、ホッとしたものです。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１３歳〕
（３４－０４６５）

【死亡家族の概況】
① ８／６　妹　１２歳　直爆・爆心地　爆死・大やけど　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕８月７日、水主町の川へ降りる石段で、友達と一緒で、全身火傷で横腹に負

傷していた。みんな寄り添って、上向きに死んでいて、死体の腹側は火傷のため、皮膚がガリガリになっていた。背側はウミでベタベタになっていたので、現地で火葬にして遺骨を持って帰る。

死に方がむごすぎる。６日の日に見つけていたら、助かっていたかも知れないと、可哀相であった。一番下の妹で、日頃とても明るい女の子であったので残念です。母と叔母さんが被爆して、半身火傷の重傷で、２人とも死ぬか生きるかの状態であったので、妹の葬式もできなかった。毎日毎晩の空襲のときは、遺骨を持って逃げ回っていた。

〔広島　入市　男　１９歳〕
（３４−０４８８）

【死亡家族の概況】
① ８／６　父　年齢ＮＡ　直爆１．３㎞　圧焼死　遺体で
② ８／６　母　年齢ＮＡ　直爆１．３㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
私の父母は、広島市東観音町２丁目で電気商をしておりました。ネオンは電気とラジオと書いてあったと思います。店の入り口にはＮＨＫラジオ指定店となっていたと思います。私が被爆にあって、父母はどのようになったのかと心配でたまらなかったので、私は妊娠５ヵ月でした。市内は毎日赤い火が燃えて、焼け野が原のようでした。道路もどのように歩いてよいやら分からないので、電車道を頼りに、舟入から市内東観音町まで、てくてく歩いて行きました。家は、その辺りは全部焼けて場所が分からず、困っていました。そしたら、貯水槽にかすかに名字が見えました。ああ、確かここだと、一瞬ほっとしましたけど、家は全部焼けていました。
〔父〕セメントのような重い物の下で真っ黒に焼けて死んでいました。

〔母〕炊事場で焼けて、お腹だけ少し焼けていないで、金歯を何本か入れていたので、母だということが分かりました。

こんなに黒焼けになるまで、どんなにか苦しかっただろうかと思い、私は泣けて泣けてどうしようもなく、もう足も重く、ぼうーとなってしまいました。これこそこの世の生き地獄と思いました。父母はどんな気持ちで死んでいったのでしょう。

あまりにも、むごすぎる死。病気なら病気に勝てなかったのだ、また、病気だったら看護もできたものを、と思えば、たまらなく、もう２度とこのようなことがあってはいけない。生きていてくれたら孫も抱いてもらえ、孫の成長も喜んでくれたのにと思い、親孝行もできず、あまりにもむごい死で、一生忘れることはできません。私の目に焼きついています。

〔広島　直爆２．０㎞　女　年齢不明〕
（３４－０５２８）

【死亡家族の概況】

① ８／６　父　６５歳　直爆０．５㎞　圧焼死　遺骨で
② ８／６　母　４５歳　直爆０．５㎞　圧焼死　遺骨で
③ ８／６　兄　２５歳　直爆０．５㎞　圧焼死　遺骨で
④ ８／６　甥　　５歳　直爆０．５㎞　圧焼死　遺骨で
⑤ ９／４　兄　１８歳　直爆０．９㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

私の家は、日本通運の紙屋町出張所でしたので、店の中には、使用人の方がいらしたようです。焼け跡には、きれいにカラカラになった骨がたくさんありました。肉親も何も分からないままに、骨は全部拾いました。

死に方がむごいのは、分かりきったことですけど、生きながらえて、火傷や怪我で苦しみ、いずれは死ななければならなかった人々に比べて、苦しみは一時だったのではないかと、ただそれだけが、救いのような気がします。

こんなことを書いている今でも涙が出ます。一番小さかった私のことを、両親がどんなに心配しながら死んだのかと、胸がつまります。

〔広島　入市　女　１２歳〕
（３４－０６４１）

【死亡家族の概況】

①　８／６　姉　２５歳　直爆２．０㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕勤務先の事務所で被爆し、窓辺だったので吹き飛ばされ、書類箱の下敷きになり、即死したそうです。あくる日、救護班の人が死体収容に来たそうです。その死体が行方不明になりました。市内のあちらこちら捜し、やっと県立第二中学校の校庭に集積されたのを見つけました（８月１２日）。生前の面影も無く、半ば腐りかけた死体。風船のように膨れ、紫色に変じた顔。足も手も赤紫にズルリと皮がむけ、無残な有様でした。ムシロの上にころがし、引きずって、校庭の隅にある砂場に持って行き、校舎の焼け残りの木を集め、死体を焼きました。夜が明けた頃、骨になった姉の遺骨をタオルに包み、何千何百と並んでいる死体に手を合わせ、１人で泣きながら校庭を後にしました。８月１５日、西条に引き上げました。

初めての肉親の無残な死。頼りにして来たただ１人の姉の死。１晩中、泣き明かしました。炎を上げて燃える死体と並んで、校庭の砂上に横になり、これからどうなって行くのだろう。日本は負けるのだろうか。姉の指から抜き取った、形見の指輪を左手にはめて、どんなことがあっても、私を守って下さいネ、と祈り

ながら……。今も、お守りのように指にはめています。今生きていてくれたら、いろいろ相談や慰め合い、私の人生も、もっと暖かい良い人生になるのではなかったかと思います。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２２歳〕
（３４−０８５５）

【死亡家族の概況】
①　８／６　次女　０歳　直爆２．３㎞　大けが　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次女〕生後５ヵ月の女の子であるが、家内が授乳をしているとき被爆し、頭部にガラスの破片２個を頭に受けて死亡した。救護所を捜しておる２〜３時間は泣いていたが、そのうち息をしなくなり、そのまま牛田の早稲田神社山の防空壕に避難しておった。夕方会えたので連れて帰り、翌日火葬したところ、ガラスの破片がかなり大きかった。可哀相なことをしたと今でも思い出す。

生後５ヵ月で可愛い顔をしていただけに、本当にむごい死であった。

〔広島　直爆３．０㎞　男　２９歳〕
（３４−０９１３）

【死亡家族の概況】
①　８／６　長男　１歳　直爆１．８㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕ギャーと言って泣いた声で最後でした。気がついたときは、もう大きな木の下敷きになって即死していました。可愛くて可哀相で、とても１人置いて逃げることはできませんでした。今生きていていたらといろんなことを思って、胸が張り裂ける思いがします。

なぜ、あのような悲惨なことで死ななければいけないのか、何も分からない小さな命を奪われたのか、被爆４０年の今日になっても胸が痛み、悲しみに耐えません。今生きていたらどんなにか幸せかも分かりません。子供を返して下さい。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２５歳〕
（３４－１２０７）

【死亡家族の概況】

①　８／６　次男　１３歳　直爆１．０㎞　爆死・大やけど　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔次男〕直爆死した△夫は、当日水主町に建物疎開に行き爆死したのですが、水主町の土手の所で、同じ二中の生徒に、苦しい中から「あの川の中で一緒だった。あそこの橋を渡った」と教えられ、橋のたもとに行くと、哀れな姿で、服はボロボロ、髪は焼け、顔は膨れて、皮が剥げて、むごい姿で、一言もありませんでした。

死に方がむごいので、もっと早く捜してやれば、どんなに会いたかったこと、どんなに怖かったことか、代わってやりたい気持ちでした。

〔広島　入市　女　３５歳〕
（３４－１５７７）

【死亡家族の概況】
① ８／６　父　３８歳　直爆０．８㎞　不明　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕遺体も遺骨もこの胸に抱くこともなく、私たち母子は、父がいたと思われる基町に行き、せめて土を持って帰りました。
父と隊が一緒であったという人にも会いましたが、その人が現場に行かれたときは、真っ黒い地蔵様のようになって、ブスブスと焼けていたとのこと。また、まだ息のある人は川の中へ、よろよろと入っていかれたとのこと。果たして父はどのようであったかと思うと、胸が張り裂けるようです。

母が、生前その時のことをよく口にしていましたが、父は二度目の召集が来たとき、口には出さなかったけれど、とても淋しそうで、その朝は床の中から、頭からスッポリ布団をかむって、なかなか出て来ようとしなかったそうです。
いよいよ家を出るとき、長男である僕の顔を、穴のあくほど見詰めて、後は、振り向きもせず行ってしまったとのこと。今にして思えば、これが今生の別れで、無念でなりません。

〔広島　直爆２．０㎞　男　１１歳〕
（３４－１９４４）

【死亡家族の概況】
① ８／６　義父　６２歳　直爆０．５㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義父〕焼け跡を１週間捜して、壁土の中から白い衣（袈裟）を着たままの、頭と腕、足のない遺体を発見した。木を集めてお骨にした。顔がないので、白い着物で義父だと思った。腐ってはおらず、魚の干物のようだった。

苦しんで死んだのだろうかと、いつも気にかかっている。

〔広島　直爆3．0㎞　女　23歳〕
（34－4102）

【死亡家族の概況】
① 8／6 妹 12歳 直爆1．3㎞ 爆死 行方不明
② 8／6 義兄 19歳 直爆1．3㎞ 爆死 行方不明
③ 8／6 義姉 21歳 直爆距離NA 爆死 行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕学徒動員で、建物疎開に従事していました。それらしき子供の姿を求めて捜して歩きましたが、全然見受けられませんでした。顔は焼け焦げ、赤黒く、また、膨れ上がり、母親が見ても我が子の見分けができぬくらいの変わりようでした。子供は見つかりませんでしたが、救急袋が見つかり、持ち帰りましたが、中の弁当箱は御飯が焦げていました。

遺骨として何1つありませんので、それを骨と思いお墓に埋めてあげました。

毎日毎日、広島全域を捜して歩きましたが、どうしても見つからず、ひょっとするとあの子は気のきいた妹でしたので、大人と一緒にどこか広島奥の方へ逃げていて、ひょっこりと帰って来てくれるのではないかと、一日千秋の思いで家族全員が待っていました。

今でもどのようにして死んで行ったのか、悔やまれてなりません。学校側の話では土橋付近で［建物］疎開に従事していたとのことで、直爆を受けて姿もなく吹き飛ばされたのか、火に包まれて焼け死んだのか、死に目に会えなかったことが、今でも残念でたまりません。

〔広島　入市　女　１６歳〕
（３４－４３４２）

【死亡家族の概況】
① ８／NA　兄　１３歳　直爆距離不詳　不明　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕山陽中学１年生は、たかの橋か水主町、中島町で被爆したと噂を頼りに、遺体を捜したが行方不明。

父母の悲しみを毎日見て、自分の生きていることが罪のような、やり切れない日々だった。

〔広島　入市　男　１１歳〕
（３４－５１５３）

【死亡家族の概況】
① ８／６　妹　１３歳　直爆距離不詳　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕爆心地より３００ｍくらいの所で、学徒動員中。遺体も遺骨もないので、全く分からない。
市立高女の１、２年生の学徒、先生、全員死亡。

何の楽しみも知らず、おいしいものも食べたこともなく、生まれてから原爆の

犠牲になるまで、１日も平和な日がなかった。

１３歳の死について、今でも無念で仕方がない。

妹たちのためにも、１日も早く核廃絶を。でなければ、未だに安らかに眠ることはできないだろう。

〔広島　直爆３．０㎞　女　１６歳〕
（３４－５２２９）

【死亡家族の概況】

① ８／６　夫　３４歳　直爆１．５㎞　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕８月７日、義弟が捜しに行ってくれたけど、９分９厘まで駄目だろうということ。１週間後、私が会社に行き、主人の机の側にあった骨を貰って帰った。はっきりはしないけど、その骨を納骨した。

生あるうちに焼けたとしたら、どんな思いがしたかと思うと、あまりにもむごすぎる。生きていてくれたら、私たち母子もどんなに幸せだったかと思うと、子供たちにもすまない気持ちでいっぱい。

〔広島　直爆３．０㎞　女　２９歳〕
（３４－５３３３）

【死亡家族の概況】

① ８／６　姉　１９歳　直爆距離ＮＡ　不明　　行方不明

② ８／６　妹　　５歳　直爆距離ＮＡ　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕不明。
〔妹〕内臓破裂により死亡。

不明の姉については、ひどい火傷であったと聞き、どんなに苦しく、また、父母を求め、水を求めて、淋しく路上で死んで行ったかと思うと、今でも涙が出ます。

妹は，腸が出ていたけど、平和であれば手術で助かっていたのにと思うと、戦争をしてはいけないと思います。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１６歳〕
（３４－５４９２）

【死亡家族の概況】

①	８／６	母	５４歳	直爆１．０㎞	爆死・大やけど	遺体で
②	８／８	叔母	ＮＡ	直爆距離ＮＡ	ＮＡ	ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕十日市町の電停で被爆（８日死亡の叔母の話）。横川の電車の橋の西側で遺体を発見（７日朝）。おそらく、火の中を這うようにして逃げたのだろう。両手、両脚、両膝が焼けていた。たまたま、母の近くにいて、生き残った知り合いの女性の話によると、６日夜、横川の電車の橋のたもとにいた母は、通り掛かった兵士に背負われて川端に下り、水を飲んだりして、再び橋のたもとに戻った。およそ２２時頃、声がしなくなったので、その頃が最後だったのではなかろうか、とのことである。

６日の夕方、母を捜しに出た家族や親戚の者は、横川の橋の東で、警防団に「危険だから」と言って進路を遮られ、捜しに行くことができなかった。学生で

市内の寄宿舎にいた自分が、母の変事を知っていたら、万難を排して救助に突進したのにと悔しくてならない。

もの言わぬ母の骸と大けがをした兄と、原爆の恐怖におののく家族のもとへ、燃えくすぶる市の真ん中を歩いて帰宅した。４０年前のことが昨日のことのように甦る。

〔広島　入市　男　１７歳〕
（３４－５６３９）

【死亡家族の概況】

① ８／６　祖母　５５歳　直爆０．８㎞　大けが・大やけど
② ８／６　妹　　１３歳　直爆１．０㎞　大けが・大やけど　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕８月６日の昼過ぎた頃、祖母が上半身のズルズルに焼けた状態で、大八車に乗せられて帰って来たそうだ（私自身、目が開かなくなって、床についていたため、見ることができない）。隣の部屋で火傷の痛さに苦しみながら、夜中に息を引き取った。

〔妹〕女学校２年生の妹が、８月６日に昼過ぎても帰って来ないので、母は心配で、鷹野橋や市役所方面へ捜しに出掛け、その道々で逃げた方向や収容されそうな場所等を訪ね、横たわっている女学生の顔も１人１人見て回ったそうだが、その日はがっかりした様子で、母は帰って来た。

翌日８月７日に、私の妹を大河小学校で見たとの知らせを知人から戴いたので、母はすぐに出掛けて行った。しかし、その時はもう火葬された後であって、△△△子と名前の入った鞄と骨が、淋しく残っていただけで、聞くところによると全身をひどく火傷していて、晩まで痛みのために苦しそうに泣きながら死んでいったそうである。

祖母には男ばかり４人の子がいたが、この戦争のために３人の息子を失っている。長男が私の父で、米屋をしていたが、米が配給制度になったため、商売ができず徴用され、慣れぬ仕事に従事していたため、頭に怪我をして死亡した。三男は、飛行兵で南方上空で戦死。四男は戦艦に乗り組み、南方洋上で撃沈されて戦死している。その息子のことを苦しさの中でも思い、「かわいやのー」「かわいやのー」と言いながら息を引き取って行った。

妹には何もしてやれず、もっと早く見つけてやっていたらと思うと、可哀相で、いつもそれが思い出される。

〔広島　直爆２．０㎞　男　１５歳〕
（３４－５７２５）

【死亡家族の概況】
① ８／６　妹　１４歳　直爆０．７㎞　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕旧県庁付近の建物疎開で被爆し、その近くの川まで逃れ、川に入水し、そのまま息絶えたものと思う。川の下を流れて行き、広島湾に入り、弁天島近くを通りかかった船舶隊に発見され、宇品の岸まで曳航され、派出所に届けられた。

私が妹を捜すため、似島へ渡ろうとして、派出所の入口に貼ってある妹の名前に気づき、妹を確認することができた。

〔広島　直爆３．０㎞　男　１８歳〕
（３４－５７９２）

【死亡家族の概況】

①	8／6	父	50歳	直爆0．6㎞	圧焼死	遺骨で
②	8／6	母	45歳	直爆0．6㎞	圧焼死	遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕骨や灰になって発見。

〔母〕ミイラ状に焼け焦げて発見。

［父は］書斎と思われる場所で発掘したが、足の骨も簡単に折れる程、長時間蒸し焼きされたと思った。

［母の］ミイラ状に焼け爛れている姿に、あまりにもむごさを感じ、その場から逃げ出してしまった自分の不幸さに今も悩んでいる。

〔広島　直爆3．0㎞～　男　16歳〕

（34－5797）

【死亡家族の概況】

①	8／6	父	49歳	直爆0．6㎞	圧焼死	遺骨で
②	8／6	母	40歳	直爆0．6㎞	圧焼死	遺骨で
③	8／6	叔母	40歳	直爆0．6㎞	圧焼死	遺骨で
④	12／NA	叔父	46歳	直爆距離NA	大やけど	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕爆心地から近かったので、家の下敷きになり、すぐ火が回り出ることもできず、見つけたときはもうきれいに焼けて、お骨になって、ただ腹の部分が食べた物が炭になっていました（父と分かったのは、時計、金庫の鍵）。

〔母〕石炭がいつまでもくすぶっていたので、もう捜す所もないので、木切れでつついていたら、頭のピンが見つかり、そこを捜してお骨を出しました（モンペ

の模様）。
〔叔母〕母と同じ所で見つかりました（モンペ　皮の財布）。

あまりにひどすぎる。まだまだ若いのに元気でいてくれたら。何も知らされていなかったので、税金のこと、事業のことで、生き残った私に皆ふりかかって来て、天国から地獄に突き落とされた。

〔広島　直爆２．０㎞　女　２３歳〕
（３４−５８３５）

【死亡家族の概況】

①	８／６	母	６６歳	直爆１．５㎞	圧焼死	遺体で
②	８／６	長女	３歳	直爆１．５㎞	圧焼死	遺体で
③	８／６	次男	１歳	直爆１．５㎞	圧焼死	行方不明
④	８／６	その他	７５歳	直爆１．５㎞	圧焼死	行方不明
⑤	８／６	その他	１２歳	直爆１．５㎞	爆死	遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母・長女〕自宅が倒壊し、焼けてしまったため、家の中で遺体で見つかりました。隣の人は逃げて助かったが、その人の話では、「お母さんが、助けてと何べんも言いよられた。子供さんの泣き声もしたけど、自分が逃げるのも精いっぱいで、助けてあげられなかった」と言われ、誰も助けに来る者もなく、母たちは死んで行った。

母は、手や足はなく、頭と身体だけが残っていた。

長女は、手や足はなく、身体だけが残っていたが、真っ黒焦げでした。

〔次男〕まだ誕生［日］前で、家の中にいたと思うが、とうとう遺体は見つからなかった。

〔その他〕１階が貸間になっていて、人が借りていた。その家族の孫とお婆さんが

亡くなられました。

私は、家にいなかったものですから、子供と老人だけだったのです。［例示］カ［子供を返せ、母を返せ］と申し上げたいですけど、できないことだと思いますので。

老人や子供をあんなむごたらしいことでと、考えれば考えるほど許せません。

〔広島　直爆１．５㎞　女　２９歳〕
（３４－５９０６）

【死亡家族の概況】

① ８／６ 父 ３５歳 直爆１．０㎞ 圧焼死 遺骨で

② ８／６ 母 ３２歳 直爆１．０㎞ 圧焼死 遺骨で

③ ８／６ 祖父 ５９歳 直爆１．０㎞ 圧焼死 遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母・祖父〕被爆後３９日間行方不明でした。似島、五日市、古市町等、避難先を捜したのですが、見つかりません。

３９日目に両親の住んでいた富士見町の焼け跡を掘っていたところ、焼けただれた釜と汁茶碗が出てきたのです。そしてその下に鼠色をした男性らしい骨が出て来ました。続いて白い女性らしい骨。そしてもうひとつ鼠色の骨が出て来ました。

実際に両親の死顔を見ていないので、今もって生きているような錯覚を起こします。

私の両親は、原爆で亡くなったのではありません。戦争で、原爆で殺されたのです。兄姉もなく、１人っ子の私は、原爆のために本当に１人になってしまいました。４０年前に刺さった心の傷は、今もって癒えません。

〔広島　直爆３．０㎞　女　１０歳〕
（３４－７０６２）

【死亡家族の概況】
①　８／ＮＡ　父　５２歳　直爆０．３㎞　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕安佐郡川内村温井部落の義勇隊（温井部落全戸の各戸１名）として、中島へ建物疎開のため動員されていた。中島へは３日目の日のことで、８月７日からは他の部落の人と替わることになっていた。

ジセンジのハナ［慈仙寺の鼻］で作業していたことが分かっていたので、母と本家の伯父（父の兄）が、８月７日に捜しに行ったが、遺体も遺骨も見つけることができなかった。

ともに義勇隊で行った人も、父と同じく行方不明の人が多かったが、ヤケドを負って家にたどり着いた人も、１人残らず結局全員死亡した。

子供は親を亡くしたら不幸になると言いますが、全くその通りです。

８月６日その朝まで、私たち家族は幸せでした。兄たち２人は出征し、姉たち２人も従軍看護婦として家にはいませんでしたが、私（１６歳）と妹・弟、そして母と、今思えば、貧しくとも本当に幸せでした。あの原爆一発で不幸のどん底に突き落とされました。

私の部落では、畑（広島菜）を作るために、広島市内にコエをもらいに、大八車で通っていましたが、父のいなくなった家では、それをする者がなく、嫌がる弟（中学２年）が、その役目をしなければならなくなりました。本当に可哀相な姿でした。そして、たちまち生活にも困ることになりました。

〔広島　直爆２．０㎞　女　１６歳〕
（３４－７１１８）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 母 ５２歳 直爆０．８㎞ 圧焼死 遺体で
② ８／６ 長男 ３歳 直爆０．８㎞ 圧焼死 遺体で
③ ８／６ 次男 １歳 直爆０．８㎞ 圧焼死 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
（２階づくりの家だった）
〔母〕赤煉瓦の壁が上に倒れて、血だらけ。私は煉瓦を１個１個取り除いて。母の首がとんでいて、死体は半焼け。
〔長男・次男〕首だけ２人の子供のは分かり、身体はバラバラ。大きな骨が、小さな骨を抱いているような形だったので、私にはハーンと分かった。
少し砂をかけて、そのまま（気持ち悪くて、とてもできなかった）にして置いたが、夢に出てくるので後で焼いた。

夫とは、夫婦喧嘩をしたわけではないが（大阪にいた）、母と子供のことを思うと、広島を離れることができなかった。
「原爆さえなければ」と、思います。
家族はバラバラ。人生も変わった。

〔広島 直爆１．５㎞ 女 ２７歳〕
（３４－７１８８）

【死亡家族の概況】
① ８／６ 祖父 ６６歳 直爆０．８㎞ 圧焼死 遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔祖父〕８月６日の朝早く（７時前）、上流川町付近の（旧ＮＨＫのあたり）建物疎開の後に、木片（薪）を取りに、母と２人で大八車で出かけた。祖父は、そ

れを家の中に取り入れていたとき被爆。当時、縮景園が避難場所とされていたので、そちらへ逃げたものと思っていたが行方が分からず、２、３日して焼け跡を掘り返してみたら、遺骨（腹の部分はまだよく焼けていない状態で）が出てきた。平素していた腹巻きの中の、爪切りや小さな鋏が出てきたので、祖父と確認した。

父が出征した後、祖父（母の父）は、私たち５人の面倒を見てくれた。早くから祖母を亡くしたそうで、その後１人で母を育て、後添えも取らずに仕事仕事で一生過ごした。

戦時中、食糧難の時代で、年寄りには食べることだけが楽しみだったのに（福屋の雑炊に何度も並んだり）、何の楽しみもなく、焼死した祖父が哀れだ。

〔広島　直爆１．０㎞　女　１６歳〕
（３４－７１８９）

【死亡家族の概況】

①　８／６　長男　１４歳　直爆　０．６㎞　不明　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕観音第二国民学校より、建物疎開で中島新町（供養塔のある所）に出ていて、遺体も遺骨も分かりません。

親として子供を取られることは一番辛いことです。

出かけるとき、新しい体操シャツを着て、「お母さん、帰るとき氷を貰って来て上げるよ」と言って出かけて行き、それが最後となりました。せめて姿でも見れば諦めに［も］つきますが……。

３年くらいは泣きました。未だに子供のことにいろいろ思いをはせ、我が子の年を数えます。今いてくれたら……、孫もいるのになーあと思ったり、主人が亡

くなったのも辛かったけれど、親として子供が亡くなった方が、悲しみが強いです。

〔広島　直爆1．5㎞　女　35歳〕
（34－7223）

【死亡家族の概況】

①	8／6	母	42歳	直爆0．9㎞	圧焼死	遺骨で
②	9／NA	隣人	19歳	直爆0．9㎞	NA	NA

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕お父さんが2日後くらいに焼け跡に行き、お母さんのお骨を見つけた。頭の部分は、バケツを被っていたとのこと。

お母さんを置いて逃げる直前は、お母さんと少し言葉を交わしており、はっきりとした声を覚えているので、火が回る間際まではしっかりしていたと思われる。

戦後は、お母さんの着物を見ても泣いていた。お母さんのことが頭から離れなかった。今頃になってお父さんが、「わしなら出してやれたかもしれない」と言うことや、自分でも、もう少し頑張れば助けられたかもしれない、という思いがあって、悪いことをしたような気持ちになる。

また、父は、身体障害者で、生計の柱はお母さんだったし、被爆後も、とても困った。

〔広島　直爆1．0㎞　女　19歳〕
（34－7240）

【死亡家族の概況】

①　８／６　母　４４歳　直爆０．８㎞　圧焼死　遺骨で

②　８／６　妹　　１歳　直爆０．８㎞　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕十日市の病院で死亡した。死体は黒焦げで、胸から上だけ残っていた。遺体は、判別できない程であったが、病院の先生が直前に確認していた場所に、ファスナーのついたワンピースのファスナーが残っていたので、多分、その遺体だろうということになった。

〔妹〕母親の所に、同様に黒焦げの頭だけ残っていた、ということである。多分、妹だろうということになった。母の胸の所に抱かれていたので。

父が、原爆直後入市して、母の遺体を捜し歩いて見つけ、黒焦げの死体をさらに焼いたが、自分で死に際に会ってないので信じられない思い、残念な思いが、いつまでも残った。

遺品として、母が持っていたハンドバックがあったが、その内のお札が人間の油で、ベットリ濡れていた。

あまりに突然に、むごい死に方をした母だが、その後何度も、母が生きていてくれたら、と思った。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１５歳〕
（３４－７２４８）

【死亡家族の概況】

①　８／６　妹　１７歳　直爆１．２㎞　圧焼死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕女学院で（幟町）動員で勤務中、校内で被爆しました（友人が１０日くらい

後に知らせて下さった）。遺体も遺骨もわかりませんでした。やさしく元気な妹で、２人姉妹ではげましあっていたのに、朝「いって来ます」といって、私は福屋百貨店の中の軍需管理部へ、妹は女学院へ行きました。あの笑顔はもうなくて、母や父もくずれた家の片隅で泣きくらし、昼間は皆でさがしに歩きました。私は発熱で倒れ、雨のもる家の中で床につき、どんな姿でも良いから帰ってきてほしいとねがいました。

８月６日午前８時１５分、あの光、あの時の人々の叫び、わけの分からぬ音、いき苦しさ、とにかく山の方へ逃げようと、同僚と河を渡り、山にのぼりましたが、にげながらも、父母は妹はどこでどうしているかと、頭の中はそのことでいっぱいでした。

家に帰り、父母もひなん所から帰り、夜になっても、妹が帰らず、天井のない家の中で、星を見ながら、妹の帰るのを両手を合わせていのりましたが、遺体も見つからず、あまりです。１８歳の若さ純真そのものでした。今思えば、私の方が年上なのに助かったのが申し訳なく思います。死のしゅんかん、どんなにか熱かったろう、苦しかったろうと……。

〔広島　直爆１．０㎞　女　２４歳〕
（３５－００８１）

【死亡家族の概況】
①　８／６　次女　１３歳　直爆距離ＮＡ　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次女〕１４歳で学徒動員に出され、当日も朝元気で「ニックキ英米をうちてしやまんオーオーオ」と両手を上げて、出て行ったまま帰ってこない。
また、家も焼けてしまって帰る所もない。毎日毎日、主人と２人で市内を捜し歩いたけど、あちこちに死がいはあるけど、娘は見つけられない。

涙ながらに１週間捜しましたが、とうとう骨も灰も見つけることができぬまま、家で拝んでおります。

学徒動員に行っている娘を残して、自分等が田舎へ田舎へと逃れて行っているとき、たくさんの人が血もくれになり、服はボロボロさけ、ハダカのままで、くるしそうに、水、水と言っておられましたが、どうしてあげることもできませんでした。

私は２歳の子をおんぶして、５歳の子をあるかせ、それも、はきものがないのではだしで、あの焼けた瓦のわれの上を歩むのですが、おそろしさに口がきけぬか、一口も小言をいわないで、引き受けて下さる所までついたのが、夕方の６時でした。とてもつらい目に遭いました。こんなこと二度とあってなりません。あまりにも死に方がむごすぎます。

〔広島　直爆０．５㎞　女　４０歳〕
（３５－００９６）

【死亡家族の概況】
① ８／６　父　５８歳　直爆１．５㎞　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕８月６日、兄は工場の休みで家におりました。父は、朝の出勤間際、ピカッと光ったので、家の中に入ったそうです。そうするとドガーと、一瞬にして、家の下敷きになってしまいました。父は、家の中心部におり、兄は廊下におりましたが、２人とも身動きすらできない状態だったそうです。そのうち、火災が発生して、隣近所からも、助けて、助けて、兵隊さん、兵隊さんと言う声ばかり、兄も死をかくごしたようでしたが、そのうち柱が１本動いて、兄だけは、なんとか出ることができましたが、どうしても父を助けることができず、そのうち、火が迫ってきて、父の「全部死んでは後の者が困るから、お前だけでも

逃げてくれ」という、父の言葉に、後ろ髪を引かれる思いで逃げたそうです。

生きながらにして、焼け死んだ父があわれでなりません。あまりにもむごすぎます。

兄にしても、自分だけ助かって、父を目の前で死なせてどうすることもできず、４０年たった今も父のことが、兄の心の中に重い十字架となって残っていると思うと、兄も可哀相でなりません。

〔広島　入市　女　１７歳〕
（３５－０１３８）

【死亡家族の概況】

①　８／６　父　４６歳　直爆距離ＮＡ　爆死
②　８／６　母　４５歳　直爆距離ＮＡ　爆死
③　８／６　妹　２０歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死　遺骨で
④　８／６　妹　１８歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死　遺骨で
⑤　８／６　妹　１６歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父母〕建物疎開で家を壊しに出ていたので何もない２人。
〔妹３人〕家の下敷きにて焼けてしまっていた。家の下敷きになったので、声をあげて助けを求めたけど、助けてくれる人がなかった。

父母は勤労奉仕で一番近い所で亡くなり、私の家は１．５キロくらいの所で２階建てなので崩れ、４人が一所に下敷きになり、一番下の妹が爆風でとんで、柱の下にならなかったので、這って出ましたが、外の３人は生きながら焼けました。３人が声を枯らして助けを求めたまま焼け死にました。どんどん後から焼けて来るので、［一番下の］妹は必死で逃げてしまったのです。

〔広島　直爆３．０㎞～　女　２６歳〕
（４０－０１９６）

【死亡家族の概況】
①　８／６　母　４３歳　直爆０．１㎞　不明　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕家の焼け跡に骨がないので、戸外に飛び出したと思われますが、その他は全然分かりません。捜すことには全力をあげました。

未だに死んだと思えぬのに帰って来ない。やはり周りの苦しんだ人々のようにむごい死に方をしたのでしょう。

〔広島　直爆３．０㎞～　女　１８歳〕
（４０－０３３９）

【死亡家族の概況】
①　８／６　次女　１歳　直爆１．２㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次女〕家の下敷きになり、やっと助け出してもらい、火の海を子供を抱いて逃げ惑い、川原まで逃れ、黒い雨にたたかれて、そのまま死亡した。満潮になるというので、畑の中に連れて行かれたが、救助に来てくれる人もなく、子供をそのまま畑の中に置いて逃げました。

人間らしく何もしてあげられなかったことと、自分だけ助かったことが、何か罪を背負ったように思われて、１日として、冥福と自分の罪の消滅を願わない日はない。

〔広島　直爆１．５㎞　女　２７歳〕
（４０－０３９７）

【死亡家族の概況】
① ８／ＮＡ　長女　年齢ＮＡ　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕生前の面影もなく、大やけどで死んでいた。

死に目にもあえず、もっと早く見つけてやっていたら。
しかし、どうすることもできなかったであろう。
自分も余命を安らかに過ごしているが、長女の死を思い出さない日は、母として１日とてない。
ご仏壇には毎日、喉が乾いて水を求めたと、人から聞くため、水とお茶は欠かさず上げている。

〔広島　入市　女　３０歳〕
（４０－０８５０）

【死亡家族の概況】
① ８／６　父　３８歳　直爆１．１㎞　圧焼死　遺体で
② ８／６　母　３４歳　直爆１．１㎞　圧焼死　遺体で

③　8／6　妹　13歳　直爆0．5㎞　爆死　　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母〕建物の下敷きで火災のため焼死し、生前のおもかげもなく、掘り出して火葬した。

〔妹〕建物疎開の学徒動員で行方不明で、遺体も遺骨もありません。

建物の下敷きになり、母と言葉をかわしたのですが、自分だけようやく出られ、母を助けだせなかったのが、今でも残念でたまりません。

〔広島　直爆1．5㎞　男　15歳〕
（43－0125）

Ⅱ．2週間以内の死（8月20日まで）

【死亡家族の概況】

①　8／6　夫　　40歳　直爆0．5㎞　圧焼死　　　　　遺骨で

②　8／7　義姪　24歳　直爆0．6㎞　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕爆心地から0．5㎞の土橋にあった自宅の焼跡へ、8月7日捜しに行き、瓦礫の間から、ほとんど白骨化した上半身を発見したが、女1人どうすることもできず、頭蓋骨を手ではずし、2片ハンカチに包み、己斐町の疎開先へ持ち帰った。現在その骨片を墓に埋葬している。

〔姪（夫の兄の1人娘）〕勤務先の中国配電（現中国電力）に出勤のため、己斐駅から市電に乗り、日本銀行付近で被爆、顔面、上半身の大火傷の他、アゴ、腕

などガラスの破片で骨の見えるような怪我をし、日赤病院に収容されていることを、同僚から知らされ、夜おそく迎えに行き、己斐町に連れ戻る。

頭髪、眉毛、睫毛まで焼け焦げ、判別のつかない状態であったが、前歯の金冠と、大声で名を呼んだとき、「ここよ」と応答、やっと確認した。医師の治療も受けさせられず、両親に知らせるすべもなく、８月７日夜９時絶命。翌１０日、近くの山に運び、家族で火葬にした。

夫の２片の骨と姪のと２人分のわずかな骨を持って、県北の郷里に引き揚げた。（姪の被爆の状況は、意識のある間、腫れ上がった唇で、とぎれとぎれに話してくれた）

夫は、爆風によって倒壊した家の中から、必死で逃げようとしながら、動けぬまま、一瞬の間に火に焼き殺されたものであろうと考えられる。

そのむごい苦しさを思うと、今も涙がこみ上げる。夫が生きてさえいてくれたら、私も子供たちも、あのような辛い生活を経て来なくても良かったであろう。

そしてあの美しかった若い姪が、お化けのようになり、悶え苦しんで死んで行った残酷さ、哀れさ、どうして忘れることができよう。

〔広島　直爆２．０㎞　女　３４歳〕
（２８－００２９）

【死亡家族の概況】

① ８／６　兄　２５歳　直爆１．０㎞　不明　行方不明

② ８／７　姉　２９歳　直爆０．５㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕８月７日、親切な知らぬ人の知らせで別院前の電車の中にいる姉を、家は焼けたので三滝病院の橋の下に連れて帰りました。全身ひどいやけどでまるでボロ布のたれ下がったようでした。のどがかわくようですが水は飲ますなとのことで、青いトマトをあげるとむさぼるように吸っていました。芸備銀行の所に衛生隊が来ているので広場で順番を待つ間に息を引き取りました。何一つ手当

ても出来なかったけど、死に目に会えただけでもよかったのだと思うようにしています。

〔兄〕六部隊の野砲に召集され、時間的にみて隊内で被爆したのだろうと思います。

左官町の停留所で被爆。電車の中で一晩中過ごし、死人の中でどんなに私を待ったろうと今でも胸が痛みます。そばに小川が流れていたのに、存分に水を飲ましてあげたかった。

〔広島　直爆１.５㎞　女　２１歳〕
（３４−５１３３）

【死亡家族の概況】

①	８／６	長男	１２歳	直爆０.７㎞	爆死	行方不明
②	８／７	夫	４９歳	直爆１.５㎞	大けが	遺骨で
③	９／６	長女	１８歳	直爆０.８㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕１２歳の長男は動員学徒として〔爆心地から〕７００ｍの戸外で先生、お友達３６９名〔と〕あの日の青空に吸いこまれて、この世で再び見ることも声も聞けない。傷ついた父母は現場にかけつけることも出来なかった。あの炎の中でさぞ〔どんなに〕父を呼び母を呼んだことか。にげ行く友に手をさしのべて倒れた、その手を取ってやれなかった切ない思いは忘れられない。遺体もなく、遺骨もなく、面影だけは母の胸に生きてある。

〔夫〕主人は職場で大怪我をして戸外で倒れているのを、広島の丹那方面の学校に運ばれ８月７日に死亡。箱に納められた遺骨を数日経って役所の方の手によって渡された。うすれゆく意識の中で家族を思い、自らの４９年間をどのように思い浮かべたことかと、胸痛む思いであった。戦争とは。

〔広島　直爆2.0㎞　女　43歳〕
（34－0004）

【死亡家族の概況】
①　8／7　母　41歳　直爆距離NA　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕水をくれと言っていた。ひどいやけどだったようだ。私が家に帰った時（8／8）は家に棺があったが、見ない方がよいと言うので見なかった。

仕方がないとは思うが、死ななくてもよい人まで死んで、補償をちゃんとしてほしい。私は死んでもよいが、お母さんには生きてほしかった。

〔広島　直爆1.5㎞　女　15歳〕
（22－0335）

【死亡家族の概況】
①　8／7　父　63歳　直爆1.5㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕私は死に目にあっていませんが、姉の話に父はやけどを負いながら自宅まで帰り、姉といとこ（父の弟の子）を救い出し、母と4人で縮景園（すぐ裏）の竹やぶに入り、川に浸ったり（燃えひろがる火勢に耐えかねて）翌日暑い最中に「寒い寒い」と言って息絶えたそうです。

死者は早く処分せよとのことでマキや油が配られ、焼跡の石ウスの上でやき、兵隊さんの落とした鉄かぶとにお骨を入れて葬ったそうです。むごいことです。

生きていてくれたら！　７人の娘にそれぞれ女学校までの教育をつけ、これからというのに残念です。

〔広島　直爆２.０㎞　女　１８歳〕
（３３－００３２）

【死亡家族の概況】

①　８／７　長女　２１歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長女〕常盤橋の河原にいるのを見つけられたが、皮膚は全身ボロを下げたような状態、手足の爪は全部ぬけていた。身体中に蛆がわき、血膿が出ていた。担架にのせることも大変であった。つれて帰り、私の膝をくずしてだいていた。「お母ちゃんーお兄ちゃんー」という言葉が最後だった。

あれほど水をほしがったのに、あげられなくて可哀想だった。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　４４歳〕
（３４－５０６９）

【死亡家族の概況】

①　８／７　姉　２０歳　直爆距離ＮＡ　不明　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕もうさがしても無駄だと思っても何日も市内をさがし回った。結局、何週間も後に大野浦の救護所で亡くなったことが知らされ、遺骨を受けとった。名前が少し間違えられていたが、本人に違いない。

たぶん大やけどかひどいけがをして、市外の救護所まで運ばれたと思う。翌日死んだと記録されている。本当にかわいそうだと思うが、当時の私には両親の悲しみが非常にこたえた。

〔広島　直爆３.０㎞　男　１３歳〕
（３４－５２０４）

【死亡家族の概況】

①　８／７　姪　２０歳　直爆０.３㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姪〕主人の姪で２０歳の娘でした。中国電力に勤めていて、出勤の途中電車の中で被爆（紙屋町）。電車から投げ出され、顔にヤケドをしていた。練兵場に行き、ころがっていた。古田町の家に帰りたい一心で、歩いたりはったりして己斐まで帰り、そこから車（大八車）で連れて帰っていただいた。大変に苦しみ、もだえ、７日亡くなった。

平生元気な娘が２日の間に全部が止まるのですから、それは、見るにたえないような苦しみでした。古田小学校からお医者さんに来ていただいても、ただやけどの手当てだけでどうすることも出来ませんでした。

２０歳の若さで楽しいこともなく、戦争というむごたらしい犠牲のため、こんなにも苦しく死んで生きました。二度とこんなことはあってはいけないと思います。

〔広島　直爆3.0㎞～　女　20歳〕
（34－5856）

【死亡家族の概況】
① 8／7　妹　13歳　直爆距離NA　　　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕建物疎開で家屋の下敷きになったのか、腰が砕けていて、よく己斐まで逃げられたものと思いましたが、案外、誰かが己斐小学校の理科室に運んでくれたかも知れません。妹が寝かされた理科室は、人体より滲みでた油と血でペッタリとなっていた。私は母と協力して大八車に乗せ、己斐川まで運び、船で大野村に帰りました。妹は言うにおよばず、積まれた遺体は、血の海に沈む地獄の世界でした。

〔広島　入市　男　17歳〕
（34－6184）

【死亡家族の概況】
① 8／6　弟　14歳　直爆距離NA　不明　　　行方不明
② 8／8　弟　12歳　直爆距離NA　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟①〕行方不明。
〔弟②〕原爆投下とともに川に逃げ、その後やけこげた体をあちこちと運ばれ、最後に階行社の所へいるとの連絡をうけ、父と近所の人がつれに行き、7日午前

４時すぎ、大八車にのせられて弟ともう一人△△君と帰ってきました。その姿は制服は焼けてボロボロになり、手の指のつめははぎとられ、５本の指よりぶら下がっていました。制服をハサミを入れて切ってみると制服の下は大火傷で、家に帰った時はすでに脳をおかされて、いろいろなことを口走っていました。時々正気に返り、「僕達は一機の飛行機にやられたんよ。いま死ねば戦死よネ。日本は絶対に勝つよネ、海ゆかばーー」「隣の小父さんに会ったけど、連れて帰ってやると言っていつまでたってもつれにきてくれんかった。△△くんは連れて帰ってあげたよネ」（隣の小父さんは奥さんと娘さんを捜しておられました）「〇〇兄ちゃんは帰ったん？」「僕らは先生が川にとび込めといわれ、みんな川へとび込んだんよ」……つめがはがれたのはその時川からはい上がる時のものでした。母、姉と共に看病し、父は明るくなるともう一人の弟を捜しにー。母はあまりに変わり果てた弟の姿に腰をぬかし歩くことが出来ませんでした。「水をのませて」「水をちょうだい」と言うのを、飲ませると悪いということでなだめすかしてあまり飲ませず、そのうちにだんだんと黙り、もう一人の弟を捜しに出た父をまたずに８日午後３時前、１２歳の短い生涯でした。

死に方がむごすぎる。

〔広島　直爆2.0㎞　女　１６歳〕
（３４−０１０２）

【死亡家族の概況】

①	８／６	叔父	２８歳	直爆０.３㎞	爆死	遺骨で
②	８／６	従妹	１２歳	直爆０.３㎞	爆死	行方不明
③	８／８	叔母	２４歳	直爆０.３㎞	大けが	遺骨で
④	８／ＮＡ	いとこ	０歳	胎内	その他	ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

叔母達は我が子を田舎に連れていくため、紙屋町のバス停にいました。その時被爆して子供〔従妹②〕はどこかに飛んでしまい、叔父〔①〕は大ヤケドですぐになくなり、叔母〔③〕は頭にケガをして、お腹に子供〔いとこ④〕がいたため、産気づいて、兵隊さんが注射をして子供は産まれたそうですが、その後ぐったりして子供も叔母もなくなったそうです。

もっと早く見つけて上げてせめて畳の上で死なせて上げたかったと思います。私の一生の苦い悲しい思い出です。

〔広島　直爆２.０㎞　女　１８歳〕
（１３－１４－０２９）

【死亡家族の概況】

①	８／７	夫	年齢ＮＡ	直爆距離ＮＡ	大やけど
②	８／８	次男	年齢ＮＡ	直爆１.６～２.０㎞	大やけど
③	８／８	長女	年齢ＮＡ	直爆１.６～２.０㎞	大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕会社に行く途中にあった。（子供が）心配で帰ってきた。顔の皮がひきつっていてみられたものではなかった。千田町小学校へ避難、翌朝起きて主人をさがしたら息もとぎれとぎれで、長男（学童疎開）のことを気にしながら１０時頃亡くなった。

〔次男〕頭の皮、ぐるっとむけてしまった。

〔次男・長女〕うわ言を言って、その晩（８日）亡くなった。

薬もなく何もすることができなかったことがなさけなかった。子供をおおて〔背負って〕やることもできんかった。

〔広島　直爆２.０㎞　女　３５歳〕
（１２－０２２３）

【死亡家族の概況】
① ８／８　父　６２歳　直爆１.３㎞　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕雑魚場町に勤労奉仕に出かけ、全身ヤケドで目だけギロギロ、体には何もつけていません。頭毛はやけてもじゃもじゃ、体は２倍にはふくれあがり、子どもかわいさにわが家までたどりついた。私もとっさには誰かわからず、声だけは父でした。近くの博愛病院に入院して、私達３人の名前を呼びながら死んだそうです。後で死亡届を交番にもらいにいった時、そこのおまわりさんから聞かされました。

私達子ども３人は似の島の収容所に入りました。下の妹はやけどがひどく、私も３日間くらいは寝ずに看病しました。どの人も水水水と苦しい声でのうめきです。学徒動員の子どもがとくに多く、父と同じように目だけギロギロ、荷物のエフ〔ママ〕をつけられむしろの上に横たわった様相は、まさに生き地獄です。死に方があまりにもむごすぎます。水と言われても、あまりのませると死ぬのでのませてはいけないと言われました。どうせ命のないものなら十分にのませてあげればよかった、とくやまれます。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１３歳〕
（２３－００８０）

【死亡家族の概況】

① ８／８　長男　１２歳　直爆1.8㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕遺体は両親や主人達の手でくずれた家の木をひろい集めて遺骨にした。

長男は学業成績がよく前途を楽しみに期待していました。大やけどをして帰って来ても教科書がどこに飛んでいったかわからないと言って残念がっていた姿が深く目にうかんでまいります。

当時、毎日２時間勉強で、後は工兵隊が白島九軒町あたりの密接した建物をこわした後片づけの作業に、白鉢巻をし教科書をもって出向いて行く途中でした。出かけて３分か４分ぐらいたった時でしたから、饒津神社のガード近くだと思われます。後ろから日の光〔閃光〕にあたったのでしょう。頭の上は丸焼け、鉢巻のあとがくっきりと残り、両手、両足とも４、５㎝幅に２０㎝程度の長さに皮膚がぶら下がり、木の皮をえぐり取ったような状態でした。

無念なのは前途のある息子を犬死にさせられたことでございます。今生存していましたら５２歳、男盛りです。私も安心した余生がおくれましたでしょうに。

〔広島　直爆３.０㎞　女　３２歳〕
（２６－００３８）

【死亡家族の概況】

① ８／８　夫　２３歳　直爆距離ＮＡ　大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕６日夕方捜しあてた時は、顔面半分火傷し、背中にこぶしが入る位穴があいて、やけただれていた。気持ちはしっかりしていた。７日昼頃から発熱、食欲はなく、水ばかりほしがった。夕方軍医に診てもらったが、火傷に油薬をつけ

ただけ、苦しさにうわ言を発するようになった。

８日、午前中黒緑色のものを吐き、午後便をしたが真黒いものだった。その後、気違いみたいな事を言い出して皆を困らせた。苦しかったと思うけど、家族に心配させまいと、気丈にふるまっていたのでしょうが、どうして上げることも出来ず、ただ見守っているしかないじれったさを痛感するのみ……。夜になる頃は、正気にもどっていた。しきりに今後の事を心配していた。すやすや眠っているので、少しはらくになったと思われたのに、２４時に遂に帰らぬ人となった。

そばに付いていながら、何もして上げられなかったこと。水をあまり飲ませてはいけないと聞いていたこと。この２点は、時が流れても心から消えることはありません。

〔広島　入市　女　２１歳〕
（３４−０１１８）

【死亡家族の概況】

①　８／８　母　年齢ＮＡ　直爆１.２㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕雑魚場町（市役所裏）へ建物疎開に婦人会から出動、午後になって全身ヤケドをして手も水ブクレになって帰り、額の髪の毛も焼けてちぢれ、上衣は襟と袖口だけ残ってあとはボロボロ。ワカメのようでした。モンペも破れてなく、白いパンツだけ残っていた。胸には白いハンカチを入れてたのでそのまま残っていた。

８日の朝から急に苦しみだし、ハキケを訴えていたけど、もう「はく物」もなくはげしい苦しみようでした。そして７時すぎ、苦しみ疲れたように、力なく眠るように、父と話をしながら逝きました。死ぬるまで気は確かでしたが、

死ぬ間際には口がもつれていました。

〔広島　入市　男　２６歳〕
（３４－１００９）

【死亡家族の概況】
①　８／８　弟　１４歳　直爆1.0㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕８月７日に今の広島大学病院（元兵器廠）の所へ、一人で行ったのか、誰かに運ばれたのか、草むらに横たわり、虫の息でいたところを親や姉達の捜す声で起き上がろうとした。弟とは思えぬほど変わり果て、スイカ位に大きくはれていた頭は、戦闘帽の跡がくっきりと、毛穴だけが見えていた。後ろはズルズルに焼けていた。口の中は緑色に焼けただれていた。学生服はボロボロになり、ベルト（厚い皮）は焼けて、よじれていた。食べ物の無い時だったので、弁当箱、弁当箱がないと言っていた。直撃弾を受けた、アメリカをやっつけてやるんだと言いながら死んでいった。８月８日午後５時。

食糧事情の悪い時だっただけに、死に方がむごく短い命で、私達の身代わりだったのだと、可哀想でたまらない。母もあの子がいたらと、死ぬまで悲しんでいた。薬といって何もなくて、せめて油をぬってあげた位でさぞ苦しかっただろうと思う。

〔広島　救護　女　１９歳〕
（３４－４１４５）

【死亡家族の概況】
① ８／８　長男　１３歳　直爆０.７㎞　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男〕学徒で八丁堀辺で被爆したらしく、早稲田神社の上の方まで逃げていて、８日朝息を引き取ったらしく、元工兵隊のあったという所に死体が集められた所に我が子に会われた。別れた時のパンツ、シャツ等、学年、姓名を書いていたので警官に届けて、牛田公園広場に親類の者と運び、「そこらに転がっていたこわれた家の木をもらって」お経をあげさせていただき、３人で荼毘させてもらう。公園はその炎で天もこがすようでした。

①半ちぎれのズボンをしめて、靴は片方、顔は笑っているよう。額は高熱のようで、生きているようで幾度名を呼んだことだろう。どこか致命傷は？　体を伏せてみたら、背はズルリ、すでに悪臭、頭髪は頭半分下は剃り取られたよう。手は倍位に腫れていた。

②３時半以降は空襲の恐れありと、火を消すように命令〔され〕、土をかけて、翌９日土をのけてまた火をつけ、骨にして持ち帰る。

１ヵ月余り、あきらめがつかず、せめて２日間生きていた時の様子、言葉が知りたくて、いろいろな情報によって幾度か牛田方面をさ迷い続けたことでしょうか。

〔広島　入市　女　３７歳〕
（３４－４５１６）

【死亡家族の概況】
① ８／８　長女　１５歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕地元の警防団や近所の方々の救出で学校に収容された娘は、意識がはっき

りしていただけに、もだえ苦しみ、亡くなりました。罪のない者がなぜこんな仕打ちを受けなければならないのか？　生への執着も実らず、若くして散った娘に、当時は号泣したものです。

痛みや苦しみが分かちあえるものなら、私達は代わってもやりたかったのです。子供を失った悲しみは、その体験をした者でないと分かりません。それも普通の死に方でなく、被爆死という、このことは死んだというより殺されたのです。

〔広島　入市　女　３６歳〕
（３４−５０７３）

【死亡家族の概況】
①　８／８　兄　１５歳　直爆１.７㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕学徒動員で、白島の建物疎開に行っており被爆した。顔は大きくはれ上がり、背中も皮がなく、身がただれ、両腕も肉のみ、特に両手は、クラスの全員を引き起こし、それぞれの自宅方面へ向かわせたとかで、骨が出るほどの深い火傷、わずかに腹部が皮がついているだけであった。横川の長崎病院へ７日朝、両親が連れて行ったが医師はなく、残壕の中で８日朝、２時１５分に、自分の部下である級友に「家に帰れ、お前はこっちだ」とうわごとを言っていたのが、ふっと絶えた、と母が語ってくれた。

８月６日、夕方に、兵隊さんに全身に油をぬってもらい、自力で古市まで帰っているところを知らせを受けた両親が荷車をひいて迎えに行ったが、玄関に入った兄が、朝と全く違った姿で帰ったので、体中が恐怖でしびれ、動けなくなった。あの恐怖と６日夜の「痛い、痛い、死ぬ。のどがかわいた。△子、水を持っ

てこい」と叫んだ声が今もどこからか聞こえてくる。思い出すたびに今も涙が出る。さぞかし痛かったろう。あのがまん強い兄が、眠りもせず、苦しんでいた。水すら飲ませるなと聞き、井戸水を湯のみに入れ、うろうろしたつらさが忘れられない。この世の生き地獄である。

〔広島　救護　女　１１歳〕
（３４－５７６８）

【死亡家族の概況】
① ８／８　母　３８歳　直爆０．５㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕全身やけどで家に帰っていた。（私が帰ったのが午後５時ごろ）救助作業をしていたため、薬を共済病院の知り合いの看護婦さんから少しもらって、全身（とくにひどい部分）にぬり手当てをする。痛みをやわらげるため、海水をしゃふつさせ、氷を元宇品の製氷会社でもらい、一晩中しっぷする。翌日、くすりをはりかえるが、くすりがないため家にあったホーサンなんこうをつける。

次の日、軍医（外宿していた将校の知人）に診察してもらい、注射など手当てを受けるが、もう助からないだろうと言われる。夕方いろいろ遺言を残して息をひきとる。８月９日の晩、私がひとりで火葬する（一晩中かかった）。

同じ全身やけどの弟の手当てに専念。２１年の春までかかって、やっと一命をとりとめ安どした。（頭髪はぬけ、骨と皮にまでなった）（やさい、くだものの汁をのませて、なんこうを毎日はりかえてなおした。うじが１２月頃までわいた）

ことばにならない。ただ無念でした。

〔広島　直爆3.0㎞　男　16歳〕
(34－5783)

【死亡家族の概況】
① 8／8　母　34歳　直爆1.0㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕とても健康な人でしたが原爆にはかないませんでした。真っ白に薬を塗られて、赤身が出て、日赤の門の所で、ころげていました。7日の夜、父が見つけて家に帰る途中、暁部隊で看病してもらいました。私の顔を見て涙をこぼして、みんな無事かと聞きました。私が「ウン、無事よ、みんな、おばあさんの所へつれて行った」と言うと涙を流して「えらかったネ」とほめてくれました。何回か水、水と言いましたが、水をのますと死ぬと言われて水をのましませんでした。何か一生懸命私に話しましたが、言葉にならず息を引き取りました。

死に方がむごすぎます。息が切れたかと思うとまた、何やら口をあけて話しかけ、また、息が切れ、口をパクパクあけて話しかけ、3、4回くりかえしてとうとう息を引き取りました。とても苦しそうでした。

〔広島　直爆3.0㎞　女　13歳〕
(34－7075)

【死亡家族の概況】
① 8／8　長女　2歳　直爆1.6㎞　不詳　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕背中におんぶしていて、死んでいた。

自分も実家（青崎）まで歩いていくのがせいいっぱいだったので、子供が背中で死んでいるとは思わなかった。自分も寝込んだため、誰も知らせてくれなかった。死んでいると聞かされたとき（１ヵ月後）ショックだった。

〔広島　直爆２.０㎞　女　年齢不明〕
（３４－７１４０）

【死亡家族の概況】
① ８／８　夫　２６歳　直爆２.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆した祖父が捜しだしてくれましたが、焼けただれて口もきけないし、本人の確認は名ふだでした。皮膚はボロ布のごとくぶらさがっていました。被爆後３日目に死亡。祖父が自分の手でたきものを集めて火葬した。

死に方は地獄。思い出したくない生地獄。自分も死んでこの世をのろいたかった。

〔広島　入市　女　２２歳〕
（４０－００８３）

【死亡家族の概況】

① ８／８　父　５６歳　直爆1.３㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕ひどいやけどとけがで、ほうたいでぐるぐる巻いたまま傷口に次々とうじ虫がわき、とても苦しんで、３日目に警報で弟と２人防空濠に入って出てきた時は、もう息を引き取っていて死に目にあえませんでした。

とても元気な父だったのに。あの体でよく私達を捜しに来てくれたと思った。あまり父が苦しみ、その無残な姿が見てられなくて、兵隊さんが通るたびに、「父を殺して下さい」と叫びつづけました。骨を入れる箱もなく、何もしてやれなかったのがくやまれます。

〔広島　直爆３.０㎞　女　２１歳〕
（４０－０７０６）

【死亡家族の概況】

①	８／８	夫	３０歳	直爆０.８㎞	大やけど
②	８／２１	義姉	ＮＡ	直爆２.０㎞	大やけど
③	８／ＮＡ	姪	ＮＡ	直爆距離ＮＡ	爆死

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕建物疎開のため市役所付近で被爆。全身火傷（皮手と皮ぐつのとこだけやけてない）で自宅にたどりつく。７日に市のほうから病院につれていくといって兵隊さんがむかえにきたが、私はたすからないから、他の人をつれていくようにといってました。８月８日、唯信寺にて亡くなりました。

全身火傷でしたので、油をふとんにまいて寝かせました。ただ息子の名をなき

さけび、死んでも死にきれない思いだったでしょう。苦しんでいましたが何もしてやれなく本当に残念です。生きていてくれたらと今でも当時を思いだします。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２７歳〕
（０１－０１１８）

【死亡家族の概況】
① ８／６　妹　２歳　直爆１.０㎞　大やけど
② ８／９　弟　１１歳　直爆１.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕３秒位前に弟に抱かれて戸外に、その瞬間全身やけどの傷をおい、全市の焼ける火と人波に追われて逃げまどう間に、偶然にも父と縮景園の中で会い、ともに２人共、火ぶくれになりながら妹を背負った弟と２人が死寸前の出会いになり、３歳の妹は父の腕の中で息を引き取りました。
〔弟〕父と一緒に火に追われて逃げ、東練兵場の私達の所に来て、８日の一夜中火傷の痛さに苦しみながら、薬も何もなく、手当てのしようのないまま、９日未明亡くなりました。何日も何日も死骸を焼く煙が続き、死者のダビにふすので遺骨もありません。

全市全焼の真っただ中で火傷をおい、父を捜し、母を捜して妹を背負い、群集に追われ追われて波のように人の流れに逃げていたと思うと、どんなにか痛い傷のこと等感じることが出来なかっただろうと。また、父母に出会っても、つける薬一つなく、手当てのしてやれなかったつらさに、私の傷も出血多量で瀕死の身でしたが、ほんとうに可哀想な気がします。お水、お水と水を求めながら死んでいった家族の思い出をかたりたくない気持ちでいっぱいですが、語りつくせないことばかりです。

あまりにむごい地獄のような出来事なので、その中から生き残った広島の本当

の生き残りの人間にとって、原爆塔の碑文（あやまちはくり返しませぬから）は、いつも疑問に思います。日本にとって高度な立場の人達から見た平和への願いからの（あやまち）は原爆死者にはあまりにも程度の高い言葉だから、４０年すぎた今でも、日常は忘れて生活していますが、８月６日、あの碑文を聞くと、腹立たしい気持ちになります。

〔広島　直爆1.0㎞　女　１２歳〕
（３４−１１０１）

【死亡家族の概況】

①　８／６　父　４５歳　直爆０.５㎞　圧焼死　　遺骨で
②　８／９　弟　１３歳　直爆０.５㎞　大やけど　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕軍属として、軍人集会所、下士官船舶集会所、軍人、船舶宿泊所、市内にあり、広島では初めてのこころみとしてＳ１７．１０．頃より経営に当たり忙しく働いていました。それで従業員の方が、戸坂に被災してこられ、父の最期を聞くことができましたし、８日に遺骨を拾うことも出来ました。

〔弟〕中学２年生で、建物疎開に動員され、捜しあてた時は草津国民学校の講堂で息をひきとったあとでした。弟の隣におられた老婆が、中学生で可哀想でしたよ、「家に帰りたい」「お姉ちゃん、早く連れに来てくれないか」と言っておられましたよ、と亡くなる前のことをいろいろと話して下さいました。

弟は広島市があんな惨事になっているとは露しらず、前日土橋で出会った私が連れに来てくれると信じていたでしょう。家の下敷きで父が亡くなっているとも知らず、わが家が焼けているとも知らず、私が迎えに行くのをどんなにか待っていたことでしょう。

戦闘帽を境に首から顔は焼き膨れ、胸から手は皮がむけ、指先に皮膚は下がり、これが弟かと疑うくらい無残な姿で１２歳の人生を一人寂しく終えた弟です。可哀想でなりません。

〔お手伝いさん〕従業員さん、△△さんといっていました。四国の人と聞いていました。集会所建物下敷き、直爆、焼死です。

父、いま生きていてくれたら８５歳。あれでも寝たきり老人になっているかもしれません。でもあれから４０年。いく度生きていてくれたらと思って生きて来たことでしょう。私達に一言の言葉も残さず、家族の者にもみとられず、４５歳で世を去った父。定めし、心残り、無念であっただろうと思います。

弟〔が〕今生きていれば５２歳。私には良き相談相手になっていてくれただろうにと幾度思ったことか。もう少し早く捜すことが出来たり、土橋で見つけた時、なんとかしてやることが出来たら、あれほど欲しがった水を私の手で十分飲ましてやることが出来ただろうに、と悔やまれてなりません。当時中学生、女学生１、２年生は空襲から国土を守るため、延焼防止、空地造成のため、建物疎開に動員され、学業を捨て、日本勝利を願って疑うことも知らず頑張っていた少年、少女。お国のためとはいえ、その死は残酷、可哀想でなりません。

お手伝いさん、下敷き、焼死。何もわかりません。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１７歳〕
（３４－７３０１）

【死亡家族の概況】

①	８／７	母	５１歳	直爆距離ＮＡ	爆死	遺体で
②	８／８	兄	２６歳	直爆距離ＮＡ	大やけど	
③	８／９	父	５７歳	直爆０.８㎞	大やけど	遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕町内から隣組長として近所の人々と建物疎開中大ヤケドしました。鉄砲町△△番地、すぐに炎に包まれて逃げまどったと思います。どんなにか熱かったことだろうと身の毛がよだつ思いがします。衣類は焼かれ、半裸の状態で、中山の友人宅までたどりついたようですが、どんなにか苦しかったろうといつも忘

れることは出来ないです。

〔母〕上記のような所に父に電報をもっていってる途中でヒバクした。上衣はやけてあとかたなく裸足でヒナン所に逃げついて死亡したところをみつけ、どんなに苦しかっただろうと、何も言えない状態のまま、しばしボー然としました。ガスを吸って、顔、足、手等はれていましたが、やけどのあとは分かりませんでした。まだ息がある間みつけて最期の言葉が聞きたかった。ゲンバク等全然知らずにお国のために精いっぱい正直者でガンバッタ母がかわいそうでかわいそうで、言葉になりませんでした。

〔兄〕外国船に乗っていて、下船した時にヒバクし、まだ結婚していなかったのですが、ちょうど家で休養していた時のヒバクで、体の後ろ半身大ヤケドで耳がちぎれ、いかにも苦しそうで、あまりはなしもしなかったですが、父母とも死亡したのでどんなにか苦しい思いをしていたに違いありません。自分はあれでも助かるかも分からないと思っていたのではないかと思います。7日の夜はムシロの上で弟の将来のこと等はなして、考えたりもしてくれていたようです。とってもやさしい口数の少ない兄の死に、本当にざんこくきわまりないと思い、この世にいる間中、忘れることは出来ないと思います。

何もしてやれないくやしさ、死に方がむごたらしい。もっと早くみつけて病院でも連れて行き介抱したら、少しは良い方に向かったのではないかと、生きてた兄のことがくやまれます。

人手をかりようも出来ない、皆そんな状態なのだから。弟とタンカを作り、4㎞はなれた病院に連れて行こうと思ったが、手製のタンカはものにならない。どうすることも出来ない。軍から助けが来て連れて行かれたが、そのまま次の日には遺骨。何もかもあんなひどい状態ではどうすることも出来ない。ゲンバクとは本当にヒドイものだ。

原子爆弾とは本当にヒドイ破壊力をもつものだ。何のために、どんな利があるために、どうして作るのだろう、大量に殺すのだろう。炎の中をくぐりぬけて、逃げまどった両親、兄達の当時の心境を思うと、全くやりきれない思いにかられてしまう。

〔広島　直爆3.0㎞～　女　24歳〕
（34−5054）

【死亡家族の概況】
① ８／９ 妹 １２歳 直爆１.０㎞ 大やけど・原爆症 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕８月６日当日から父が収容所等をさがして歩きましたが見つからず、すっかりあきらめていた頃、８月１５日に見知らぬ人から坂町の陸軍病院で名前を見つけたからと知らされました。妹の死をみとった兵士から、最後の様子を父は知りました。

妹は梅干がほしいと言うので与えたが、それは食べないで、君が代を歌って息をひきとったそうです。妹は女学校１年生で旧名雑魚場町で家をこわす作業をしていました。半身、顔や肩にやけどをしていましたが、そのためより放射能障害で死んだようです。妹の死体は山の中腹にうめられていました。父は妹の頭だけ焼いて持って帰りました。

“お父さん、お母さん”と一言も言わないで死んだ、と言って父は泣きました。“お国のため”という気持ちが支えとなって、苦しみやさみしさに堪えて死にました。立派だったと思ってやりたいのです。犬死ににしてはならないのです。

〔広島 直爆３.０㎞ 女 １４歳〕
（１３－１２－０６９）

【死亡家族の概況】
① ８／９ 父 ４２歳 直爆０.５㎞ 大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕灰まみれといったふうで、服は破れ火傷で手の甲は水ぶくれができて（一面）おり、息たえだえで１㎞位を歩いて帰宅しました。帽子の型を残して首す

じは火傷、腕、胸、股も火傷で１日１日ただれ、死の直前にはうじが傷口にわいておりました。医者とてなく、救急袋の中の赤チン、食油を塗る程度しか治療はできませず、痛い、苦しいと言いつづけて亡くなりました。息がなくなった時、これで父は楽になれてよかったとさえ思いました。

戦争の犠牲になったのです。争いのむごさを見せつけられました。その時はまだ戦中なので、このかたきを……と思ったものですが、今になってみますと、戦闘的な気持ちをより高ぶらせる教育を受け、戦争を何でもないこと、闘いを何でもないことのように教えられたことの恐ろしさをつくづく考えさせられております。

真っ黒になり、傷口は赤くむきだしになり、そんな死体が山になっておる中を歩いて、けがをして体育館の床に寝ている友人を見舞ったものです。

〔広島　直爆２.０㎞　女　１９歳〕
（１４−００３５）

【死亡家族の概況】

①　８／９　父　５０歳　直爆１.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕背中から腰まで全体がやけどで、皮がはがれ、赤身が出ていました。ねれば背中が痛いと言い、座れば腰が痛む。ねせたり、起こしたりして、母と、左右から父を支えていました。時々水を飲み、苦痛のあまり「うっーうっー」とうなっていました。顔は黒くすすけており、ツワブキの葉に目、鼻、口のところに穴をあけて、顔にはっていました。暑さよけのためだったのだと思います。

あまりにも死に方がむごすぎる。この世の中の生地獄だったと思います。一家の大黒柱を失い、翌日から途方にくれる状態で、貧困の中で母の苦しむ姿を見る

につけ、父さえ生きていてくれたらと思い、なぜ、あの日に行かなければいけなかった、前日か、もう一日後でも原爆にあわなくてすんだものを、と思ったこともありました。二度と繰り返さないで下さいと叫びたいです。

〔広島　救護　女　１７歳〕
（３４－０４１５）

【死亡家族の概況】
①　８／９　弟　１３歳　直爆１．０㎞　爆死・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕被爆後日赤病院に収容されているのが分からないものだから、父と兄はあちこちと２日間捜し回ったらしいのですが、途中同級生の父兄に出会い、日赤にいると教えてもらいすぐ連れに行きました。誰も彼も真っ黒で見分けがつかなかったといいます。でも弟ははっきりと自分の名前がいえたのです。連れて帰り翌朝、被爆から３日目の朝息を引き取ったのです。でも私達は違う場所で動けないでねていたものですから、死に目にはあえませんでした。

弟を連れて帰ったと聞いた時はうれしくて行って見ようかと言ったのですが、行くことが出来なくて、そのうちに死んだと聞いた時には、自分がこんなものだから何もしてやれなくて、半年前に母を失っていますので、よけい可哀相でつらくて泣き通しでした。父と兄とで火葬にしたと聞きました。

こんなことを話しても、その時の気持ちなど、こういう目にあった人でなければわかることではありません。

〔広島　直爆１．５㎞　女　２６歳〕
（３８－０１２９）

【死亡家族の概況】

① ８／９　弟　１３歳　直爆１.０㎞　大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕広島の土橋で被爆し、己斐の小学校の近くの先生のお宅に避難させていただいているのが９日の日にわかり、義兄が家に連れて帰ってくれました。家といっても自分の家は全焼して、その時は義兄の姉の家に同居させてもらっていました。翠町でした。顔は全部やけどではれ上がり、両手足もです。こんな身体でよく逃げのびたことと思いました。食べる物が喉を通らず痛い痛いと言って水を欲しがり、苦しんで息を引き取りました。

弟が家は愛宕町であの方は焼けてしまったと聞き、自分は己斐までは逃げたけど、それから連絡のつけようがなく、姉の私の勤め先（東洋工業に行ってました）の人がいらしてその人に話したとか、さぞ心配したことと思いました。母と私とであくる日すぐ己斐まで捜しに行ったのですが、己斐の学校では死体が折り重なっていますし、まだ名簿も出来ておらず、わからずに帰ってきました。死に方がむごいは通り過ぎて、言葉にあらわせないほどです。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１７歳〕
（４０－０７１７）

【死亡家族の概況】

① ８／６　兄　１７歳　直爆距離ＮＡ　不明　行方不明

② ８／１０　父　４６歳　直爆距離ＮＡ　不明　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕遺体もなく、どこで死んでしまったのでしょう。やさしい兄でした。特攻隊を志願しましたけど、体格が悪くて不合格となり、学徒報国隊として日本製鋼

所に通勤していました。原爆の直撃を受け即死したのでしょうか。やけどしてけがをして苦しんで、家族の来るのを待ちながら死んでしまったのではないでしょうか。原爆で死んでしまうのでしたら、特攻隊で死んだ方がよかったのに！犬死にのような気がします。

〔父〕体にうじ虫がわいていたそうです。生前の面影もなく体は全身やけどで、父の背中のあざがなかったら確認できなかったと母が言っていました。その姿を見た母はどんな思いだったでしょう。地獄です。

母は主人と長男を亡くして長い間放心状態を続けていました矢先、末っ子の４男３歳が疎開先の島根県で水槽に頭をつっこみ死んだのです。

父を返せ、兄を返せ、弟を返せ。

憎むべき戦争よ、原爆よ。

父と兄が生きていてくれたらどんなに裕福な人生だったことでしょう。父は板金加工業の請負業をして従業員も数人いました。町の有力者として人望のあった人でした。何不自由もなく育てられた私の家族は父の死によって１８０度の変化をいたし、生活苦と悲しみにどんなにか苦労いたしたかと、母のことを思うと、原爆と戦争を憎んだものです。戦争だから仕方がないではあまりに無責任ではないでしょうか。国はもっと責任をとるべきです。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１６歳〕
（２７－０２９６）

【死亡家族の概況】

①　８／１０　兄　２０歳　直爆1.0㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕全身やけどをして夕方わが家に帰って来た兄は、水をほしがって、ヤケドしたところよりうみが出てウジがわきもだえ苦しんで、４日後に亡くなった。ど

うせ助からないのなら水を思うように飲ましてやればよかったと思う。

なんの手当てもしてやれず、ただ死を待つだけだった。生きていてくれたら良い相談者だった。

〔広島　直爆1.5㎞　女　13歳〕
（34−1506）

【死亡家族の概況】
① 8／10　姉　15歳　直爆1.0㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕全身やけど、3日目に隣人に助けられて帰宅。母親が一心に看病。苦しみながら、最期はのどがはれ、呼吸困難となりどうすることもできなかった。

6日7日と道ばたの溝の中で通行人の足をひっぱり、何とか家へ連絡をと必死の姿を思うと、何と言っていいかわからない。全身やけど、何の手当てもせずどんなにか痛くつらかったろう……。7人兄弟のただ1人の姉だったのに！！

〔広島　直爆3.0㎞〜　男　12歳〕
（34−5389）

【死亡家族の概況】
① 8／10　長男　14歳　直爆0.5㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕毎日６日～１０日まで市内くまなくさがしました。１０日の正午頃、疎開地へしらせがまいり、車をもって連れに行きました。私を見て、直撃の様子をちらっと話しましたが、ご挨拶に行ってる間、人事不省にて、途中陸軍病院で注射しながら家にたどり着き、その夜亡くなりました。直後の様子を描きながら残念そうに息を引き取りました。子供というのは母親の分身ですので、私は悲しみにうちくれました。残った子供、生まれてくる子供のために勇気を出して、がまんしました。

１５歳という若さで、元気だったので、外見は普通に見え、笑いさえ浮かべておりました。二部隊の兵隊さんと一緒に太田川を泳いで、二葉の里にのがれて、打撲も腰にうけたようです。顔のかすりきず位でした。満員電車にうずくまって直撃をうけたようです。

思い出せばつい涙にむせぶばかり。核兵器をこの地球からなくすため、平和のため、少しでもがんばらなくてはと心にきめています。

〔広島　直爆３.０㎞　女　３３歳〕
（４０－０５０１）

【死亡家族の概況】

① ８／１２　妹　１７歳　直爆距離ＮＡ　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕やけどと、怪我がひどく、日赤の医師が診察に回って来て、あばら骨も何本か折れているし、両足の骨も折れ、両手はやけど、頭部打撲で首の骨も大部いたんでいて、一番の致命傷は頭、首の骨が折れているんではないか、よくこの身体で生きてこられたものだ、肉親に会えるまではと随分頑張ったことでしょうと申され、お薬をつけてあげたいが、何にも無いから、赤チンをつけてあげ

ますと言われました。

もう少し早く捜し当てて、看護してやりたかった。が、あの場所ではどうにも出来なかった。気休め程度のなぐさめの言葉と、起こしたり、寝かせたり、さすってやったり、お水を飲ませたりぐらいの面倒しかみてやることが出来ず、本当に死ぬのを待つのみというところでしょうか。むごい死に方だと思います。その時私はつくづく思いました。畳の上で死ぬんならどんな病気でもいい、こんな所でこんなむごい死に方では、とてもやりきれないことだと思いました。

〔広島　入市　女　２２歳〕
（１２−０２３２）

【死亡家族の概況】
①　８／１２　義妹　１９歳　直爆０.８㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義妹〕白神町日本銀行広島支店に勤務していたが、当日白神神社前で市内電車を下車した折被爆し、電車が原爆光線の光を防いだため、銀行建物内にはたどりついたが動くことができず、家族の者が８月９日、担架で家に連れ帰る。
　私は当日担架等の手配をしたが、社用のため小倉市に引き返し任務につく。後日死亡の様子を妻より聞く。「一尺の火の棒を飲んだ。苦しい、死にたくない」と言って苦しみて死んだ由。

当時私は軍関係会社に徴用されて、自由勝手に動くことが出来ず、死の時に看護していた妻の話で、狂い死んだ様子を聞く。後で何もしてやれなかったことが非常に残念に思った。

〔広島　直爆３.０㎞　男　２９歳〕
（１８−００１８）

【死亡家族の概況】

①	8／12	妻	40歳	直爆1.8㎞	大けが・大やけど・原爆症
②	8／12	五女	1歳	直爆1.8㎞	大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕背中に大やけどをしていた。顔等は変わっていなかったが、コメカミの所々に指二本入る程度の傷（家の下敷きのときの傷）あり、出血多量疽毒症状でとても苦しんで死んだ。歩行もできず、用便は補助してやらせるありさまで本人が困ったらしい。

〔五女〕頭の中央に大怪我し出血多く、手当てのしようもなく死亡した。

五女が死亡したとき病院の先生や看護婦さん、友人が次々にきて「元気を出せ」と力づけてくださったが、子供は大勢いる、最初から怪我が大きいから死を覚悟していたが、夕方妻が死んだときは驚いた。5人の子供を残して私一人でどうなるかと心配でならん。非戦闘員をこんな惨めな死に至らしめた米国を心から怨み、にくしみが増した。悲惨な死を仇討ちをしたい気でいっぱいだった。

〔広島　直爆1.5㎞　男　42歳〕
（34－1014）

【死亡家族の概況】

①	8／6	祖母	NA	直爆0.2㎞	圧焼死	遺体で
②	8／6	妹	14歳	直爆0.1㎞	爆死	
③	8／6	叔母	26歳	直爆0.2㎞	圧焼死	遺骨で
④	8／6	姪	3歳	直爆0.2㎞	圧焼死	遺骨で
⑤	8／6	甥	1歳	直爆0.2㎞	圧焼死	遺骨で
⑥	8／13	父	49歳	直爆0.2㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母・叔母・姪・甥〕骨で大人とか子供とかの区別が分かり、台所だから叔母、座敷にいたのが子供、玄関の下が防空壕になっていた入口付近に祖母と分かったわけで、祖母などは半生だったので、もう一度やき直したと母が申しておりました。

〔父〕機械の下敷きで、屋内でしたのでやけどは何もなく、うちみの手当てを疎開地でしろうと療法をしましたが、１週間目に死ぬまでに口からと肛門から緑色のものを出し、まるで体の中がくさって出てるようでした。

〔妹〕市女の２年生で家屋作業に中心地に出てたので、未だにどこで死んだか分からず。私は夢に妹が全身やけどで帰ったのを時々見ました。まわりのやけどの人達の姿と結びついた姿で、やっぱりあんたもこんな姿になったのかという夢でした。

父などは特別医者にも見せましたが、どういう手当てをしていいか医者自身も分からないことだったようで、気やすめの注射こそしましたが、やはり一晩防空壕ですごしたので汚染された水も飲んだし、内臓がくさったのだと思います。小さい妹達はこわがって父のもとに行きたがらなかったことを覚えています。

〔広島　直爆１.０㎞　女　２０歳〕

（１４－２００８）

【死亡家族の概況】

①　８／１３　妹　１７歳　直爆１.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕１７歳だった妹はその年に就職したばかり。本通り１丁目で被爆に遭い、夢中で焼跡まで帰ったそうである。それ以来歩くことも出来ず、全身打撲で食もなく苦しい苦しいの毎日、日赤に連れて行ったが、外傷でないためみてももら

えず、どうにも出来なかった。可哀想でたまらない、目の前にいながらどうすることも出来ない、１週間後の１３日に亡くなり、川辺で焼きました。何とむごいこと。

〔母〕４９歳（２１年死亡）。どこが悪いともわからず体がだるく仕事も出来ず、あちらこちらと医者も変わってみてもらっていましたが、病名もなく痩せ細って、あくる年の１２月に亡くなりました。もっと長生きしてほしかった。

一人ぼっちになった私は当分とぼけていた。妹にせよ母にせよ、戦時中皆苦労して来たのに、むごい死に方で怒りを感じることさえあります。

〔広島　直爆1.5㎞　女　２０歳〕
（３４−０４４２）

【死亡家族の概況】
①　８／１３　妹　１５歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕全身大やけどの妹は、顔も目と鼻と口のところだけ穴をあけたガーゼにおおわれて連れて帰りました。意識もうろうの中、痛い痛いと、水、水をさかんにいいます。氷のカケラを口に押し込んだらおいしそうでした。「家に帰ったらモモを上げると言ったのに」とうわ言のように言いましたが、ももなどありませんでした。

ピカッと爆弾が落ちて気がついたらみんな逃げているのでついて行き、あちらへ行けば火、こっちへ行けば火でおそろしかった。水がほしくて水槽へ行けば、首をつっこんでみんな死んでいるので飲んだら死ぬのだと飲まなかったと、とぎれとぎれに話しました。頭は白鉢巻の跡だけやけどはしていませんでした。足の先は黒こげでカパカパ、胴や背中はずるずるでした。包帯の中はうじ虫がいっぱいで、大きいのや小さいのがやけた肉に食い込んではいまわり、

ゾッとしました。本当に口では言えません。

父が必死でさがして連れて帰っただけ、ましかと思ったり、あんな苦痛をするなら一度に死んでいた方がよかったのではと思ったりしました。若かった私は代われるものなら代わってやりたいと何度も思いました。薬もなく、おいしいものもなく、苦痛だけの日々だったのがあわれでなりませんでした。

陸軍船舶指令部軍医部に勤務していた姉は、妹の死に目にはもちろん、お葬式にも帰れなかった。被爆者の手当てに日夜を通じて忙しく、悲惨な人々を一人でも一時でも多く看て上げるため、市中のぼう大な数の大けが人ばかりでした。

〔広島　入市　女　２０歳〕
（３４－４４１２）

【死亡家族の概況】

①	８／６	次男	０歳	直爆１.６㎞	圧焼死	遺骨で
②	８／６	義母	７２歳	直爆１.６㎞	圧焼死	遺骨で
③	８／１４	夫	３７歳	直爆１.６㎞	大やけど	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕頭、足まで全身やけど。肩を２０針縫ってもらう。１週間後には男のきん玉がゴムまりのように大きくなり、注射器で１０回とってもらって小さくなる。その後、のうしょうをおこし気がへんになり死亡。毎日水を１升以上のんで、ケロイドは水蜜とうの桃の状態になっていた。

〔次男〕家の下敷きで灰となる。

〔義母〕家の下敷きから出て遺体となって死亡〔ママ〕。

主人が重傷でひどいため、家の下敷きをどうすることも出来なく、あちこち火の回って来るため逃げなければならなかった。

死に方がむごすぎて、思い出すと涙となる。主人も重傷の身で逃げても１週間後には死亡という状態。

実父母も死亡。

一度に実父母、義母、主人、次男を失った時、５人に一度に死なれた時、泣く涙もないつらさ。涙の出る時はまだ幸いです。

〔広島　直爆１.５km　女　２７歳〕
（３７－００３８）

【死亡家族の概況】

① ８／１３　母　４０歳　直爆距離ＮＡ　原爆症
② ８／１４　妹　　３歳　直爆距離ＮＡ　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕やけどや怪我はあったけれども、それ程ひどくはないので死ぬとは思わなかった。６日目頃から次第にはぐきから血が出て、髪がぼろぼろ抜け出し、声もくぐもって、死ぬまで意識がはっきりしており、非常に苦しんで死んだ。

〔妹〕母が死んだ翌日、やはり同じような症状で死んだ。死ぬまで私が抱いていたが、「タータン、タータン」と母を呼びながら死んだ。いまでも時々泣き声が聞こえる。

死に方がむごいの一語につきる。私は長い間母の死が現実とは思えず、子どもを負ったその年頃の女の人を見ると、思わず「お母さん」と呼ぶような生活がつづいた。食べるものも不自由していた母のことを思えば、気の毒でならない。生きていてくれたら、母が喜ぶような生活をさせることができたのにとくやまれる。

〔広島　直爆１.５km　男　２２歳〕
（２８－０１４４）

【死亡家族の概況】
① ８／１４ 母 ４３歳 直爆１.７㎞ 大やけど・原爆症 遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕亡くなった母は住家が疎開のため立退き命令がでたため家をさがしに行った途中被爆したもので、鶴見橋付近で被爆。夕方４時頃まで鶴見橋付近に居たそうで軍のトラックが来て収容所に連れて行かれた。収容先、宇品町。その後８月１２日、郊外、坂村横浜小学校に収容変更し、収容当時は元気だったとのこと。

８月１４日正午頃、収容先関係者（役場の方）を呼んでもらい子供（私）のことをたのみ、（さがしに来たとき）、持っていた現金、預金通帳、実印（いつも腹巻に入れていた）を役場の人に渡し、子供に渡してもらいたいこと、また、子供が来なかった場合は、大朝の田舎へ送るようにと送り先を教えた。

母は元気だったので役場の人はびっくりして「おばさん元気なんだからそんな弱気なことを言ってどうするの。元気を出して下さい」と言ったそうです。それから２時間後、１４時に亡くなったとのこと。外見は元気に見えても本人はもうだめだということを知っていたのでしょうね。

たった一人の母を失った。当時の状態はいつ爆撃されるか分からない危ない状態であり、私は学徒動員で広島を離れることは出来ないので、私は母に「これからは危ないので田舎の大朝に疎開してはどう」と話し、母もまた、危険を感じていたので、広島市役所に離広手続に行ったところ「広島市民は銃後を守る責任があるので、５０歳以下の市民は離広は認められない」と言われ、異動手続きが出来なかったそうです。母はいつも「死ぬときは一緒に死のうね」と言っていました。

あの時異動手続きさえ出来れば母は死ななくても良かったですね。この責任は誰が負うべきでしょうか。

〔広島 直爆３.０㎞～ 男 １５歳〕
（０１－２０１６）

【死亡家族の概況】

①　８／１４　夫　３１歳　直爆０.３５㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕被爆して２日目、やっと夫をさがしあてることが出来たものの、ずっと夫は寝たきり状態、緊急炊出しのおむすびを一つ配っていただいたのを、お水を加えおもゆにしたのも全然胃が受付けず、だんだんと下痢が下血するようになり、胸が苦しいとつぶやくようになる。「わしは、あと２日の命だ。子供をたのむ。こんなことで死ぬのは残念だ」とさも悔しそうでした。意識は特にはっきりしていて、手がしびれて来た、しばらくして身体の半身も感覚がなく死んだ、手を出した、脈を見とれ、口も思うように話せなくなった、目も見えなくなった、と言い終わって、本当に２日目、３１歳の生涯をとじました。

上記に書きましたように夫の死を見つめながら、何とか助かる方法はないものかと、はらはらするばかりでどうもして上げられなかったことが、かなしくてなりません。医者も無く、外ではあちらでもこちらでも死者を焼く炎とにおい、何という地獄のありさま、二度と戦争を繰り返してはならない。

〔広島　直爆３.０㎞　女　２９歳〕
（３４－０５２３）

【死亡家族の概況】

①　８／１４　義兄　約４２歳　直爆１.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義兄〕町内から建物疎開の作業に動員され、爆心地から１Ｋ位の所で被爆しました。かすり傷ぐらいでしたが、３日目頃から高熱と下血、口の中がただれて薬も食事も喉を通らず、だらだら粘血が流れ出て、手のつけようもなく、転げ回

って苦しみ、8月14日亡くなりました。幼い3人の子供を連れて、実家に疎開していた姉の苦難の生活が始まりました。主人を失い焼け出され、なんの補償もなく、慣れない仕事、幼い3人の子供の養育は筆舌に表わせないものでした。

義兄のひどい死に様を見て、毎日が恐ろしく不安でした。9月になり私も熱が出て、赤痢のような症状の日が続き、苦しみましたが、1ヵ月余りでよくなりましたが、義兄の苦しんだ様子が忘れられず、不安な毎日でした。姉が不憫で義兄の死は悔やまれてなりません。

〔広島　直爆1.5㎞　女　22歳〕
（34－1715）

【死亡家族の概況】
① 8／14　夫　28歳　直爆1.0㎞　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕肉親が見ても見分けがつかぬほどの状態でした。頭部裂傷、右腕がぶら下がり、肺がやぶれ、心臓をうち、上半身に大小無数の切り傷を負い、全身血まみれの哀れな姿でした。よく生きていたことだと、今思っても不思議でなりません。痛い苦しいと1週間後にはついに帰らぬ人となりました。骨拾いに行った時、耳の後ろにガラスの破片がつきささったままやけていました。余りの痛ましさに声を上げて泣きました。どんなに苦しいことであったろうかと、思い出すたびに胸が痛みます。

余りにむごい死に方です。もう少し早く見つけることが出来たならと、くやまれてなりません。今生きていたならと帰らぬ（ぐち）もこぼれます。悲しくつらい、40年間、生涯忘れることは出来ません。夫をかえして、と大声でさけびた

い気持ちでございます。

〔広島　直爆３．０㎞～　女　年齢不明〕
（３４－６１１０）

【死亡家族の概況】

①	８／６	伯母	ＮＡ	直爆１．０㎞	圧焼死	遺骨で
②	８／６	従弟	１５歳	直爆１．０㎞	圧焼死	遺骨で
③	８／６	従妹	１３歳	直爆１．０㎞	圧焼死	遺骨で
④	８／６	従妹	１１歳	直爆１．０㎞	圧焼死	遺骨で
⑤	８／１５	伯父	ＮＡ	直爆１．０㎞	大けが	

【死亡の状況・遺族の思い】

８月１５日に死亡しました伯父の話によりますと、何かの用事で外出していて、原爆に遭い、いそいで自宅に帰ってみると家はつぶされすでに２、３ヵ所から火の手が上がっていて、中にいる妻や子供達をどうしてもすくい出すことは出来ず、しかたなく自分の家が全部やけてしまうまで待って、妻や子供達のお骨を持って私の家に帰って来たのが８月１０日でした。

〔伯父〕姿は顔や手の皮はずるずるになり、着ている服はぼろぼろ、今思い出してもおそろしい姿でした。帰りついた夜から高熱を出し、うなされつづけておりました。父母も一生懸命かいほういたしましたが、１５日の早朝死亡いたしました。今考えますと、伯父は自分の手で妻や子供達をやき、お骨にし、自分の手で葬ってやりたいため、自分もひどいけがなのに２晩もねむらず、自分の家が灰になるまで待ち、中から出て来たやけ残った遺体をさらにやき、自分の手でお骨にして持ち帰った気持ち、良く分かるような気がいたします。

私は６０歳をすぎてもどうにか生き長らえておりますが、原爆を思い出すたびに多くの方々が私の伯父や伯母、従弟妹のような、生きながら救い出してもらう

ことも出来ず死んでいった人々、やすらかにおねむり下さいと心からお祈りいたしますが、その方達の霊はやすらかにねむっておられるのでしょうか。

４０年たった今も私は原爆をにくみます。

〔広島　直爆１.０㎞　女　２４歳〕
（０９－０００５）

【死亡家族の概況】

① ８／６　　父　５７歳　直爆０.３㎞　圧焼死　遺骨で
② ８／１５　妹　１６歳　直爆０.５㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕自宅焼跡の父の居間付近で骨（背骨だけ）。その骨のあった範囲は直径３０㎝の円内。背骨が横に長い範囲でなく、垂直方向に重なるようにして、掘りだされた。

〔妹〕己斐の山手の方の家を一間かりていて、荷物をあずけていた部屋へ、８月７日昼ごろ、歩いて被爆地（旧第一県女校舎内）からにげ帰り、そのまま、その部屋でねたきりになり、だんだん衰弱し、はぐきからの出血、血便を伴いながら、８月１５日午前１０時ごろ、息をひきとる。

父の死に方がどんな状態だったか想像もつかないが、生きていてほしかった。

妹はかわいそうであったが、どの医者も往診に応じてくれなかった。医者にみせてやりたかった。（当時の状況としては往診はむりであったと思うが）何の手当てもできずに死んでいったことがくやまれてならない。

〔広島　直爆２.０㎞　男　２０歳〕
（３４－５４０６）

【死亡家族の概況】
① ８／１０ 義父 ６６歳 直爆距離ＮＡ 大けが・大やけど
② ８／１５ 夫 ２９歳 直爆１.０㎞ 大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義父〕遺骨も何もなくてお葬式も出来ず、くやしくなさけない思いをしました。
〔夫〕一緒の所に収容され治療をうけていたのは不幸中の幸い。全身やけどで寝ることも座ることも出来ず、お尻とかかとをついて、やけどの治療は赤チンを塗るだけ。かさぶたの下の膿をうじ虫がたべていたのかうじ虫がうごめいていて、耳の中もそんな状態だったためか、未来の音楽が聞こえる等言っていたのが印象に残っている。毎日大勢亡くなるので、一緒に遺体を火葬にされお骨も貰えず淋しい思いをした。

内地にいながら戦地で負傷し戦死したのと同じ状態で、病院も医師もその当日はなくて、野戦病院と同じ状態で、本当に戦争の恐ろしさをいやと感じました。充分な治療が受けられたら死なずに生き残れたのではないかと悔やまれます。

家の柱（義父と夫）２人を失い途方にくれ、家も物も何もなくなり、親類や身内の人達のおかげで（その点は内地にいたおかげ）何とか立ちなおれたのだと思う。

〔広島 直爆１.５㎞ 女 ２４歳〕
（２６－００２５）

【死亡家族の概況】
① ８／１１ 次女 ８歳 直爆距離ＮＡ 大やけど
② ８／１５ 次男 ９歳 直爆距離ＮＡ 大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次男〕後頭から背中一面やけど。

〔次女〕顔面がやけどでした。
　どちらも苦しんでかわいそうでした。

　１０歳の子供〔②〕は戦争はいや、こわいといって、苦しみのあまり泣いていいました。かわいそうで見ていられませんでした。

〔広島　直爆1.5㎞　女　３６歳〕
（２２－０３５７）

【死亡家族の概況】
①　８／１５　父　５２歳　直爆距離ＮＡ　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕銀行の井戸の中で、立ち泳ぎで火の粉が舞い込む中に１２時間も夏の冷たい水の中でがたがたふるえて、がまんのはて何度も失敗してはいでた。舌をかんで、食べ物トマトを口の中に入れると、しみて痛い痛いの言葉ばかり。８月１５日の敗戦の天皇陛下の言葉を聞きながら、間違いだと言葉少なく息を引き取りました。

　一家の大黒柱だった父が亡くなったので、生活が一変して苦しかった。夜働きながら昼間学校に通った。全寮生の寄宿舎に入って、友人が何かにつけて親切にしてくださった。

〔広島　直爆2.0㎞　女　１４歳〕
（２２－０１２７）

【死亡家族の概況】
① ８／１５　母　５９歳　直爆２.０㎞　大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕直爆。顔、首、手足（やけど）。Ｓ２０．８月１０日ごろから（やけど）でカサカサになり、熱で意識不明となり、下痢と、はき気で１５日午後４時ごろ死亡す。
意識不明になる前は大変苦しみ、血便、下痢などあり、もだえ苦しんだ。

母は元気な人でした。５９歳。このような死にかたになったことは、思ってもみなかった。医者も薬もなくこんなむごい死にかたはやりきれない。いまでもあの日を思い出すことがよくある。もっと長生きしてもらいたかった、残念。

〔広島　直爆２.０㎞　男　２４歳〕
（３４－０４４１）

【死亡家族の概況】
① ８／１５～１６　妹　６歳　直爆２.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕背中にこっぽり火傷をおっていた。弟の方がだめだろうといって食べるものをしっかり与えたが、妹はまさか死ぬなんて思ってもなかった。ずっと床についていたが、１５～６日きれいな着物をきせてくれとせがみ近所の友達の所へ見せに行き、帰って来て昼食を食べ、静かに亡くなった。うじがすごかった。白い薬をつけてもらったりもしたが、効果はなかった。背中だからうつ伏せで痛がったりもした。

食べ物を十分与えていればあれでも助かっていたのではないかと、だめだと

思った弟が助かり、妹が亡くなり、これも運命なのかと思う。

〔広島　直爆１.５㎞　男　１２歳〕
（３４−６１９８）

【死亡家族の概況】

① ８／６　妹　１２歳　直爆距離ＮＡ　ＮＡ　行方不明
② ８／１６　妹　１４歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹①〕行方不明。買い物にちょうど行っていて（氷屋）、ちょうどその時１３人位店の前に人がいて、爆風で氷屋の屋根の上を人が飛んでいったと、当時氷屋の前側の家の人が話してくださり、とうとう遺体も骨もなく、本当にあわれです。母は私に氷屋に行くように言っていたのを私の代わりに行きこの惨事です。４０年たっても胸がしめつけられるようです。

〔妹②〕建物疎開で出て被爆。父があちこち捜して（自宅は焼け、五日市の親戚に逃げていた）、五日市まで連れて帰った。背中全部を火傷した１３歳の女の子を自転車の荷台に板をくくり、その上に寝せて（府中町〜五日市まで）帰って来ました。もうすっかり火傷は化膿しており、痛い痛い連続でした。ウジ虫もわき、ピンセットで取ってやったりしました。８月１６日朝は突然大声を「オカアサーン」と上げ、それを最後に息絶えました。

②の妹などは、早く見つかったらとは思います。しかし薬が無かったのがくやしいです。本当に何もしてやれなくて。

私は姉妹のことです。母の気持ちはいかばかりだったかと思います。自分の体も下痢や嘔吐、それに子どもたちの介抱、髪の毛も抜けていました。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１６歳〕
（３４−０１０７）

【死亡家族の概況】
① ８／１６　姉　１３歳　直爆１.５㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕後ろ全身大やけどで８月６日～１１日までは食欲も有りましたが、１２日頃から目に見えて食欲が無くなり、だんだん欲しいものものどに入らなくなり、急激に弱りまして、８月１６日夜明け前、苦しんで息を引き取りました。最後まで意識ははっきりとして、皆にお別れを言って亡くなりました。ことに妹の私に看病してもらったことを感謝して亡くなりました。

今日でも姉の死に方に思いをはせる時、苦しく涙がとめどなく流れ悲しくつらい思いをいたします。姉妹もなく一人残された私は、淋しく姉が生きていてくれたらと思わない日はございません。それに息を引き取る最期まではっきり、あまりにもはっきり姉に意識が有ったため、息の思うよう出来なくなった姉の苦しさにもがく手の指の動きが今でもはっきりと想い出され、１３歳の子供のむごすぎる死に方にただただ悲しさといかりを忘れることが出来ません。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１１歳〕
（２９－００２１）

【死亡家族の概況】
① ８／６　父　４９歳　直爆０.５㎞　圧焼死　遺骨で
② ８／１７　母　３７歳　直爆１.１㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕遺骨は確認したが灰のように崩れてしまい、手ですくって持ち帰った。
〔母〕３分の２の大やけどで日赤にいるのを高田郡小田村の祖母の許に連れて帰る。体のあちこちにうじ虫が湧いていた。祖母が箸で取ると痛がっていた。死

の間際に「水、水」とうめいた他、11日間しゃべれなかった。

・可愛がってくれた両親を奪った戦争が憎かったし、神、仏を信じられなかった。
・両親のうちどちらかでも生きていてくれたら、40年の苦しみは少しは軽かったと思う。
・両親死後、遺産争いに巻きこまれて2人きりの兄妹は一緒に生活できなかった。
・40年曲がりなりにも生きてきて、2人の息子には自分の味わった戦争の悲惨さは決して味わわせたくない。

〔広島　入市　男　11歳〕
（11－0042）

【死亡家族の概況】
① 8／13　兄　28歳　直爆0.5㎞
② 8／17　父　63歳　直爆0.5㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕屋内で被爆し、気がついた時には家の下敷きになっていた。上の方を見ると火が見えたので一生懸命タルキや柱や木や瓦をのけて外に出て、裏の本川に出た。そしたらだれかがフトンをくれたのでそれを川の水でぬらして頭からかぶっていたのだそうです。時をみて広島駅の裏の方を通って船越峠を通って、夕方になってフラフラになって家に帰ってきました。それからノドがいたく、すごい下痢が続き何も食べられず17日死亡しました。
〔兄〕吉田の収容先で家の人が行った時には亡くなっていました。13日死亡。
二人共鷹匠町で被爆しました。

私も全身やけどでものすごく苦しんでいましたので、父と兄の死に目にも会えませんでした。私は４日位して家の人がタンカで家につれて帰ってくれました。父は、下痢がひどく何も食べないのに私のことを気遣って、家の人に私の方を見てやるようにといったそうです。家の人も父はやけどもしていないし、私の方に気を取られているうちに父はなくなったのです。こんな悲しいことが今後絶対にないようにみんなで力を合わせて、がんばって行きたいと思います。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１６歳〕
（３４－０１１４）

【死亡家族の概況】
① ８／１７　父　５２歳　直爆距離ＮＡ　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆によるひどい火傷をおっていたので、陸軍病院に青年団の人達にかついでいかれた。その時「△△たのむよ…」と言って去っていった。４～５日目に母の実家の方へ一緒に疎開した。近所の人達が、火傷でうじ虫がわいてひどい悪臭があるので父をいやがった。水をくれ、水をくれと言ったので、もうだめならのみたいだけのませてやろうと水をあげた。

８歳の時でよく覚えていない。亡くなる時、父のまくらもとに呼ばれて立ったまま見ていた。ぼう然と立っていたとしかいいようがない。

〔広島　直爆３.０㎞　男　８歳〕
（２０－００６８）

【死亡家族の概況】

① ８／１７　叔父　４３歳　直爆０．８㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔叔父〕外傷は全くなかったが、８月７日からは全く食欲もなく、苦しみはじめた。８月９日に市内から逃れるため、叔母は小さなひき車に叔父を乗せて五日市に行った。それから班点が出たり、ゲーゲー吐いたりして、とうとう、最後には、血を洗面器一杯くらい吐いて、８月１７日夜１１時頃息をひきとったときいている。

私は弟（大火傷）の看病のため、行かなかったが、母が最期に立ち会っている。

当時、私の父がいなかったので、叔父を父のように思っていた。何も外傷が無くて、あのように内ぞうが全く崩れ去るとは、何にも例えようがない。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１７歳〕
（３４－５９９６）

【死亡家族の概況】

① ８／１７　姉　１４歳　直爆０．５㎞　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕全身にやけどやけがをしており、とくに、頭部に穴があいていた。うじ虫がわいて、もだえ苦しんでいた。死んだあと、フトン、タタミ、床板まで、体の型がうみや汁などで、くっきりと残っていた。

似島に収容されたが、手当てをしてもらうことも無く、ただ死を待つばかりであった。田舎（父の故郷）に行き、病院に行ったが、「これはもう助からないか

ら」と手当てもしてもらえず、伯母の家で８月１７日に死亡しました。何もしてもらえず、死にたくなかったであろうにと思うと、悲しくてしかたない。しかし、私に残してくれた姉の言葉は私の人生に大きな力となって現在も生き続けている。

〔広島　直爆1.5㎞　男　１０歳〕
（３４−７１９７）

【死亡家族の概況】
① ８／１８　母　４２歳　直爆1.7㎞　大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕あの日、母は、矢野町勤労奉仕で鶴見橋付近にて被爆し、助け出されて、矢野国民学校に収容されていました。全身火傷で腫れあがった顔の中から、私の安否を気遣ってくれていました。教室の中に収容されている人達も、苦しい息の下から水、水と言われます。

私は鋏で皮膚を切り、ピンセットで膿や汁を出して、薬や油等、火傷に良いといわれる手当てはみなしましたが、血便も出るようになり、とうとう、８月１８日夕刻、亡くなりました。火葬も、土を掘ったままの所でしました。

私をはじめ、幼い弟妹を残して苦しみながら逝った母は、断腸の思いだったでしょう。今、この子たちを残して死なれないと、毎日泣いていたことが、忘れられません。すぐの弟も被爆して一緒に収容されていましたし、兄の戦死の公報も入って、私は途方にくれました。あれから４０年、未だ、弟、妹達の世話をして過ごしていますが、あのような苦しみは二度とないことを願っております。

〔広島　直爆2.0㎞　女　１６歳〕
（３４−０１１５）

【死亡家族の概況】
① ８／１８　妹　２７歳　直爆爆心地　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕被爆して２日目頃から身体がだるくなり、顔が紫色に変わって口から出血するようになりました。この状態が２週間続き、出血多量になって意識不明のまま死んでゆきました。

もし、原爆が落とされていなかったら、妹はみじめな死に方をせず、今も元気で生きていると思えば、被爆４０年経た今になっても原爆がにくらしく思っています。

〔広島　入市　女　２９歳〕
（３４－３６２５）

【死亡家族の概況】
① ８／１８　姉　３２歳　直爆１.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕捜しているうちに古市の収容所にいることがわかり、祇園町山本の知人宅までやっと連れて行きました。全身ヤケドでところどころ骨がハミ出していた。最期まで水水と言って苦しみながら、子供を頼むと言って死んで行きました。

何とむごい死に方でしたので、未だにその時の状況が目にうつります。

〔広島　直爆３.０㎞　女　２１歳〕
（３４－５９１２）

【死亡家族の概況】

①	８／６	義父	６６歳	直爆０．５㎞	圧焼死	遺体で
②	８／６	叔母	５７歳	直爆距離ＮＡ	爆死	行方不明
③	８／６	姪	６歳	直爆０．５㎞	不明	遺骨で
④	８／１９	義母	６７歳	直爆０．５㎞	爆死	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義父〕半焼けになっていたそうです。足首と手首がなかったそうです。脳味噌が焼けていなかったせいか、４日たって中をあけて見ましたら白ありがいっぱい出て来ました。

〔姪〕６歳でしたので、骨がやわらかく、白くなって、ほとんど白く灰になって、手でさわるとぼろぼろとこなのようでした。

〔義母〕やけどがひどく、手でさわると皮がずるずるとむげて赤くなっていたそうでした。口の中に炎焼〔ママ〕のような物をのみこんだと言われ、口の中が赤くなってそれが白くなり、皮がずるっととれてきて痛くなって、くるしみながら、８月１９日朝、亡くなったそうです。

義母は自分だけがたすかったので申し訳ない、孫をあずかった息子に申し訳がたたないと言って、なげき泣いていました。やがて自分も亡くなるということも忘れて、孫のこと、口がきけなくなるまでさけぶように言って、いたいーいたいーのであったそうです。

私は食料をもとめに家に帰り、２１日に呉に行きましたら、亡くなられた後でした。まことに残念に思えてなりません。

〔広島　入市　女　３１歳〕
（１４−２０１８）

【死亡家族の概況】

①	8／19	兄	18歳	直爆1.0㎞	大けが・原爆症
②	8／19	従弟	NA	直爆距離NA	NA
③	8／19	従妹	NA	直爆距離NA	NA

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕父、母、姉が3日目の8月9日に国立病院の芝の上に転がっていたのをやっと見つけて戸板にのせられ、トラックでわが家に帰ってきた。下敷きになり、体は傷だらけ、ガラスの破片も数知れず、外科医師に、毎日傷の手当てを受けたが、ガラスの破片を取り除くのに（麻酔）なしでするからギャーと叫んでいた。これが毎日続いた。熱も続いた。

死の直前には氷をガリガリいくつか食べた。おいしいと言った。思い出したくない、兄の死だった。

〔従弟、従妹〕同じ日、時間がずれて、従弟妹が2人死んでいった。兄の方は無傷で帰ったが、脱毛と発熱で死亡、妹は全身やけど、うじ虫が湧き死亡。

親たちは気が違った人間みたいだった。私は自分のみ助かったことがくやまれて辛い日々を送った。現在も叔母に逢うと、思い出させるから、辛い気持ちは変わらない。

〔広島　直爆2.0㎞　女　14歳〕
（23−0066）

【死亡家族の概況】

①	8／19	父	50歳	入市	原爆症
②	NA	伯母	NA	直爆2.0㎞	大やけど
③	NA	姪	NA	直爆距離NA	NA

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕原爆投下の１日後に入市をしました。姪の遺体を捜しにその時、市内で水道の水を飲みました。それが原因でその晩より腹痛をして血便が出はじめ、医者もなく薬もなく８月１９日死亡いたしました。

父は腹痛なのに水をものすごく欲しがりますが、水を飲ませば死ぬとの世間の噂におびやかされ、何の手当ても出来なかったことがくやまれます。

〔広島　入市　女　１８歳〕
（３４－４３１９）

【死亡家族の概況】

① ８／６　父　５３歳　直爆１．０㎞　ＮＡ
② ８／２０　母　４０歳位　直爆１．０㎞　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕自宅の下敷きになり、母に助けだされ（あさのたくみの屋敷、おせんてい〔泉邸〕）まで連れて逃げ、そのへいのそばにねせて、母は私をさがしに来てくれました。父はそこで死んだと警察署からの知らせで、のちわかりました。

〔母〕山口県まで私を助けながら逃げて、出血多量のため、山口県、叔父の家にて死亡。

ア）死に方がむごすぎる。
イ）薬があの時あったら。
ウ）私の方が母にふたんをかけた。
エ）父と母にせめて墓くらい作ってあげたい。
オ）でももう少し生きていてほしかった。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１４歳〕
（２２－００２０）

Ⅲ．8月以内の死

【死亡家族の概況】

①　8／21　兄　22歳　直爆0.25㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕１４日から１８日にかけて市内からその周辺の収容所を捜し歩いたが見つからず、いったん家に。帰ると同時刻に兄からのハガキと手紙の２通が配達された。８日と１３日に書いたもので、８日のハガキには燃えかすの棒切れでか？「元気だ。心配しないように」、１３日の手紙は「全身がだるく動くのがやっとで、東城仮陸軍病院へ向かっている車中にて」といった要領のものだった。

何んとかして連れて帰ると父が入れかわりに現地へ、母は薬など準備し遅れて東城へ。付近の医師に往診を乞い、注射など打ってもらってはみたものの、高熱で衰弱がひどく手のうちようがなく、死をみつめるしかなかったとのこと。苦しみの果て、多量出血による死亡。

終戦をよろこび「元気になったら勉強のやりなおしを」と言葉を残して死に至った息子に、何もしてやれなかった両親にしてみれば、あの無残な原爆に対して煮えくり返るような憤りの人生しかなかったと思う。

軍隊では仮収容所〔のこと〕、所在の記録すらなく途方もない収容所歩き。母と兄の出会いがもう少し早かったらと、どうにもならない事情であれ、未だにくやまれる。当時のことにはふれたくない、が本心。

〔広島　入市　女　１６歳〕
（１７－０００９）

【死亡家族の概況】

① ８／２１　妹　１４歳　直爆２.０㎞　大けが・大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕ほとんど全身やけどで顔はサッカーボールのようにはれ、目は見えなくなり、いたい、いたいともだえ苦しんで死んで行った。

薬もなく医者もおらず、何もしてやることができなかった。全く今では考えられないむごい死に方であった。何ら責任も罪もない１４歳の少女を、生きておればどんな青春と人生のすばらしさを味わったかも知れないのに。

〔広島　直爆３.０㎞～　男　１６歳〕
（２２－０３０７）

【死亡家族の概況】

① ８／２１　姉　３０歳　直爆１.０㎞　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕町内（宇品神田通り）からの指示（命令）で勤労奉仕に雑魚場町（１㎞）へ建物疎開作業に出て被爆。全身にわたって火傷し、火傷していないのは目と鼻と口だけで、あばら骨を３本ぐらい骨折し、父親が毎日宇品の守衛所へ連れていき、兵隊さんの治療を受けていました。毎日、苦しみもだえながら８月２１日に息をひきとりました。
私も同じ場所で被爆し火傷していましたので、姉の様子をつぶさに見て世話をしてあげることができませんでした。

姉はとてもやさしく、毎日、私の弁当を心配したり、暑い時、むぎわら帽子にリボンをつけて「暑いからこれをかぶっていきなさい」と言ってさし出して

くれ、あの頃、物のない時代だったので、着物をといて簡単服をつくってくれたり、私は姉を頼りにしていましたので、子供心にいつも、健康だった姉が亡くなり、残念でなりませんでした。家族の者もみんな力を落としていました。

８月６日、姉も雑魚場へ行き、作業場の角に立って、私の姿を見て手をふってくれました。それが最後でした。

母から聞きましたが、８月６日、被爆してすぐ宇品に帰ればいいのに、夕方の３時頃に帰ってきた。母が尋ねると「雑魚場で家の下敷きになった親と子を助けてあげていたので……」と話していたそうです。

〔広島　直爆１.０㎞　女　１４歳〕
（３４－７１２０）

【死亡家族の概況】

①　８／２２　兄　４２歳　直爆距離ＮＡ　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕顔や手の肘がやけどとけがで、手はブラブラとなり、額には大きな口が３っ４っあいて、唇は３倍にもふくれあがり、苦しみながら他界しました。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　２２歳〕
（３４－７１７９）

【死亡家族の概況】

①	８／６	母	４５歳	直爆１.６㎞	大やけど・圧焼死	遺骨で
②	８／６	弟	１２歳	直爆０.８㎞	爆死	行方不明
③	８／２３	父	４９歳	直爆１.６㎞	大やけど・原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕戸外で被爆し後頭部、背中全面やけどをしていました。熱が４１．５度ぐらいまで上がり、下痢がひどく食欲はあまり無く、８月２３日に死亡するまで高熱は下がらず血便が続きました。

〔母〕戸外で被爆し大やけどをして家の下敷きになって、助けてという声が聞こえましたが、火事が早くて助けることができませんでした。

〔弟〕中学１年生で県庁前の立ちのき建物整理の勤労奉仕に出て行ったきり行方不明で、似の島方面にも捜しに行ったのですが現在も不明です。

父は健康な人でした。父が８月６日午前８時頃、左官町から家財を疎開させるために来てくれて、一緒に被爆したから私は助け出してもらうことができて、現在、生きていられるのは父母の犠牲のお陰と思っています。

母は私とあまり離れていないところで被爆しました。母も私も大やけどをして家の下敷きになりました。私は足が動かないのでどうしても出ることができませんでした。父が私を引き出してくれるのが時間がかかり、やっと出られた時には私の左足はブラブラで一人で歩くことが出来ませんでした。火事が近くて母を助けることが出来なくて残して行ったのが残念で、私は一生くやみ続けることと思います。

弟はこれからという人生をなくし、骨もひろってあげることが出来ず可哀想で仕方がありません。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２０歳〕
（１３－３３－０１３）

【死亡家族の概況】

①	８／６	妹	１３歳	直爆０.３㎞	爆死	行方不明
②	８／２１	義父	５２歳	直爆１.０㎞	大やけど	遺骨で
③	８／２３	母	４６歳	直爆１.０㎞	大やけど	遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義父・母〕広島市中広町発電所付近で被爆、大やけどを負いながら大芝の親戚まで逃げ、身体がだんだん腐り、死亡。太田川〔の〕河原にて焼く。

〔妹〕当時、広島市立女子商に在学中。水主町、又は材木町付近の疎開作業中、被爆。現在まで遺体、遺骨なし。

被爆４０年を迎え、ただただ感慨無量です。心に残る後遺症は消すことは出来ません。原爆投下により家族は全滅。住む家もなく無一文になった時の悲哀。生きるために歩んだ荊の道の長かったことか。貧困者に対する世間の風、頼る心のむなしさを感じた。ただ忍ぶこと、耐えること、希望を持つこと、戦場で生死の境で鍛えた強靭な精神と身体のみが支えてくれました。

今日まで無我夢中で生きてきた尊い健康な身体の資本のみ。お互い、滑らかな気持と相互扶助、理解の念に徹したい。これからは世のため少しでも努力して人生を終わりたい。

これが亡き人に対するせいいっぱいの気持と、これ以上の惨状は二度と起こらないよう、いつまでも平和であるよう念じたい。

被爆して大やけどの後、数日間、皮膚は破れ、うみの中〔に〕うじが発生、もだえ苦しんだむごい死に方に対し、激しい憤りと悲しみを感じる。

〔広島　直爆１.５㎞　男　２５歳〕
（３４－３０１２）

【死亡家族の概要】

① ８／６　父　４８歳　直爆０.１㎞　圧焼死　行方不明
② ８／２３　祖母　８７歳　直爆２.３㎞　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕爆心地、広島郵便局で全員死亡とのこと。私は翌日、翌々日と救護所、死

体収容所など捜して回りましたが、分かりませんでした。
〔祖母〕家が半壊して下敷きになり、頭と足を大けが。足の膝は骨が出てうじがわいてきました。熱も高く、医者に連れてゆくことも出来ず、井戸水で冷やして家庭といっても縁側に寝せて看病しました。食べることも出来ず、年齢のせいか枯れるように亡くなりました。

父が生きていてくれたらと、いつも思っていました。原爆の光とともに一瞬のうちに死んだと思いますが、平和になるほど、身にしみて、祖母にも何にもしてやれなかったことなど、死に方がむごすぎ、戦争は嫌です。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１７歳〕
（３４－６１０８）

【死亡家族の概況】
①　８／２３　夫　４６歳　直爆１.５㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕西天満町の会社の外で被爆し、全身が火傷で仰向けに寝ることも出来ない状態で、お医者さんがおられるわけでもなく、薬といっても何もなく、紙を焼いてその灰を水で練ってたり、胡瓜をすってそれを薬としてつける程度で、あの大火傷が治るわけがありません。

ちょっとした火傷でも我慢出来ないのに、さぞ苦しく、つらかったことだと思いますが、当時のことでどうすることも出来なく申し訳ないと今でもこころが傷みます。

どうして広島・長崎にだけ原爆が投下されたのか、日本全土に原爆が投下されていたら、この苦しみを多少でも理解してもらえるのではと思う日々、主人を返せと毎日思う苦しい生活でした。

〔広島　直爆２.０㎞　女　４１歳〕
（３４－２１０７）

【死亡家族の概況】
① ８／２３　父　６１歳　直爆０.８㎞　大けが　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕勤め先の鉄砲町の建物内で被爆し大けがをして、私と会えたのは８月９日だと思う。己斐の親戚に身を寄せ、母と私に支えられて１週間ぐらい己斐小学校でそれこそ簡単な傷の手当てを受けた。十分な手当ても受けることなく、果物が食べたいと言ったが、野菜はおろか果物などは一かけもなかった。そしてだんだん弱っていった。意識ははっきりしていたが、母と私と叔母の３人の名前を代わりがわりに呼んで、亡くなったのは８月２３日であった。

真面目な、それこそまっとうに人生を生きた父であった。原爆に遭うことがなかったら、母とともに幸福な余生を送ったと思う。
原爆を境に弱い母と２人で生きてきた。父が生きていてくれたら、私の結婚も人生も大きく変わったと思う。恵まれていなかったことで、戦後何かにつけて父のことを思った。そしてこれも亡くなった叔母を思った。父を返せ、失った人を返せ、私の青春を返せと叫びたい。

〔広島　直爆３.０㎞　女　２８歳〕
（３４－５０５７）

【死亡家族の概況】

①　８／２４　母　４１歳　直爆１.５km　大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕上肢、下肢、顔、胸を火傷、軍隊の野戦病院（学校）に収容され、８月２４日、黒い血をはいて死んだ。

戦火によって妻を失い全財産を奪われ癌で死んだ父、やけどで苦しんで死んだ母、原因不明の病気で死んだ姉（５００m被爆）、機能障害で病む姉、後遺症になやむ私。否、死亡した者、生きている者、全ての被爆者には今も戦争は続いている。

父に母に亡くなった人たちに国家は何もしていない。彼等こそ当時、国家のためにとどんなことも耐え忍んだ人たちなのです。商売をしていた私の父でしたが、２度も建物疎開で家屋をこわされました。父は何度も子供３人を道づれに心中を考えたそうです。私たちの苦しい戦争はいつ終わるのだろうか？なんの見通しもない。光明がほしい。

〔広島　直爆１.５km　男　１１歳〕
（３４－０７０１）

【死亡家族の概況】

①　８／２４　夫　３５歳　直爆　距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕全身やけど、目も見えない。手も曲がったまま、口、耳はしっかりしていたが、１８日〔間〕生きていたが、からだからはこげ目からうみが出ていた。死ぬ前日、枕元は出血で血の海、翌日、突然死ぬ。

１８日間、目も見えず、苦しんで死んだ。医者も薬もなく、全身やけどで手のつけようもなく息を引き取ったが、口や筆で言い尽くすことはできない。

〔広島　入市　女　２８歳〕
（３４－４４２９）

【死亡家族の概況】

①	８／６	母	５４歳	直爆０．３㎞	圧焼死	遺骨で
②	８／６	叔母	３５歳	直爆０．３㎞	圧焼死	遺骨で
③	８／６	いとこ	１４歳	直爆０．３㎞	圧焼死	遺骨で
④	８／６	いとこ	７歳	直爆０．３㎞	圧焼死	遺骨で
⑤	８／６	いとこ	３歳	直爆０．３㎞	圧焼死	遺骨で
⑥	８／６	いとこ	２歳	直爆０．３㎞	圧焼死	遺骨で
⑦	８／２５	いとこ	１３歳	直爆０．７㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

被爆当時、私の家は天神町北組（今の平和記念館があるあたり）で、家には私と母、そして名古屋から（広島は名古屋より安全と思って）叔母が５人の子供を連れて私の家に疎開しており、８人の家族であった。なお、叔母たち６人は２０年８月１日に私の家に疎開した。

したがって当日、通学していた私とイトコの△太郎以外は、天神町の家で被爆死した。

〔いとこ⑦〕長男の△太郎（１３歳）は８月９日に偶然私と会い（ほとんど無傷）、翌日名古屋へ帰ったが、直ぐに発熱し、８月２５日に急性原爆症で亡くなった。

上記以外に私の親戚は同じ天神町と大手町、小網町、田中町にあったため、母と叔父、叔母、イトコ全部で１９人が死亡した。

台所と思われる所で６人の遺骨が散らばっていたが、誰の遺骨か全然判別でき

なかった。

なお、私は８月７日、８日に遺骨を捜しに行ったが、私自身が重傷で足が立たず、目もほとんど見えなかったため、私自身を支えるのがやっとで、とことん捜すことができなかった。

死に方があまりにもむごすぎる。すでに瀕死の状態にあった日本に対し、なぜに無差別殺りく兵器を使用したのか、憤りを感じる。

私は弟のように可愛いく、兄のように慕ってくれた△太郎を失ったことは、この上なく残念で、生涯忘れられないだろう。４０年経った今、母を思い、名古屋からわざわざ死にに来たような△太郎を偲びながら、供養と思い、今、△太郎の思い出を書き綴りつつある。

〔広島　直爆２.０㎞　男　１７歳〕
（３４－００２４）

【死亡家族の概況】

①	８／６	父	４５歳	直爆距離ＮＡ	不明	行方不明
②	８／６	姉	１３歳	直爆距離ＮＡ	爆死	遺骨で
③	８／２６	母	３９歳	直爆１.２㎞	大やけど	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕基町の幼年学校に勤務していまして被爆、遺体も遺骨もない。

〔母〕大人３人、私と同じ場所で被爆。子供の私は爆風で飛ばされたらしく、大人たち（母）は２０日後にやけど、けがで亡くなりました。

〔姉〕学徒動員で爆心地で学校単位で作業中に被爆、死亡。

私は精神的不具者だと思っています。母の日のカーネーションでも、私にとってはとても残酷なカーネーションであり、あらためて父、母、姉を返せ、好

きで親無しになったのではない。父たちと同年代の人たちを見るのが辛く、また、反面、恋しくて、その家族がとても羨ましい。

〔広島　直爆1.5㎞　女　11歳〕
(11−0120)

【死亡家族の概況】

①	8／6	伯父	55歳	直爆1.0㎞	大やけど・爆死	
②	8／NA	伯母	NA	直爆距離NA	NA	行方不明
③	8／26	母	51歳	直爆1.2㎞	原爆症	遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔伯父・伯母〕大阪から3年前、頼って行ったたった1人の伯父とは7月末の強制疎開、立ち退き（たった5日間に）の際、別れたきりで、被爆後も市内の収容所をずいぶん捜し回りましたが、全然見つからず（当日、直爆死していたことををあとから聞いた）。

〔母〕誰1人として身内のない私たち。母が亡くなるまでは食べ物らしいものは全然口に出来ず、放射能で内臓をやられていた母は生前の面影はなく、だれもたずねてきてくれるものもなく、弱って田舎の小学校の床板の上で死んでゆきました。せっかく、転居して（強制立退きのため）新しい家に入り、たった5日目に（今から好きなことをして長生きしてほしいと思っていたのに）受けた原爆のため、暑い最中を逃げまどったあげく20日目にとうとう力尽きて亡くなった母（51歳で）。どんなにか残念だったことだろう、また、苦しく、寂しかったことだろうと思います。

身内のなかった私たちゆえ、本当に食べ物一つないままに過ごした何日間、着のみ着のまま（被爆当時の服1枚）それも破れていっぱい血のついたそのままで（着替えなど全然無い）死んでいった母。弟も私も同様の姿で、全く何も

してやれなかったことが残念です。それに母の亡くなった午後（午前中に死んだ）に初めて頂いた乾パン、何も食べるものもなく死んでいった母、「せめて午前中に頂けていたら、一口でも食べさせてあげられたのに」と（どんなに喜んだろうにと）それが残念で残念でたまりません。父亡きあと私たちのために一生懸命、仕事をしてくれた母なのに、あの憎き原爆のため、可哀想な死に方をしていった母、「もう一度あの甘いぜんざいを食べたい」といつも言っていた母、生きていてくれたら何でも好きなものを山ほど食べてほしかった。あの元気でにこにこしていた母を返してほしい。

〔広島　直爆１.５㎞　女　２４歳〕
（２８−０１４９）

【死亡家族の概況】

①	８／２１	兄	１７歳	直爆０.６㎞	大けが・原爆症
②	８／２４	父	４６歳	直爆０.７㎞	大けが・原爆症
③	８／２４	姉	１５歳	直爆０.７㎞	大けが・原爆症
④	８／２６	母	４２歳	直爆０.７㎞	大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕高熱が死の１週間前より続き、歯より出血、斑点が出てもがきながら息を引きとる。

〔母〕同様で、死の直前〔まで〕私たちを心配して死亡。

〔兄〕同様で下痢もあり、苦しむ最中、息を引きとる。

〔姉〕同様で口から血、虫をはいて〔の〕無惨な死は、今も私の頭から離れない。親類の人を入れると２０名くらいは被爆死しています。

神仏のお迎えで死亡したのであれば致し方ありませんが、私１人が親類の人の手を借りながら、一夜に２人死亡したのには余りにもショックが大きいです。

４人死亡して放心したような日々が３～４年、続きました。

だが、死んだ人はよいが生きている私自身、終身死刑を宣告されたような不安な日々を送っています。

弟は鼻血が常に出て自殺しました。

〔広島　直爆１.５㎞　男　１３歳〕
（３３－００７１）

【死亡家族の概況】

①	８／６	義姉	３５歳	直爆距離ＮＡ	爆死		行方不明
②	８／２８	兄	４２歳	直爆０．８㎞	大けが・原爆症		遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕県庁の近くで被爆。やっとの思いで母と２人、故郷の今治へ帰り、母の実家の離れの部屋で医師も何の病気か分からず、当時のこととて薬もなく、ただブドウ糖の注射をするのみ。毛は全部ぬけ、口、鼻などからひどい出血で死亡。母をはじめ親戚一同、悲しみにくれました様子。

私は当時、宇品の船舶司令部におりましたので８月２８日の死亡した日には帰れませず、９月にキトクカエレの電報を入手、あの当時ですもの、打電したもの〔が〕２週間以上して入手、まだ死亡しているとは知らずにやっとの思いで帰って驚いたものです。４０年後の現在ウソのようです。イヤな事件で思い出したくもないことで。

〔義姉〕全くの行方不明です。

悲しくつらい思いで、何かあると、今元気ならどうしているかと思いめぐらすこともありますが。アメリカが憎いと母がよく言っておりました。その母も９４歳で５５年に死亡。

〔広島　直爆　２.０㎞　女　２０歳〕
（１３－２６－００１）

【死亡家族の概況】

①	8／6	妹	8歳	直爆0.85㎞	爆死	行方不明
②	8／6	妹	6歳	直爆0.8 ㎞	圧焼死	遺骨で
③	8／6	妹	3歳	直爆0.8 ㎞	圧焼死	遺骨で
④	8／6	弟	0歳	直爆0.8 ㎞	圧焼死	遺骨で
⑤	8／14	母	35歳	直爆0.6 ㎞	大けが・原爆症	
⑥	8／28	祖母	59歳	直爆0.8 ㎞	大けが・原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕家の下敷きになり独自で逃げ出した。頭には大きなけがをして骨が見えていた。腕からはガラスのかけらが3コ出、腰からは木の破片が2コ出てきた。8月24日頃から体全体に斑点が出来、高熱が続き、血をはいて8月28日に苦しみもがき死亡した。

〔母〕10日頃から床についたままで、食欲がなく血をはき、高熱にうなされ、脱毛し8月14日に苦しみ死亡。

〔妹①〕近くの寺子屋教室にいっていて、外で遊んでいて被爆、即死したらしい。はらわたが飛び出し無残な姿で死んでいたらしい。未だに行方不明、遺骨もない。

〔妹②〕隣の家で即死したらしい。

〔妹③〕隣の家で家の下敷きになり、まだ生きていたそうだ。「おばちゃん、ええ子しているから助けてちようだい」と助けをもとめていたが、家が燃えてきてどうすることも出来ず、生きたまま焼死したようだ。

〔弟〕自宅で焼死。

私の家族は戦争、原爆により8人家族が、私1人生き残ったのです。

祖母と母は死に目にあえたが、何と〔も〕むごい姿で苦しみあえぎ死んでいった。未だに目の前に浮かび忘れることが出来ない。妹3人、弟1人は死に目にあえず、また、1人の妹の遺骨は未だに不明です。

こんなむごい戦争、原爆をにくみます。父、母、妹、弟7人を返せとさけびたい。戦後私は11歳でどんな苦しい生活をしてきたことか、口では言えない。現在も後遺症になやまされている。

〔広島　直爆1.0㎞　男　11歳〕
（27－0316）

【死亡家族の概況】
①　8／28　兄　37歳　直爆1.0㎞　大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕頭の先から足の先まで指で押した位の斑点が出来、咽喉は腫れつぶれ、水一滴も通らず、髪の毛はち〔ょ〕っと手でさわっただけでズルとぬけて、どうすることも出来ず、死を待つばかりでした。つける薬もなくお医者さんも少なく〔て〕なかなか来てくれず、あわれで見ていられませんでした。8月28日お昼にとうとう息を引き取りました。幼い2人の子供を残し、こんなむごたらしいことがあってよいものかとみんなで泣きました。

原爆さえ落ちていなければ、母親のいない子供2人が、また、父をなくし親無し子にならなくて済んだものをと思えば、今もって子供たちが可哀想でなりません。両親の顔さえ覚えておりません。兄が生きていてくれたならもう少し、子供たちもちがった幸福があったのではないかとくやまれてなりません。
二度と原爆などといった戦争があつてはなりません。強く望みます。

〔広島　入市　女　18歳〕
（34－0493）

【死亡家族の概況】
①　8／28　兄　17歳　直爆1.0㎞　大やけど・大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕やけど、けがをしているにもかかわらず手当てをする薬がなく、やけどには油がよいというので普通では使用しないようなもの〔を〕ぬったり、火傷を表面をかわかすために人骨の灰がよいといううわさがあり、それを薬がわりにはったこともあった。その後は名古屋方面から救護隊が小学校へ常駐、手当てをうけたがほとんど薬らしいものも使われなかった。8月26日、治療にいって火傷にはってあった布をはがす時、表面の皮がはげ出血がとまらず、手をうつすべなく、血を受け皿をおいて受けるよりほかはなく、苦しむなかを8月28日午後8時、他界した。

・戦争のむごたらしさが腹がたった。
・何もしてやることができなかった。
・町医者に来てもらったが注射1本もうってもらえず、くびを横にふって帰られたこと（医者には責任なく、うらみなし）。

〔広島　入市　男　14歳〕
（34－5367）

【死亡家族の概況】

①	8／6	姉	24歳	直爆1.5㎞	圧焼死	遺骨で
②	8／6	妹	13歳	直爆1.3㎞	爆死・不明	行方不明
③	8／29	父	49歳	直爆1.5㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕建物（木造）の下からはい出たとのことで、元気であったが、8月27日頃から急に悪くなり、髪の毛も抜け出し、また、薬などもなく、死んだ。火葬後、その遺骨をとりに行った時、胸部のあたりが真っ黒で（アスファルト、コールタールのよう）なかなか離れなかった。原爆の毒素か打撲のせいかと

話したものである。
〔姉〕母が遺骨で確認。
〔妹〕建物のとりこわし作業に参加しており、不明である。

私どもは安芸門徒（あきもんと）であり、また当時は戦争中ということでもあって、悲しいことではあったが仕方がないと思っていた。その殺され方がひどすぎると思い出したのは、かなり後年になってからであった。

〔広島　直爆２．０㎞　男　２１歳〕
（１２－０２２８）

【死亡家族の概況】
①　８／２９　夫　４９歳　直爆１．０㎞　大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕頭に負傷して歩いて帰宅した。脱毛、紫斑、高熱が続き、歯ぐきの出血があって食欲もなく、死亡の時には多量の腸出血があった。頭の傷もせっかく縫合した糸も取れてパックリと大きな穴になり、紫色の分泌物が出ていた。

苦しんで死んだ夫がむごすぎる。長女、長男の被爆者をかかえ、幼児２人を残され途方にくれた。生きていてくれたらと思う。

〔広島　入市　女　３７歳〕
（３４－５１７１）

【死亡家族の概況】

① ８／６　　妹　　８歳　直爆１.３㎞　爆死　　　　　　　行方不明

② ８／３０　父　５０歳　直爆１.３㎞　大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕背中全体のやけどがなおりかけた頃より下痢がはじまり、頭髪もぬけてきた。起き上がる力もなくなり、病名もわからず、日一日と弱くなり、８月３０日、亡くなった。

〔妹〕近所の家で子供たち（３人）が下敷きになり、火が強くなって助けられず、仕方なく逃げたと、２０年１０月に妹の死を知らされた。

父の場合は医者もいなく薬もなくて……。現在だったら助かったかも知れないと思う。

妹の場合、子供たち３人が助けてと叫んでいるのを助けられず逃げた、と泣きながら話されるのを聞いて……。

４０年過ぎた今、思い出してもあまりに悲しいと思う。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１６歳〕
（０１−００３６）

【死亡家族の概況】

① ８／６　　父　６０歳　直爆０.８㎞　圧焼死　　　　　　行方不明

② ８／６　　妹　３０歳　直爆０.３㎞　圧焼死　　　　　　遺骨で

③ ８／３０　弟　１９歳　直爆１.２㎞　大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕中国新聞社から建物疎開〔に〕動員され、加古町の元県庁前のΔ氏宅へ行った由。

〔妹〕陸軍病院の看護婦長であったが、勤務交代で本院から紙屋町の第一分院へ来たところだった由。

〔弟〕修道中学を出て第二国民兵として幟町小学校で勤務中、下敷きになり、若い力で這い出て、中山へ疎開していた陸軍病院へ行き治療を受け、９日に我が家へ帰って来たが、背中はシャツの上から釘などでひっかいたように傷で血だらけ。鎖骨が折れていたので青崎の山本病院へ毎日通わせたら、鎖骨はなおったが、下旬頃から頭髪が抜け始め、血便が出て苦しみながら８月３０日に我が家で死んだ。

父は遺骨も何もないのが悲しい。私の弟２人と主人は戦争に。男手が一つもなくなったところへ（けが）をしても帰ってくれた弟。母が喜んだのもつかの間、ついに死んだ。医者が近くにおればと思い残念。

大洲の広場へ穴を掘って焼いたが、なかなか焼けず、３度目にやっと骨になったが黄色いような大きな油の塊りが出て驚いた。

〔広島　直爆２．０㎞　女　３４歳〕
（３４－４３７７）

【死亡家族の概況】

①	８／６	妹	２０歳	直爆０．３㎞	ＮＡ	行方不明
②	８／３０	妹	１７歳	直爆０．３㎞	大けが・原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹①〕第１陸軍病院で遺体も遺骨もなく、毎日死体の中を、もしやどこかで苦しんで待っていたら、との思いにあきらめ切れない肉親の情で捜し歩きましたが、何の手がかりもありませんでした。

〔妹②〕土橋へ建物疎開の手伝いで被爆。頭にけがをして気を失い、火の中で目が覚めて白島方面へ逃げて、８月９日家に帰ってきたが、頭の毛は抜け鼻血

は出流れ、肉のかたまり様のものを吐きながら苦しみ抜いて、8月30日息絶えた。17歳の妹。

日赤看護婦として前途有望だった20歳の妹。生きていてくれたらと思うことが多すぎる。

帰って来たとはいえ、死に方が余りにむごすぎます。17歳の娘ざかりを「殺してよ！殺してよ！苦しい、苦しい」と。

妹2人を原爆でとられた母は1年に10歳ぐらいふけ込み、25年には妹たちの後を追いました。あきらめ切れません。

〔広島　直爆3.0㎞～　女　23歳〕
(34－4552)

【死亡家族の概況】

①	8／9	姉	34歳	直爆1.5㎞	爆死	遺体で
②	8／30	次女	2歳	直爆1.5㎞	大やけど	NA
③	9／30	姪	3歳	直爆1.5㎞	大やけど	NA

【死亡の状況・遺族の思い】

〔次女〕私も被爆して顔は鬼瓦のようにはれあがっておりますけれど、耳だけは聞こえていて、そばに寝ておりまして、2歳の幼児は頭がずるっこになり、食事も食べなくなり、毎日、「ブーチャン、ブッチャン」（水のこと）と、熱が高いのでお水ばかりもとめて日に日に痩せ、頭全体が悪いので体を横たえることも出来ず主人にだかれたまま、寝たり目をさましたりで苦しんで死にました。

全般に、被爆者はこの世の地獄を味わってきて、手助けのある被爆者は治療をうけられ生きのびられるけれども、あの時は、生き運のある人でも身の回り

を手伝って励ましてくれる人がそばにいない被爆者は、生き続けることが出来なくて、死んでゆくのがあたりまえのようなありさまでした。

〔広島　直爆1.0㎞　女　27歳〕
(35－0077)

【死亡家族の概況】
①　8／30　妹　29歳　直爆0.7㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕火葬場に行きたくない、火葬場に行きたくないと言い続けて亡くなる。2、3日前から肉の塊のような物を吐いて、その苦しみが余りに可哀想で、遺書は8月19日付けの日付であった。もう覚悟していたのでしょう、自分は死んでも力強く生きてくれ、必ず守っているから、お父さんを頼む、お父さんを頼む、と言って亡くなりました。

やけどもけがもしないで帰ってくれたので、家中みんな喜んで、本人もその内によくなると思っていたのでしょう。8月15日、被爆した人の看護に正伝寺のお寺〔へ〕午前8時に家を出て午後5時に帰った。その時の常会長は△△△△という男だつた。前日夕方、明日は正伝寺の方に行ってくれと言って来たので言われるとおりに行ったけれど、胃が痛いと言っていたのに当時はお上の命令はごもっとも、ごもっともで言われるとおり行った。行かずに見てやればよかったと今では残念で残念でくやまれてならない。思い出したら胸が張り裂けるようだ。
考えたくない。

〔広島　入市　女　34歳〕
(34－7162)

【死亡家族の概況】

①	8／6	弟	13歳	直爆0.6㎞	爆死	遺体で
②	8／31	姉	19歳	直爆0.6㎞	大やけど・原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕被爆して火の海の中を通り、山ぞいに午後9時頃現在、大芝3丁目まで戻る。日に日に体力が落ち外にも出なくなり、歯ぐきから出血、皮膚には斑点（栄）が出る。頭の髪が抜ける。意識は死の直前までしっかりしていた。家族の者を気にして死す。

〔弟〕大きな石の下敷きになって死す。石から出ているところは丸焼け。

〔広島　直爆1.5㎞　女　15歳〕
（34－5021）

【死亡家族の概況】

①	8／6	母	41歳	直爆1.0㎞	圧焼死	遺体で
②	8／23	妹	16歳	直爆1.0㎞	原爆症	
③	8／31	父	47歳	直爆1.0㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

いずれも八丁堀の自宅で被爆。

〔母〕上半身が焼けただれた座ったような格好で、自宅の建物の下敷きになった遺体で3日後に発見。

〔父・妹〕どちらも外傷はなく、見た目には普通人とほとんど変わらなかったが、頬が墨でもぬったようにうす黒くなっていた。亡くなる10日ぐらい前から頭の毛が抜け始め、死亡する直前には毛髪がほとんどなくなり、歯ぐきから出血し、苦痛からか急に寝床から起き上がったり、うわごとを言いながら死

んでいった。

私が１９歳のとき被爆し、両親と妹、家財を一瞬にして失い、１カ月に３人の葬式を出した悲しみは一生忘れることができない。

広島に原爆が投下されなかったら、親子でもう少しましな生活ができたのではないかと思っている。

〔広島　直爆1.5㎞　男　１９歳〕
（３４－５１９６）

【死亡家族の概況】

①　８／３１　父　４３歳　直爆1.7㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕直爆後、一応自宅に帰ったが、顔の色が赤黒く黒ずんで、頭には2カ所、ガラスの傷あとがありました。元気のようで何となく弱っていました。日がたつにつれて頭の毛が抜け出し寝込むようになり、高熱におかされて苦しむようになり、高熱で水、水と最後まで苦しんで亡くなりました。死に際、私に手招きし、後を頼むとの一言でありました。後の家族の心配が心に残ったことと思います。

父は帰った時は、自分は命を拾ったと喜んでいましたが、あんなおそろしい毒のある原爆とはその当時はわからず、命を拾ったと思っていましたが、喜びもつかの間、日に増し悪くなり、その当時は原爆に対する病気の治療もお医者にもわからず、私とし〔ても〕家族のもの〔も〕どうしてよいかわからず、ただ毎日、近家で冷たい水をもらい頭の熱と胸の熱をタオルで冷やすのが精いっぱいでした。あとは何も出来ず、食事も次第〔にとれ〕なく〔なり〕、水、水と苦しんで高熱におかされ死んで行った父を思い残念でなりません。亡くなった時は、背中が黒く、熱で全面に焼けていました。

〔広島　入市　男　１５歳〕
（３４－１０２９）

【死亡家族の概況】
①　８／３１　夫　３４歳　直爆１.２㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕当時、軍人であった夫は被爆後、幟町小学校より１週間目位に家に帰り、終戦を聞いて軍隊の整理や遺家族のお世話のために出かけて行き、髪がぬけおち斑点がでるまで働いて、軍医のすすめで帰宅したまま倒れて、高熱と、口からと下から恐ろしいほど汚物をだしつづけ、何の治療法もないまま９日間、苦しみつづけて亡くなりました。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　３０歳〕
（３４－５８５４）

Ⅳ. 昭和２０年内の死

【死亡家族の概況】
①　８／６　父　６３歳　直爆０.１㎞　圧焼死　行方不明
②　８／１０　長女　１７歳　直爆１.５㎞　爆死
③　９／２　妻　４７歳　直爆１.５㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕△△△△子、学徒動員で宇品本局勤務。朝出勤、家を出る間もなく被爆。

後、祇園高女寄宿舎に行き、先生のお世話で８月１０日死亡。

〔妻〕△△△△△ヨ、私の妻は広瀬北町△△番地で被爆、建物内でしてやけどはしませんけれど放射能〔障害〕で９月２日死亡。全身赤く模様〔状〕となり、下痢、また咽喉をやられ水をのめば咽喉を通せず鼻に出る。大変可哀想でした。

〔父〕△△△△助、私の父６５歳は８月６日、細工町島病院で下敷き、爆死。遺体も骨もありません。

　私の母も、父を広島市にさがすため出広。８月９日に出て被爆し手帳も受けておりましたが、昭和４１年６月１日死亡いたしました。

私、いつも忘れられぬこと、世界で初めて広島・長崎で被爆〔した〕国、多くの死者を出し、公務のためで死んだ人も気の毒ですが、他の住民、近所の小さい子供さん、家の下敷き可哀想ですね。それに中曽根さんはレーガンと話合い、加藤防衛長官らと有事の際を考えて、防衛費上げることばかり考えて、税金の無駄使いと思う。少しは原爆で多くの死者を出したこと「考えてほしい」。中国残留孤児など大変気の毒ですね。

〔広島　直爆1.5㎞　男　３９歳〕
（３４－１７０９）

【死亡家族の概況】

①　９／２　　義兄　３１歳　直爆0.5㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義兄〕二部隊〔陸軍の部隊名〕の二階廊下で被爆し無傷であったが動けず、双葉の里に収容されていたので連れ帰った。数日経って二部隊が解散し、自宅（疎開先）で療養することになった。だんだんと頭の毛が抜け始め、紫斑が日に日に多くなり、吐血を始め、食事も受けつけなくなった。ブドウが良い

と聞き、長束から似保まで歩いて何回も買いに行って食べさせたが、全然効果がなく、９月２日他界した。

原爆症の実体がその時には分からず、手当ての方法も分からないまま死なせたことが残念。姉（２２歳)と２歳の姪が残り、いとおしく、人生がそこから一変して不幸になったのを目の前に見て辛かった。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　２１歳〕
（３４－６０９４）

【死亡家族の概況】

① ９／３　夫　３４歳　直爆０.５㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕被爆後４日目に自宅へ汽車で帰って来た。その時は何も傷もなく、他の人は次々に死んでいかれても「私は平気だ。元気なものだ」と豪語していたが、下敷きの時、傷めた左足が痛いと言い出し、近くの病院で手術をすることになったが、メスをいれても血も出なかった。もの凄い悪臭（死人の臭い）だった。そのうち髪の毛が抜け出して目が見えなくなり、１０日目に死亡した。

今の医療なら命があったのではないかとくやまれる。あまりにもあっけなかった。

〔広島　入市　女　２８歳〕
（３４－１２３６）

【死亡家族の概況】

① ８／２５　夫　　２９歳　直爆１.０㎞　大けが・原爆症

② ９／４　　長男　　１歳　直爆２.１㎞　大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕第２部隊内で被爆し、体いっぱいにガラスの破片をうけ、白木町の自宅まではこばれ、２０日目に出血多量、脱毛、下痢、食欲不振というあわれな状態になり、亡くなりました。医者の手当てもなく、苦しみ苦しんで体は小さくなっていました。傷口から血がとめどなく出血しはじめ、古い浴衣などたくさん使いました。

〔長男〕屋内で被爆しましたが、ガラスの破片で右耳が裂かれ、出血多量で充分な手当てもできず、満１歳の離乳期でしたが母乳もなく、おも湯だけの毎日で日毎にやせ、下痢〔が〕続き、医者にかかることもできず、ただ私がだいていてやることが精いっぱいで、毎日毎日ヒーヒーと泣いて、９月４日の朝、息をひきとりました。何もしてやれなかったことは、とても残酷で辛いことでした。

原爆にあっても市内周辺の方で〔に〕家があった人とか、食べ物が十分であった人は、やけどやけがのかるい人は、助かっている人が多いようです。

私の家族の場合も当時、医薬が十分で食べ物がよければ、特に子供の場合、助かっていたのではないかとくやまれます。何もしてやれなくてただ見殺しにしたようで、あわれであわれで、今でも当時のことを思うと残念です。

当時、亡くなった人も、戦争を、原爆を憎んでなくなられたと思います。

〔広島　直爆３.０㎞　女　２４歳〕
（３４－７２５４）

【死亡家族の概況】

① ９／２　夫　４８歳　直爆１.０㎞　原爆症

② ９／４　母　６８歳　直爆１.５㎞　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕９月２日午後２時、苦しんだ末、夫は死にました。８月２７日頃から風邪をひいたようで咽喉が痛むと申して熱は３９度５分まであがり、何か食べようとしてもむせて咽喉を通りません。被爆直後から髪がぬけ、はぐきははれ、顔が無表情になりおかしいとは思っていました。でも元気で、行方の分からない両親、伯父、叔母を毎日、捜し歩いておりましたので、まさか死ぬとは思っていませんでした。薬は分からないので「どくだみ」をせんじてのんだり、お茶の葉をかじるといいということをしたりしましたのに、近くの西下医師の往診も間に合わないで息をひきとりました。死顔は蝋人形のように美しくなりました。

〔母〕父母はあの日、東観音町の貸家の見まわりに行って家の下敷きになり、けがをしまして五日市の方へ連れて行かれ、捜してつれかえりました。頭、からだとけがをして９月４日、夫のあとを追ってひっそりと亡くなりました。

夫も母も私が公園で焼きました。悲しくて口惜しくて。

父母は五日市の収容所にいましたのを紙屋町のはり札でみたのは８月２０日頃でしたから、もっと早く捜し出したら、傷の手当ても行き届いて母は死ななかったかもわからないと残念です。でも戦後の苦労を思う時、あの時死んだのが不幸か、生き永らえたのが幸かよくわかりません。

〔広島　直爆１.５㎞　女　４７歳〕

（１３－１２－１００）

【死亡家族の概況】

①	8／6	姉	１7歳	直爆0.4㎞	爆死	遺骨で
②	8／6	妹	4歳	直爆1.1㎞	圧焼死	遺体で
③	8／6	妹	2歳	直爆1.1㎞	爆死	遺体で
④	9／5	父	45歳	直爆1.1㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕父親は寒い寒いと言っていた。こたつを出した。赤い斑点が出て脱毛もあった。最初は風邪をひいていたのかと言っていたが、どんどん悪くなっていった。おかしなこと、うわ言を言っていた。3～4日ぐらいしか寝込まなかった。あっという間だった。

周りにも似たような人がいっぱいいた。

自分も13歳だったので細かい記憶がない。

〔姉妹〕姉妹には骨〔に〕しか会えなかった。

父親が生きていたらと思う。他のことを考える余裕はなかったし、周りの人がどんどん亡くなるので死ということがピンとこなかった。死そのものについて鈍感になっていた。

従兄弟に△△ちゃんは涙も出さなかったと言われた。もっとひどい状態が周りにあった。今ではとても想像出来ない。

父が悪い時、ブドウ糖を5～6本、父の弟が高い金を出して買ってきた。死んだ原因も分からない。

〔広島　直爆3.0㎞～　男　13歳〕
（34－6281）

【死亡家族の概況】

①	8／6	父	50歳代	直爆0.5㎞	不明	行方不明
②	8／6	姉	17歳位	直爆0.6~7㎞	不明	行方不明
③	8／8	母	50歳	直爆1.0㎞	不明	
④	9／6	姉	18歳	直爆0.5㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕行方不明。8時にトラックで家（宇品）を出かけたので、時間的にいって紙屋町あたりではなかったかと思います。

〔母〕8月8日死亡。町内の勤労奉仕で雑魚場（市役所の裏）あたりにいたらしく、8月7日、日赤でみつけることが出来た。会った時、意識ははっきりしていて火傷もなく、右腕を骨折していたので、家に引返し大八車を用意して迎えに行った。

8月8日朝、暗いうちに亡くなった。苦しかったと思う。亡くなるまで水をほしがったのを覚えている。棺などなく、タンスの引出しを棺の代わりにして火葬にしたが、朝か昼か夜だったか思い出せない。

〔姉④〕中電話局に勤務していて地下にいて助かったが、9月6日死亡。だれが知らせてくれたか忘れてしまったが、大野浦の小学校に収容されているということで，原爆から20日目に消息がわかった。兄が連れに行って連れて帰った。火傷、怪我もなかったが、放射能をたくさん吸ったんだと思う。意識はしっかりしていたが、家族に会えた安心感が出て弱っていた。死ぬ前、ぶどうをずい分ほしがり、私が自転車で大州まで買いにいったが、季節でなかったのか、済んだ後だったのか、食べさせることが出来ず、今でも残念に思う。それですぐ亡くなったか、翌日亡くなったか覚えないが、血を口、鼻から吐きながら亡くなる。1日前から亡くなるまで吐いていたかもわからない。ずい分苦しかっただろうと思う。

〔姉②〕8月6日、日本発送電勤務。行方不明。

結局、戦争がなかったら、家族を失わなくても済んだのにと思う。

〔広島　直爆3.0㎞～　男　14歳〕
（34－5871）

【死亡家族の概況】
① ９／６　夫　２７歳　直爆０.３５㎞　大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕脱毛、発熱、出血が止まらない。その血が止まった時は腐肉のような臭いがして全身斑点が出来て腐って苦しみながら死んで行った。意識だけは最後まで確かであった。

意識だけはっきりしていて腐って行く自分の肉体と生命を医師も一切手のつけようも知らぬまま、死を待つ時の気持を考えると、あまりにもひどいとたまらない気持です。
被爆後、一カ月も経っていたのに、山口県の山の中に帰っていたばかりに、と悔まれます。あるいはそのまま広島に留まっていたら治療の方法もあったのではないか、など思います。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　２５歳〕
（３５－０１７０）

【死亡家族の概況】
① ９／ＮＡ　義弟　０歳　直爆２.７㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義弟〕被爆して１カ月後、日毎に乳を飲む量が少なくなり、日毎にやせて見るのも痛々しく、最後には乳も飲まなくなり死んでいきました。

何も知らず、何の罪もない幼い命がうばわれたことは忘れることができません。

〔広島　直爆２.０㎞　男　１４歳〕
（２７－００４９）

【死亡家族の概況】

① ９／７ 父 ３６歳 直爆０.３㎞ 大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕当時、爆心地に程近い「富国生命ビル」に勤務しており、ビル内のため、やけどは免れたようですが、頭に大きなけがをしていたようです。疎開先の己斐町へ帰る途中、娘さんを助け避難させたと語っていました。帰宅後、静養しておりましたが、約２週間をすぎた頃より、身体に紫斑点が現れ始め、続いて頭髪が抜け落ち、ちょうど、１カ月目に他界いたしました。

男として働き盛り（３６歳）の父は今からという時、さぞ悔しかったことと思う。私は父より永生きしてしまったけど、父が生きていてくれたら、原爆が無かったら、私の人生は必ず１８０°変わっていたことははっきり言えると思う。

〔広島 直爆２.０㎞ 男 １０歳〕
（２７－０２１５）

【死亡家族の概況】

① ８／６ 姉 １１歳 直爆距離ＮＡ 原爆症
② ８／３１ 母 ４３歳 直爆距離ＮＡ 原爆症
③ ９／３ 姉 ８歳 直爆距離ＮＡ 原爆症
④ ９／８ 姉 １４歳 直爆距離ＮＡ 原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

父が昭和１７年に亡くなり、２どめの父がきって〔来て〕８月６日の朝、宇品のほうえしごとで行た。

すかり〔すっかり〕あとのことをしってくれました。〔その父も〕私が１１歳

のときなくなり、こちらえもらわれってきました。それまでは、広島のＡＢＣＣれ〔で〕みってもらっており、こちらえきってからは保健所でみてもらいます。〔精密検査に〕ひっかかりますと大きいびょういんでみってもらっております。

私が６歳のときなのではっきりとはおぼえっておりませんが、８月６日の朝、きんろうほうしとかで行〔った〕あねは、がっこうでなくなりました。私は１人になりおかげで、人さまのめシをたべって大きくなりましたが、おやのいないものほどみじめでつらいものほどありません。おやさえいきっていってくれたらとどんなにおもったことか、このとしになってもこのようなじしかかくことができず、母がいればがっこうえもいかれっただどう〔だろう〕にと、いまだにくやまれってなりません。

〔広島　直爆１.５㎞　女　６歳〕
（３２－００６６）

【死亡家族の概況】

①　９／８　姉　１８歳　直爆０.７㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕８月中は元気だった。９月１日から高熱が出始め、鼻血が出た（洗面器にいっぱい）。体中に斑点（ぶどうの玉のようなもの）が出て髪の毛もぬけた。部屋に一緒に寝ていたが、高熱にうなされ、ふとんをかついで「己斐の山から逃げよう、逃げよう」と言ったりした。とてもみていられないような状態でした。

自分は寝たきりでお葬式に行けなかった。１９歳であんな死に方をするのは本当に可哀想だった。

〔広島　直爆２.０㎞　女　１６歳〕
（３４－７１１４）

【死没家族の概況】

①	8／6	祖母	NA	直爆距離NA	NA	行方不明
②	9／9	父	NA	直爆距離NA	原爆症	
③	9／10	母	NA	直爆距離NA	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕遺体も遺骨もなく

〔父〕９月初めに貧血で倒れそのまま寝込む。毎日輸血をした。９日に心臓麻痺を起こし亡くなる。

〔母〕９月初め、けがをしたら血が止まらない日もあった。それから２～３日して起きられず、３日目ぐらいから紫斑が体中、口腔にまで出来、物が食べられず言葉もはっきりしなくなり、同じく輸血をしていたが１０日に亡くなる。

何も様子がわからなく、医者もどうしてよいか分からなかったよう。助かったことがくやまれるとともに生きてゆくことへの不安が大きく、また、１人になって墓守りをせねばと色々思いなやんだ。生きていてくれたらとは今も思う。すべてを失ったものを返してほしい。

戦争はどんなことであれ理屈でなくいやだし、これを次代に申し送りせねばと思う。

〔広島　直爆1.5㎞　女　１７歳〕
（１２－０１７４）

【死亡家族の概況】

① ９／１１　母　３４歳　直爆1.2㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕無傷だったのに突然に斑点が出はじめ、高熱とともに咽喉には何も通らず、

無理に口にいれて食べさせると鼻の穴から水や食べ物が出て、大変元気だった母は１２日間、もだえ苦しんで最後まで意識がはっきりあり、２～３時間前から遺言を皆に言って、頼む、頼むと子供のことを伯父、伯母に言って亡くなりました。

母の姉が大やけどをしていたので看病していたのですが、天満町電停で被爆したのですが、元気な体だったので色々と人を助けて、２週間後に急性原爆病になり、亡くなりました。それはそれは苦しみました。近所のご主人も母と同じようになり、カミソリで咽喉を切ろうとされ、奥さんがとめられましたが、直ぐ亡くなられました。

死に方がむごすぎる。何の手当ても出来なかった。原爆の放射線で焼かれた皮膚は黒こげになって治療が出来なかった。痛い痛いと泣き叫ぶ中学生の弟の友達の声が、今も耳につき目に焼きついてはなれない。背中一面焼かれ、看病しているお母さんをみないと誰かわからなかった。病室は宇品小学校の動物小屋だった。外にもいっぱい入っていた。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１５歳〕
（３４－７２１７）

【死亡家族の概況】

①	８／６	父	６３歳	直爆０.５㎞	圧焼死	遺体で
②	８／２５	祖父	８０歳	直爆１.２㎞	原爆症	
③	９／４	姉	３４歳	直爆０.５㎞	原爆症	
④	９／１２	母	５２歳	直爆１.２㎞	原爆症	

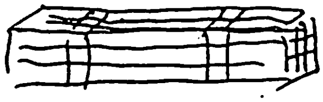
【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖父〕老齢で家屋の下敷きのため胸部打撲による内出血。入れ歯の紛失、下痢。

〔父〕　兄２名で焼残りの背の部分を火葬にして遺骨にして持ち帰った。

〔母〕　脱毛、歯ぐき出血、全身斑点、３日寝ただけで死んだ。
〔姉〕　岡山で死亡、母に同じ

母はピンピンしていたのが３日寝込んだだけで死に、遺体はスケスケの１０㎝ぐらいの幅の〔木でつくった〕身長大の箱で、マキを積み上げ焼きました。女のお寺さんでお経の終った時は涙が止まらなかった。



〔広島　直爆１.５㎞　男　１３歳〕
（２８－００６５）

【死亡家族の概況】
①　８／１４　母　５１歳　直爆１.０㎞　大けが・大やけど
②　９／１８　父　６０歳　直爆３.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕母方の家で８月６日以来、母と私が収容された所を捜したり、市内の知人の安否を気づかって大手町爆心地の方を歩いた由、体がだるいと言ってたそうです。以来、寝たきりで２０年９月１８日朝方、突然に亡くなりました。
〔母〕立ちのき作業のため町内会長さんたちと鷹の橋方面に出て全身大やけどで帰ってきました。専売局から出汐町の方に収容所が変わり、私と２人でしたが、おそらく苦しまれたことでしょう。全身水ぶくれな状態でした。

私も当時、小学生でしたので何もしてあげられず、私もやけどで顔がはれ目が見えなく、亡母が氷でひやして下さった（母でないような変わり方）の姿を見たとたん、目が見えなくなり、目が見えるようになった時〔に〕母が死んで

る姿を見た。死に方のむごさ、私は一生忘れることは出来ない。現在のような葬式がしてあげられないことが、いかに戦争と言えむごい。

本当に父と母を返せと叫ばずにいられません。

〔広島　直爆２.０㎞　男　１１歳〕
（２８－０３３０）

【死亡家族の概況】

① ８／６　母　３１歳　直爆１.０㎞　圧焼死　遺体で
② ８／３１　妹　３歳　直爆０.８㎞　原爆症
③ ９／１０　父　４３歳　直爆１.０㎞　原爆症
④ ９／１９　弟　１２歳　直爆０.８㎞　大けが・大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕咽喉から肉片を出し吐血しました。吐血して２日目、急に咽喉がつまりあっけなく死亡。

〔母〕爆風で押しつぶされ家の下敷きになり、父の必死の救出も、意外に早い火災に母を断念。そのため母は焼死。８月７日朝、焼け跡に炭化した頭と胴だけの焼死体を私が発見、後日、それが母であったことを父から確認。

〔弟〕左半身大やけどを負い、患部は化膿してうじ虫がはっていた。体は衰弱しって骨と皮になり、死の直前には目玉がとび出していた。そして水を欲しがり死に水をとった。体が硬直してからも心臓はなかなか止まらなく〔て〕約２時間後に死亡した。

〔妹〕腹痛がひどく丸一昼夜、下痢が止まらなかった。顔面には３㎜程度の紫斑が多数見られ、なにか不吉な予感さえした。私たちが少し目をはなした間に、突然死亡。あまりにあっけない出来事に私はただあ然とした。

私は弟と妹を宇品の海辺で火葬した。（このことは一生忘れることが出来ない）

母の場合は私が家へ帰っていたら助かっていたかも知れないと思うとくやまれるし、炭化した焼死体が私の脳裏にやきつき一生はなれないだろう。

父が死亡する前日、まわりの人たちのすすめで焼跡へ父を火葬するたきぎを拾いに行った。戦争とはいえあまりにもむごいと思った。

弟が亡くなる２日前、枕崎台風が西日本を襲った。弟は私に、同じ死ぬのだったら高松で死にたいから連れて帰ってほしいと哀願したけど、台風の被害は大きく交通機関は麻痺していた。気落ちした弟は、２日後に淋しく死んだ。

妹は３歳で死亡した。この世に生を受けて３年、何を目的に生まれてきたのだろう。食糧もなく、母の背で避難の毎日だった妹。何の罪もない妹を奪った戦争が憎い。また私にとって一番大切な肉親を誰が責任をもって返してくれるのですか。

〔広島　直爆３.０㎞　男　１４歳〕
（３７－００４３）

【死亡家族の概況】

①	８／１０	義兄	３０歳	直爆１.０㎞	原爆症
②	８／ＮＡ	義姉	３４歳	直爆１.５㎞	原爆症
③	９／ＮＡ	妹	ＮＡ	直爆１.５㎞	原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

当日、皆、助かっていて生きていることの喜びを大声で「たしかめあった」のに、そのあと次々に突然、ころころと亡くなっていった人々に驚きもし残念で、胸がこみ上げて悲しみにふるえ、なんとお話したらいいか、とても理解はいただけないでしょう。それからはこわくて誰にも話せず、だまって胸の奥無言に「とじ込めて」きました。可哀想で！みじめで……忘れられません。

〔広島　直爆1.5㎞　女　年齢不明〕
（33－0162）

【死亡家族の概況】

①	8／6	弟	14歳	直爆距離不詳	大やけど
②	8／6	妹	9歳	直爆距離不詳	爆死
③	8／6	弟	3歳	直爆0.9㎞	圧焼死
④	8／26	妹	6歳	直爆0.9㎞	大けが・原爆症
⑤	9／11	弟	12歳	直爆0.9㎞	原爆症
⑥	10／1	父	52歳	直爆0.9㎞	原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕大手町7丁目の自宅で被爆し、その後爆心地を通って逓信局へ私を捜しに行ったり、行方不明の二男や四女、四男のことで行ったり来たりして、昭和20年10月1日、やせてやせて、母と父の間に私が寝ていましたが、朝起きてみたら隣で寝ていた父が死んでいました。

〔弟①〕二男は朝、家を出て学校へ行く途中、橋の上でやられ、全身やけどで見分けがつかないほどだったそうです。江波のオバサンと出会い「オバサン、オバサン」と言ってもわからなかったとか。江波のオバサンの家で面倒をみてもらったが、その日に亡くなり、遺体を江波の小学校に預け、そのまま火葬され遺骨もない。

〔弟⑤〕三男は大手町の自宅で被爆し、外傷はなかったのですが口の中にできものができ、何も食べずにいつもビンをかかえ、うがいをするだけでとうとう死んだんです。イチジクを食べさせたが少し口に入れただけですぐもどしましたよ。

〔妹②〕四女は朝、母の手伝いをし、「ジャガイモをむいたよ、お母さん、遊びに行くよ！」と言って出たまま、行方不明で遺骨もありません。

〔妹④〕五女は家の下敷きになり、両親がやっとの思いで引っぱり出したんです

が、頭に１０㎝もの傷があり、ものすごい下痢をして８月２６日に死んだ。可哀想でしたよ。

〔弟③〕四男は家の下敷きになり「カーカン、カーカン」と母を呼び、助け出してやれず両親は逃げました。

もう生き地獄じゃね。可哀想で可哀想で……。母は「ヤンキーの顔はみとうない。子供を殺しやがって」と言っていました。

〔広島　直爆１.０㎞　女　２１歳〕
（３４−７０７０）

【死亡家族の概況】

① ８／６　妹　１８歳　直爆０.５㎞　爆死・不明　行方不明
② １０／２　弟　２歳　直爆２.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕朝、出勤のため自宅を出て、爆心地近くの左官町の勤務地の間で被爆、行方不明。

〔弟〕自宅（広島市大芝町）で母と２人で戸外で被爆。やけどがひどく下痢もひどくなり、１０月に死亡。近所の人が太田川でお骨にしてくれました。

妹の場合、爆心地近くで死んだらしいのであまり苦しまなかったと思います。遺体がないので死亡確認が出来ず、３、４カ月すぎてもどこからか返ってくるような気がしていました。

弟は２歳で可愛いさかりでしたので、だんだんやせて来て食べることも出来ず、泣く力もなくなり人形のような状態になり死亡した時は、両親の失望が大きく、近所の人のはげましで母は立ちなおったような有様でした。

〔広島　入市　女　１９歳〕
（１９－００３３）

【死亡家族の概況】

① １０／６　妹　１９歳　入市　原爆症　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕昭和２０年１０月６日に死亡した妹は、私が広島に居ったので捜しに広島に入市した。その折に放射能をあびたものなのか、腸チフスの疑いで国立病院に入院した。

原因不明の高熱が続き、病院では腸チフスの疑いと言うが（当時、伝染病は広がっていなかった）、その熱のため死亡した。

高熱に対する薬が病院になかった。ただ氷枕で冷やすだけでどうすることも出来なかった。

死を待つばかりで看護する者にとってはとても辛い毎日でした。熱の原因が分からない当時の病院側、今になって見ればよい薬がたくさんあるのに、残念でたまらない。

〔広島　直爆３．０㎞～　男　２６歳〕
（３４－０６０２）

【死亡家族の概況】

① ８／６　母　ＮＡ　直爆１．０㎞　圧焼死　行方不明

② １０／１０　父　ＮＡ　直爆１．５㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕逓信病院に収容された私を看病し、次第に父の目も見えなくなり、私はやけどで見えないので、気がついた時、父は冷たくなっていました。

〔母〕平塚町の自宅で朝、私を元気よく送りだしてくれ、その後、家の下敷きになり、圧焼死し、未だに遺骨もありません。

父は血を吐き死んでいました。父の遺体を逓信病院の庭で丁寧に焼いてもらいました。父の焼ける様子を級友は逐一報告してくれるんですね。「今、手が焼けたよ。顔が焼けてるよ。最後のお腹が焼けてるよ」。ジリジリと私が焼けていくような思いで聞いていました。これこそ地獄の苦しみ、思い出すと悲しくて、涙が出てしまいます。

母は動員に出る私を元気な姿で送ってくれ、死んだなど信じられませんでした。いつ、母が帰ってくるか〔と〕待っていました。風の音がすると母ではないかと外に出てみたり、長い間、母を戸籍から抹消しないでいました。

〔広島　直爆2.0㎞　女　年齢不明〕
（34－7069）

【死亡家族の概況】

①	9／1	兄	18歳	直爆距離NA	大やけど・原爆症	NA
②	10／10	弟	9歳	救護	原爆症	NA

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕長男△△△△は20年8月12日、自宅に帰ってから吐き気、下痢、発熱、頭の髪はぬける大病にかかり、その当時、薬はないので薬草をせんじて与えたり、マムシをとつて食べさせたりして治療していましたところに、軍隊の籍のある人は、当時、安佐郡大林村国民学校が陸軍病院になっていました、

そこに連れてこいと言われたので、２０年８月２０日、大八車で連れて行く。軍医の治療〔を〕うけましたが、むなしくも２０年９月１日、死亡。

その後、９月５日頃から家族全員が１日おくれ、または２日おくれで吐き気、下痢、発熱で大病となり、その中で４男の末弟（当時９歳）は下痢、発熱症状で２０年１０月１０日死亡。後の残る家族も２０年１０月２９日頃まで病症状が続いた。

〔広島　入市　男　１３歳〕
（３４－６１０５）

【死亡家族の概況】
①　１０／２７　父　５０歳　直爆1.2㎞　大けが・大やけど　遺体で

【死亡の状況・遺族思い】
〔父〕生前の面影もなく、顔はゆがみ片目になってしまった。頭にガラスの粉（今も残っている広銀・金山支店前で）が入ったので、頭も少しおかしかったように思う。父と２人並んで寝ていたが、夜毎、おらぶ（さけぶ）声が今も脳裏に焼きついている。おらび（さけび）ながら死んでいった。
（私は寝ていて身動きができなかったので、回りの人に聞いたりした話です）

あまりにも犠牲が大きすぎるからこそ、「生きなくてはいけない」と思う。

〔広島　直爆1.5㎞　女　１８歳〕
（３４－５８１６）

【死亡家族の概況】

① ８／６　　　父　４３歳　直爆０.５㎞　　　　遺骨で

② １０／２９　母　３８歳　入市　　　　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕防衛招集で兵役中、８月６日、市内で爆死。当時、行方不明とのことであったが、その後、戦死の公報あり。遺骨を庄原市まで取りに行く。

〔母〕父、不明とのことで母と姉が広島市へ捜しに行く（８月９～１２日）も不明。帰宅後、貧血ぎみとなり病床につき、約２カ月後の１０月２９日死亡。お尻や眼のふち、鼻、歯ぐきなどから出血しつつ死亡。医師は腸チフスのような症状といっていたが、今、考えると急性白血病〔急性原爆症〕のように思われる

戦争に対するにくしみ、やりきれない気持である。当時、妹は２歳の乳児であったこと。母の病気治療に役立つ薬もなく、何もできず残念である。

〔広島　直爆２.０㎞　男　１６歳〕
（３４－１３２６）

【死亡家族の概況】

① ８／６　　　父　４９歳　直爆０.２㎞　圧焼死　遺体で

② ８／７　　　弟　１３歳　直爆０.８㎞　爆死

③ １０／２９　妹　１７歳　直爆１.５㎞　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕爆心地で、生前の面影はなく黒こげになっていました。

〔弟〕土橋で疎開作業中に被爆し、全身やけどで７日の朝、亡くなりました。

〔妹〕家の中で被爆し、全身に５０カ所ぐらいガラスの破片がささっていました。

苦しみ、１０月２９日に亡くなりました。

父も弟も８月６日の朝は元気で家を出て行きましたのに、突然の死はあまりにむごすぎます。

妹はガラスの破片が腸にささり、あまり手当てを受けないまま腹膜炎を起こし亡くなりました。女学生だった妹に十分の治療が出来なかったのが残念です。

〔広島　直爆１.０㎞　女　１９歳〕
（３５－００２５）

【死亡家族の概況】

①	８／６	妹	１３歳	直爆１.０㎞	爆死		行方不明
②	８／１７	弟	５歳	直爆２.０㎞	爆死・大やけど		
③	８／２３	弟	１１歳	直爆２.０㎞	大やけど		
④	１１／８	母	４８歳	直爆２.２㎞	原爆症		

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕建物疎開に学校から行ったきり、捜したがとうとう見当たらなかった。

〔弟２人〕土手に上がった時原爆に遭い，前半身大やけどになり骨まで見えるように身がぐしゃぐしゃになり、見られない姿になり苦しみながら、うわごとに「兵隊さんバンザイ」と何度もうめきながら死にました。何一つ食事もとれず、食べるものもありませんでした。

〔母〕家の内で被爆しましたが、腰が立たず、それっきり体中が水ぶくれになり皮膚が裂けて水が流れ出て、医者〔に〕もみて貰えず亡くなりました。ごはんが食べたくても大豆ばかりで、今思っても一口のごはんでも食べさせてあげたかったと思います。動けるのが私一人だけで、１６歳の子〔供〕には何も出来ませんでした。

妹が行方不明で早く捜しに行きたくても弟２人〔と〕両親を私１人で看病しなくてはいけないので捜しに行くのが遅れ、心のこりです。１日中、町中を捜して歩きました。その様子は言葉にはなりません。

弟２人は大やけどで、未だ小さくて何をしてやってよいかおろおろしていた私が、今も２人にすまないと思います。

私も死にたいと思って、何度自分で自分の首を締めたか分かりません。頭の血が石のようにガンと頭に重くのしかかるような気がして、今私が死ぬと父が寝たきりでしたのでどうなるかと考えるとそれも出来ず、泣き泣きこの４０年、今も涙が流れます。口に出せず、今は幸せそうに見えますが、心は４０年前と変わりません。

〔広島　直爆1.5㎞　女　15歳〕
（06－0009）

【死亡家族の概況】

①	8／6	義姉	28歳	直爆1.2㎞	圧焼死	遺体で
②	9／26	甥	2歳	直爆1.2㎞	原爆症	
③	11／12	父	54歳	入市	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕観音町の家の中で被爆し柱の下敷きとなり、甥は爆風で屋根の上にとばされた。近所のおばさんはその様子を見て話された。姉は柱の下敷きになり、火が足元まで燃え始め、助けて下さい、助けて下さいと叫びながら、火が広まった、どうすることも出来なかった、と泣いて話された。

〔甥〕３歳でしたので屋根の上にとばされ、近所のおばさんと一緒に避難した。田舎に帰り急に原爆症になり、９月２６日、水をちょうだい、水をちょうだいと言ってこの世を去った。

〔父〕被爆した嫁、孫、妹一家、兄一家（父から見て）が爆弾で壊滅し、全焼し

た。遺体、遺骨をさがしに１０日ぐらい入市した。そのため急性原爆症になり、３カ月位苦しんで、１１月１２日他界しました。合掌。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１６歳〕
（３４－１５６１）

【死亡家族の概況】
① １１／２４　母　４７歳　直爆１.５㎞　不明　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
母が亡くなった時は別に悲しくもなんともなかったような気がします。なぜならあまりにも幼すぎたから、５歳の私には死というものがよくわからなかったようです。
でも本当の悲しみはそれ以後にあったように思います。親を無くした友達が多勢いましたので、私はまだ父がいるから幸せなんだと自分に言い聞かせていたように思います。でも本当は辛い子供時代だったのです。

〔広島　直爆１.５㎞　女　６歳〕
（２７－０２１８）

【死亡家族の概況】
① ８／６　甥　１歳　直爆２.０㎞　圧焼死　遺体で
② １２／１５　父　６３歳　直爆２.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕父は手広く鹿児島で人を使い商売をしていました。昭和２０年の６月、鹿

児島の空襲で家が全焼し、この頃、病床にあった父は故郷の広島に家族７人で疎開。１カ月ぐらいで被爆、いっそう具合が悪くなって、広島の田舎にある鍼灸の学校で１カ月ぐらい治療いたしました。着のみ着のままだった私たちは、寒くなってきたので熊本の知人を頼って山の中腹にあるミカン小屋をかりて住みましたが、水道もガスも電気も畳もない、丸木で作った寒い小屋で、父は全身むくみ、尿毒症の毒が頭にきて哀れな姿で亡くなりました。

鹿児島では大きな家で裕福に暮していた父が、ろくろく医者にも診てもらえず、食べたいものもたべさせてやれず、ローソクのゆらめくあの寒い小屋で亡くなったと思うと、今でも思い出すたびに胸が痛み悔やまれてなりません。

〔甥〕姉の子供は可愛い盛り、姉と３階だての建物の下敷きとなり即死しました。どなたか親切な方がたすけ出して下さったとみえ、私が見つけた時は、道端にまるでキューピーが眠っているように転がっていました。

母は初孫をとても可愛がっておりましたので一生懸命名前をよびながら一日中身体をさすり、ふところにだいてあたため神様に祈っていました。でもとうとう生きかえらず、翌日には紫色に打撲のあとがはれてきて、２日目には死臭が出はじめました。

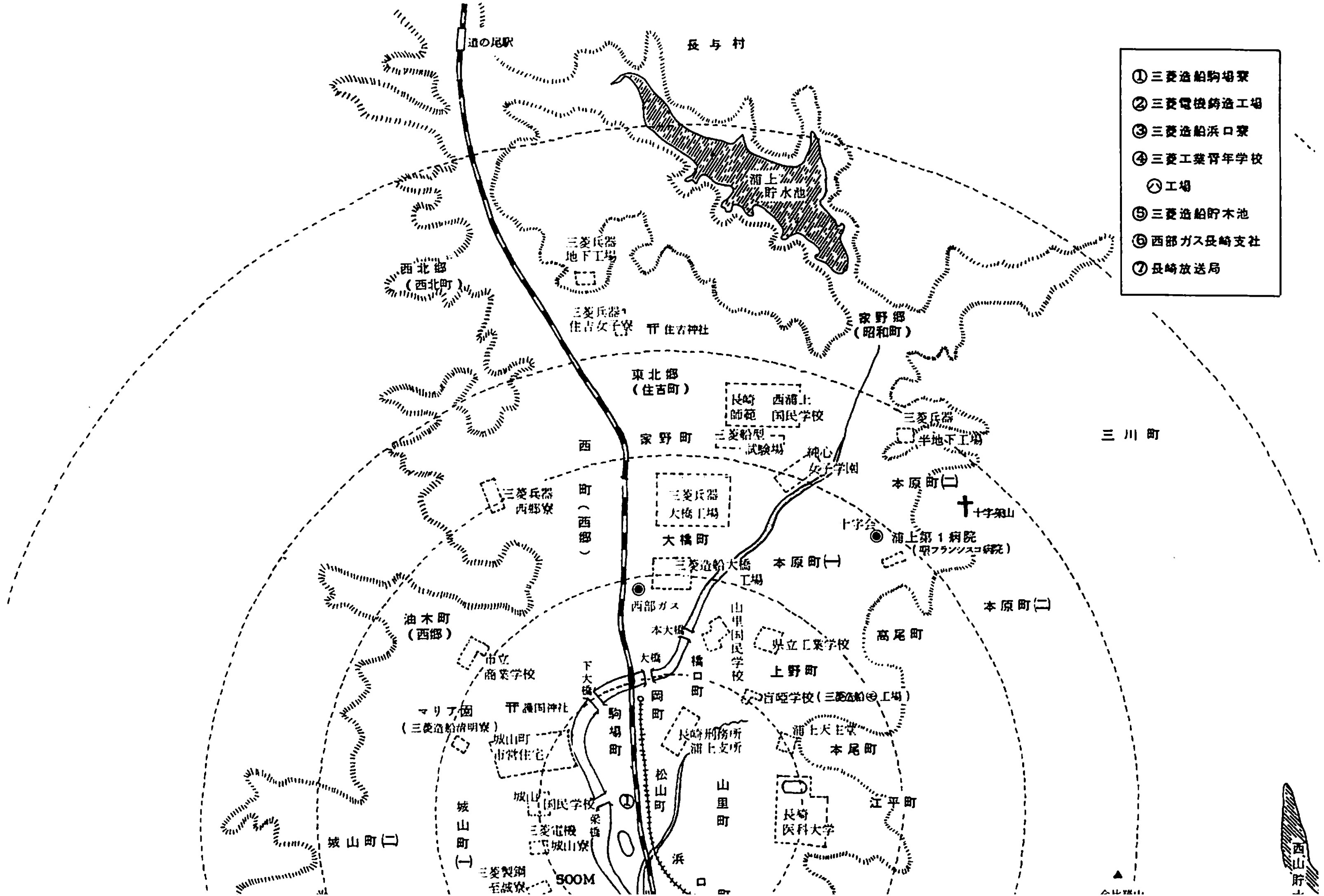
姉には死んだことは知らせず、せめてお骨だけでもと思い、母と弟と３人で子供の死体を焼きお骨に致しました。きれいに焼けた小さなお骨を空箱にひろいながら、初めてボロボロ涙がこぼれました。

今生きていれば４２歳、あれから独身を通して来た姉がどんなにか心丈夫だったことかと、可哀想でなりません。

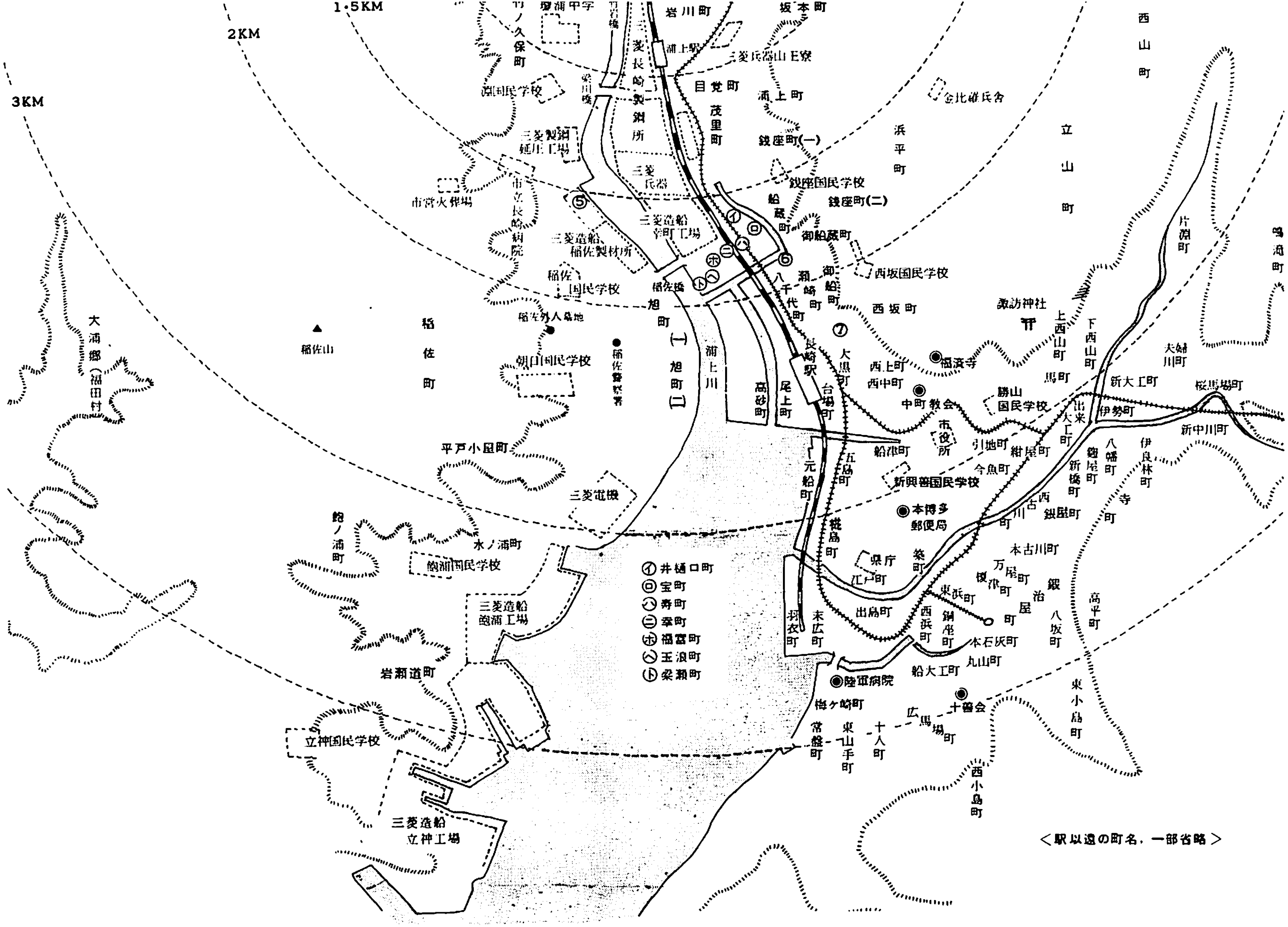
〔広島　直爆2.0㎞　女　２０歳〕
（０７－００１４）

長　崎

長　崎



①三菱造船駒場寮
②三菱電機鋳造工場
③三菱造船浜口寮
④三菱工業青年学校
㋩工場
⑤三菱造船貯木池
⑥西部ガス長崎支社
⑦長崎放送局
道の尾駅
長与村
浦上貯水池
三菱兵器地下工場
西北郷（西北町）
三菱兵器住吉女子寮
住吉神社
家野郷（昭和町）
東北郷（住吉町）
長崎師範
西浦上国民学校
三菱船型試験場
家野町
西町（西郷）
三菱兵器半地下工場
三川町
純心女子学園
三菱兵器西郷寮
三菱兵器大橋工場
大橋町
本原町(二)
十字架山
十字会
浦上第1病院（聖フランシスコ病院）
三菱造船大橋工場
本原町(一)
西部ガス
油木町（西郷）
本大橋
山里国民学校
県立工業学校
高尾町
大橋
市立商業学校
下大橋
橋口町
上野町
岡町
白菊学校（三菱造船㋩工場）
マリア園（三菱造船清明寮）
護国神社
駒場町
城山町市営住宅
長崎刑務所浦上支所
浦上天主堂
本尾町
松山町
山里町
長崎医科大学
江平町
城山国民学校
三菱電機城山寮
梁橋
城山町(一)
城山町(二)
三菱製鋼至誠寮
500M
浜口町
西山貯水池


1.5KM
2KM
3KM
長崎駅
浦上駅
三菱長崎製鋼所
三菱兵器
三菱造船幸町工場
三菱造船稲佐製材所
三菱製鋼延圧工場
三菱電機
三菱造船飽浦工場
三菱造船立神工場
三菱兵器山王寮
金比羅兵舎
市立長崎病院
市営火葬場
稲佐国民学校
淵国民学校
朝日国民学校
飽浦国民学校
立神国民学校
銭座国民学校
西坂国民学校
勝山国民学校
新興善国民学校
諏訪神社
福済寺
中町教会
市役所
本博多郵便局
県庁
陸軍病院
十善会
稲佐警察署
稲佐外人墓地
稲佐山
稲佐橋
梁川橋
浦上川
大浦郷（福田村）
岩川町
坂本町
目覚町
茂里町
浦上町
銭座町(一)
銭座町(二)
船蔵町
御船蔵町
八千代町
瀬崎町
御船町
西坂町
浜平町
立山町
西山町
片淵町
鳴滝町
上西山町
下西山町
大黒町
西上町
西中町
尾上町
台場町
高砂町
旭町(一)
旭町(二)
稲佐町
平戸小屋町
水ノ浦町
飽ノ浦町
岩瀬道町
馬町
新大工町
桜馬場町
出来大工町
伊勢町
新中川町
八幡町
伊良林町
鍛冶屋町
新橋町
寺町
紺屋町
引地町
今魚町
船津町
五島町
元船町
樺島町
江戸町
築町
西古川町
銀屋町
本古川町
万屋町
榎津町
東浜町
出島町
西浜町
銅座町
本石灰町
丸山町
船大工町
高平町
八坂町
銀屋町
末広町
羽衣町
梅ケ崎町
常盤町
東山手町
十人町
広馬場町
東小島町
西小島町
大浦町
竹ノ久保町
⑦
①井樋口町
②宝町
③寿町
④幸町
⑤福富町
⑥玉浪町
⑦梁瀬町
<駅以遠の町名，一部省略>

Ⅰ.「あの日」の死（8月9日）

【死亡家族の概況】

①　８／９　父　５９歳　直爆距離ＮＡ　爆死　遺体で
②　８／９　母　５７歳　直爆距離ＮＡ　爆死　遺体で
③　８／９　弟　１７歳　直爆距離ＮＡ　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕浦上駅前の路上であお向けになって爆死していた。
〔母〕額に指先程の傷を受け、顔に両手を当てて丸くなって座り込み爆死した。
〔父〕７日間捜し続け、ようやくドブ溝の中に耳だけ見える状態で死んで〔いるのを見つけたが〕、腐乱がひどく無残であった。

以上は父の弟子さんだった△△氏並びに実姉の婿◇◇、姉等の語るによる。
（軍隊を帰省した初日の話）

私は海軍航空隊美保基地より一時帰省で長崎市へ入所した。

父は銭座町の（私の生家）住居に大きな鍵型の防空壕を作り、町会のために開放した。姉と甥２人はその壕で助かり（ただし住まいは全焼丸裸）、父の疎開先へ父を頼って出先の父母の爆死を知り、捜し回っていた。

私はなぜ非戦闘員である銃後の国民を殺生したか。しかも大量殺生兵器を一発でなく二発も使用した米国の大統領トルーマン他、鬼としか言いようがない、怒りでいっぱいだ。

〔長崎　入市　男　２２歳〕
（１１−００８２）

【死亡家族の概況】

① 8／9 義父 46歳 直爆1.4km 大けが・大やけど 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義父〕自宅のすぐ近所で焼けただれた物体（仰臥）から人を呼ぶ声がするので、近よると、それが義父であった。

義父は8月9日当日、浦上→道尾→時津（子供達の疎開先）へリヤーカーで運ぶ途中時津の近くで息絶えた。父の遺体は時津（西彼杵郡）で焼き埋葬したが、骨の量はすくなく白骨でなく、いわば黒骨であった。悲しくて妹、弟と相擁して泣いた。

それまであまり多くの遺体を見たので、感情がうつろになって悲しむことを忘れていたのか、また気力で押し通してきたのか、自分でも分からないが、田舎にきて喜怒哀楽の意識を取り戻したのかもしれない。

義父は三菱製鋼の構内（徴用・同所従業員）で被爆し、子供に会いたいとの一念から這うようにして稲佐橋を渡り、自宅にたどり着いたところで、私にみつかったの〔だ〕と思う。

浦上駅の付近を通ったとき、兵隊さんが大勢並んで死んでおり、一方傍らには多数の市民がたおれていたが、その時ふと、兵隊さんたちは戦死扱いとして靖国神社にまつられるだろうが、一般市民はどう扱われるのかなと思って現場を過ぎたことを覚えている。かえりみるとその頃は女学校の4年生で、長女ではあり、父母、妹弟たちから頼りにされていたことなど思い出として残っている。

〔長崎 直爆3.0km 女 19歳〕

（12−0058）

【死亡家族の概況】

① ８／９　姉　　２２歳　直爆０．８㎞　圧焼死

② ８／９　伯母　６７歳　直爆０．８㎞　圧焼死

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕空襲警報になり山王神社の側にある隣組の防空ごうに３人で逃げ、解除になり私１人会社にいくため市電にのりましたが、姉は家へかえりましたので家の中で死んだと思います。

何日も何日も随分と捜し歩きましたが遺体も遺骨もみつかりません。８月９日以後、何日かして駐在（井樋の口駐在所）の方が死亡届を出すとのことで行きましたが、骨がない人には書いて貰えず、また何日かして、骨がなくても死亡届け書いて貰いました。でも後で戸籍謄本取ってみましたら、８月９日死亡となっていました。

みつからない人は直爆死にしたんだと思います。

〔伯母〕も同じ

８月１日岩川町に大型爆弾が落ち（私の家の前）、家はガタガタ、ガラスというガラスは畳に突きささり歩く所も寝る所もなく、その後整理のため１日午後より会社を休みましたが、９日朝になり伯母が会社へ行けと、とても叱りました。両親が早く死にましたので小学２年より伯母に育てられましたが、叱ったことのない伯母が恐ろしい程に叱りましたが、今になって思えば、元気な私だけでも生きさせようとしたのだろうと思います。でも１人残っても親戚も何も私にはなく、本当に淋しい人生でした。

姉でも生きていてくれたら話し相手になってくれたんだろうに、とくやまれてなりません。

盆だ正月だといっても帰る故郷もなく、子供ができても喜んでくれるものもいませんでした。

原爆さえ落ちなければ、あの長崎で平凡に暮らしてたのだろうに。

自分がすすんでこっちにきたのなら仕方がないが、長崎から従兄につれられてくる時、汽車の中より山王神社の鳥居をみながらワアワアと泣きました。昔は山

王神社の第一鳥居が岩川町２丁目にあり、汽車の窓からよく見えました。

〔長崎　直爆3.0km　女　２0歳〕
（１３−１９−０３６）

【死亡家族の概況】

①	８／９	妻	３３歳	直爆０.４km	爆死	行方不明
②	８／９	長女	９歳	直爆０.４km	圧焼死	遺骨で
③	８／９	長男	７歳	直爆距離ＮＡ	爆死	行方不明
④	８／９	次男	５歳	直爆距離ＮＡ	ＮＡ	行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕遺体も遺骨もなし、行方不明

〔長女〕家の下敷きになって下半身黒焦げ

〔長男〕遺体も遺骨もなく行方不明

〔次男〕　〃　〃　〃

自分の年齢４０歳で急に家族全滅。朝出勤の時、家の前で笑顔で送り出されたのに、中年になって急に独りになった悲しみ、筆舌に尽くし難い。

それから一周忌を済ますまで、毎日長女の遺骨を前に置いてどうして自分独り助かったか……とむしろ助かったことが非常に悲しく、その間新聞はもちろん、雑誌等もみることもなく、外出すれば自分の忘れられない子供と同じ位の子供連れを見るのが悲しく、ただいつどうして自殺しようかと独り涙に暮れていた。

あの時のことは現在でも忘れられないできごとです。

〔長崎　直爆1.5km　男　３９歳〕
（１３−２０−０１２）

【死亡家族の概況】

① ８／９　妻　　３２歳　直爆０km　圧焼死　遺体で
② ８／９　長男　　７歳　直爆０km　圧焼死　遺体で
③ ８／９　長女　　４歳　直爆０km　圧焼死　遺体で
④ ８／９　次女　　２歳　直爆０km　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

爆撃［後］５時間かかって家にたどり着いたので、すぐに死骸４体を一ヶ所に集めた。４人共別々吹き飛ばされて死亡、または長男、次女は家の下敷きになり、重なり合って死亡していた。

３日位経て死骸より腐臭がでてきたので、周囲に散らばった木材等を集めて４人の死骸を火葬に付したが焼け切れず、翌日また火をつけて火葬してかろうじて骨にしたが、私自身やけどのため手が不自由になり、会社の同僚に会社より持参の骨箱に４人分を納骨した。なお１日２日現地で野宿していたが、血便とやけどの痛みのため病院に運ばれた。

端的に例［例示］の通りです。それ以上の事はありません。

今でも毎日仏壇に写真を飾り礼拝していますが、子供は成長しません。昔のままの姿です。むしろこれでいいのでしょう。

〔長崎　直爆3.0km　男　３９歳〕
（１３－２０－１０６）

【死亡家族の概況】

① ８／９　姉　２５歳　直爆0.１km　圧焼死　遺骨で
② ８／９　姉　２０歳　直爆0.１km　圧焼死　遺骨で
③ ８／９　兄　１７歳　直爆0.１km　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉①・兄〕自宅で灰になった。

〔姉②〕造船所よりその日に爆心地の近くへ会社の移転で、ついてすぐに原爆にあい、家の下敷きになって灰になった。

両親と弟２人と祖母が助かり、その日の夕方、自宅の方を見ると真っ赤にもえているのを、母が祖母に、姉と兄が今もえていると言いますと、自分がかわってやればよかったと言ったことに悲しくなりました。

姉兄３人ともいっしゅんに亡くなったので、その日に別れたままでどこかに行っているような気がします。

〔長崎　入市　女　１４歳〕
（１３－３２－０３５）

【死亡家族の概況】

①	８／９	父	６７歳	直爆０．６㎞	爆死	遺体で
②	８／９	妻	３３歳	直爆０．２㎞	圧焼死	遺体で
③	８／９	長男	１２歳	直爆０．６㎞	爆死	遺体で
④	８／９	三男	４歳	直爆０．６㎞	爆死	遺体で
⑤	８／９	三女	０歳	直爆０．２㎞	圧焼死	遺体で
⑥	８／９	姪	１４歳	直爆０．２㎞	圧焼死	遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・長男・三男〕山で爆死していた。髪は焼けて丸坊主となり、衣類もやけ吹き飛ばされ「丸はだか」になり、身体の前面が焼け「ただれ」赤くはれあがり、発見した時は、身体は真黒に変色し、丸々と膨脹し、傷口は「張り裂け」、大きな「ウジ虫」がわいていた。

〔妻・三女・姪〕自宅の「室内ごう」の中、泥に埋まり、身体半分骨となり、半分は遺体で発見した。

この世の中で戦争ほど悲惨なものはない。何も知らない小さな子供たちまで、あんなむごい死に方をさせて、私は戦争を恨みます。

怪我をしてでも生きていてくれたらと思います。

〔長崎　直爆１．０㎞　男　３５歳〕
（１４－２０２５）

【死亡家族の概況】

①　８／９　母　４８歳　直爆1.0㎞　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕私は茂木に海水浴に行くために家を９時頃に出て田上の峠を越えたところで原爆に遭い、これで私の人生を変えたのです。落ちた時、町を見ると燃え、なにがなにやら分からず、大変な事だと思い我が家へ向かったが、家はすでに焼け落ち、何一つなかった。

母は生前のおもかげもなく真っ黒に焼死していた。これが爆弾なら生きたかもと思うのです。原爆ではどうすることもできません。しばらく家なし子の生活でした。

原爆に死亡した人があちこちにころがって、３日もたつと身体がふくれ、ウジがはいまわり、悪臭がただよい、むごいものである。小生もその中で暮らし思った、母といっしょに死亡したほうがよかったなアと思いました。

〔長崎　入市　男　１８歳〕
（１７－００１３）

【死亡家族の概況】
① ８／９　姉　１８歳　直爆０．５km　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕現住所が浜口町△△番地、爆心地付近にあったため、［私は］前日より長与村の知人宅へ行っており、姉は西山町にあった貯金支局へ通勤途中空襲警報が出て、自宅にいたものと思われます。勤務先へも出勤しておらず、翌日自宅跡へ捜しに行った時は黒こげの死体が一体横たわっていたので、その場で焼いて骨を持ち帰った。

父母は１９年に相ついで死亡し、姉と２人母の姉の元へ身をよせ女世帯で貸家から上がる少しばかりの収入で細々とくらしていました。私も女学校を卒業すれば姉と２人で暮らそうと楽しみにしていた矢先の事で、戦後、おばと従姉は父方の親せきのある岡山へ行き、私は独りで親せきを転々としながら女学校を卒業し、九州電力に就職はしたものの、生きていくことに希望が持てず、姉とともに死んでいた方がよかったと何回も死を願望した。

〔長崎　直爆３．０km　女　１４歳〕
（２２−００４７）

【死亡家族の概況】
① ８／９　長男　７歳　直爆１．３km　爆死・大やけど　行方不明
② ８／９　二男　５歳　直爆１．３km　爆死・大やけど　行方不明
③ ８／９　三男　３歳　直爆１．３km　爆死・大やけど　遺体で
④ ８／９　長女　１歳　直爆１．３km　爆死・大やけど　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男・二男〕私と共に歩行中、１５〜６歩位前を歩行中［に被爆］。火傷や怪我

でもだえ苦しんでいたと思われ、未だに行方不明。
〔三男・長女〕長女を私が背負いて三男の手を引いて歩行中で、生前のおもかげもなく大火傷で死亡。

あまりにも死に方がむごすぎます。自分の身体も同じ状態と思います。子供だけ死んで自分だけ助かったことが申し訳ないような気がします。

今あの子等が生きていたなら４７歳～４０歳という年齢です。失った子供を返せとさけびたい。死にものぐるいで、長崎より夢中で生まれ故郷の△△市へ乞食同様で帰って来て、その後の生活の苦しみは話しようがない。

〔長崎　直爆1.3km　女　３１歳〕
（２２－０２６８）

【死亡家族の概況】
①　８／９　母　４０歳　直爆1.2km　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕母が住宅の下じきになっていたので、父がてつぼなもの〔鉄棒のようなもの〕をもって私たち兄弟でおこしあげたけど、火がはやくてなにもできず、うら山ににげました。

何もしてやれない、自分だけがせいぱい〔精一杯〕、自分もいつ死んで行くかわからない。今は幸せそうな世の中ですが、私は子供もできず、未だに被爆の人と一緒になるから子供もできないのだと姑にいじめられています。

〔長崎　直爆1.5km　女　１２歳〕
（２３－０１９３）

【死亡家族の概況】

①　8／9　母　50歳　直爆0.5km　圧焼死　遺骨で
②　8／9　妹　15歳　直爆距離NA　圧焼死　行方不明
③　8／9　弟　12歳　直爆距離NA　爆死　行方不明
④　8／9　弟　10歳　直爆距離NA　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕学徒動員先で。

戦争は罪もない人達をこのようにむごい死に追い込むものだ。大人達はなぜ戦争を防げなかったか。母や弟妹の死が悲しくて、当時は軍を恨みアメリカを恨みしたものだが、最近は、母達の死がもっと多くの人達の死を救い、破壊から救ってくれたものだとして諦め、再び戦争を起こさないことに全力をあげてたたかうべきだと思うようになった。

〔長崎　直爆3.0km～　女　17歳〕
（23－0421）

【死亡家族の概況】

①　8／9　父　54歳　直爆1.0km　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕大学病院へつとめていました。2日間帰りを待ってたのですが、来ないので、3日目に祖母と姉がさがしに行ったのですが、途中までしか行けなかったと言って帰って来ました。5日目に母と姉が病院の先生の家に行き話を聞いたそうです。みんなと一緒に逃げてたそうですが、病院の柱みたいなのが上から落ちて来て、2、3人の体の上に落ち、そのまま焼死したみたいです。父がたおれた場所をきき、すぐ母達が病院まで行ったそうですが、その辺はもうやけており、

少しはなれた所に父がいつも持っていた「カバン」があったそうです。中にはちゃんと印かんも入ってたので父のとわかりました。でも遺骨はぜんぜんわからなくなっていて、５、６人分の遺骨がかさなったようになっていたので、父の分としてはなく、その何人分を少しずつひろってきたそうです。私も子供ながらにも、父達皆亡くなられた人達はさぞあつかっただろうと思っていました。

私の父はとてもやさしく、私達子供達にはおこったことがないほどで、食事のことは自分でなんでも作ってくれるし、休みの時は必ず一緒に遊んでくれました。当日病院を休んでいたら、きっと助かってたと思います。父が亡くなって母が病気になり、私は学校を休んで看病したので、中学の時は休んだ日が多かったことをおぼえています。

そんな時、父が生きていてくれたら、どんなに心強くかんじたか知れません。

今は父の顔は少しだけしか覚えていませんが、やさしかったことだけは忘れられません。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１２歳〕
（２７－０４０４）

【死亡家族の概況】
①　８／９　夫　３９歳　直爆１.０㎞　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕うつぶせになり全身黒こげの状態であった。手で直接ふれることができなく、木片で起こしたら、あごのところだけが半焼けとなっていた。無理やり口をあけて糸切歯の銀歯を確認して、夫と判断した。

夫を原爆で亡くし、１２歳を頭に５人の子供といかに生計を立てて行くのかと思うと、ただただ戦争と原爆をにくみ、涙の明け暮れの毎日であった。

〔長崎　直爆3.0km　女　39歳〕
（28－0028）

【死亡家族の概況】
① 8／9　夫　　41歳　直爆・爆心地　爆死　遺体で
② 8／9　長女　16歳　直爆・爆心地　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫・長女〕親子とも家の間のため無傷。子供［養女］は左の腕が切れて、主人は皮膚から血がにじみ出ていました。

勝つためとは申せあまりにもひど過ぎる。学徒動員の引率者、指揮者としてお国のお言いつけとは申しながら、学生さん方に申しわけない心で残念で、毎月のお命日に、9日は頭痛と涙で胸いっぱいです。

もっと早く戦争を止めることはできなかったでしょうか。

〔長崎　入市　女　27歳〕
（28－0301）

【死亡家族の概況】
① 8／9　父　62歳　直爆0.6km　爆死・大やけど　遺体で
② 8／9　母　48歳　直爆0.6km　圧焼死・大やけど　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父・母〕生前のおもかげもなく骨と灰になっており、父は耳を手でふせて真黒に

なって家の井戸近くで死んでおり、母は腰から下は腐ったのか、やはりこれも真黒になって家の（たたみの）わらみたいなのが黒こげの下から出て来ておりました。

死に方がむごすぎる。私も学徒で浦上でしたが、工場内で私も右半身、右腕、外傷、熱傷、右顔（耳）こめかみ、首筋の血管が切れて、出血多量で伊良林小学校に収容されていたため何もしてやれなくて、自分のみ助かったことがくやまれました。１週間ほどして松葉杖にて家まで行きまして、両親の遺骨を弁当箱みたいな物に入れて帰りましたが、もっと早く見つけてやったらとも思うし、苦しむこともなく死んだのかどうかといろいろ考え、今でも思いますが、ふと帰っているような気が今でもしてなりません。失った人を返してほしい。

〔長崎　直爆1.5km　女　１６歳〕
（２９−０００６）

【死亡家族の概況】
①　８／９　母　４７歳　直爆距離ＮＡ　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕ここにおったかもしれん思うて、防空壕の中にローソクつけてはいって捜したんよ。空襲解除で外に出るころにみんなやられたんじゃろう。入口の方に皆ころがっとったもんね、重なるようにして。ふくれとるじゃろ、夏の服じゃけ、ボロボロで裸同然。男か女かもわからん、あれじゃ確かめようもない。とうとう遺体も見つからんかった。

思い出しただけで涙が出る。くやしいんか、悲しいんか、残念なんか口に出しては言えん。何かしらふっと思い出すでしょ、そんな時何て言うてええかわからん。涙の方が先に出る。口じゃ、言葉じゃ言えんよね、その気持ちは。原爆で死

んだもんは犬死に。死体をどう処理されたやらわからん。親と一生暮らせる訳じゃない、いつかは別れにゃいけんのじゃけど、母との別れは理不尽な別れよ。やさしい母ちゃんやった。空襲警報ーー！いうて一緒に逃げよった。あの時一緒に死ねたらねーと思った。今でもそう思う，

どんだけ捜しても見つからんし、ラジオの尋ね人をのがさんように聞いたけど出てこんかった。どうしても死んだということは認められんかったんよ。だから、いつか会える思うてラジオを聞いとった（もしかしたらどこかで生きとるんじゃないか）。

どんなむごい死に方したんだろうか。（死んだ場所、死にざま）わかってれば人を頼んででも捜して供養してやれる。骨ひとつ、カケラでもあれば、お寺に持って行って供養してあげられる。拝み屋に何べんも足を運んで（最近）ようやくわかった。海の中に捨てられとったんよね。「寒かった、寒かった」言うんよ。でもどうしてあげることもできん。たちきれんのよね（母への思いが）。この思いはきっと死ぬまでつきまとうじゃろうね。

〔長崎　直爆1.5km　女　19歳〕
（34−7193）

【死亡家族の概況】

①　8／9　母　57歳　直爆2.0km　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕父の話によれば、母は家の下敷きになり助けてくれとさけんでいたが、近所の人々が同じく家の下敷きになっていたので、他の人々を先に助けだし、最後に母を助けだした時はすでに死体となっていた。

あまりにも変わり果てた死体がいたる所にあり、うめき声などこの世の生き地獄でした。何もしてやれなかったことが残念でならない。

〔長崎　直爆3.0km　男　29歳〕
（40－0157）

【死亡家族の概況】
① 8／9　父　51歳　直爆距離ＮＡ　爆死・大やけど　遺体で
② 8／9　妹　15歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
私が自宅の防空壕へと3時頃だったと思います、帰っていると、よその防空壕前で誰か私を呼んでいるようでしたので、振り返ってみると、妹がよその人の着物を着て、頭や体がやけどで足の方は全部皮がはがれ、たれ下がっておりました。その妹を家の防空壕まで背に負って来て、皮を切り取ってやりました。その後、水を欲しいと言っておりましたが、その水もなく飲ませることができませんでした。当時、妹は15歳、午後からは工場へ行く予定でしたが、爆撃を受けた所から逃げてきたところ1km位の所でした。

〔父〕死体は8月10日に叔父が捜しに行って見つかり、リヤカーで運んでくださったのです。息をひきとる前に一目でも逢えたらと思い残念です。
〔妹〕8月9日防空壕近くまで逃げて来ていましたので、このままでは命は助からないと思って、近所の方とどこかわからない病院へとその夜汽車に乗り、間もなく亡くなりました。列車はそのまま早岐まで止まらず、どこかお寺で火葬してもらって遺骨だけ持って来ました。共同火葬のため誰の遺骨かわかりません。

〔長崎　直爆1.0km　女　22歳〕
（40－0213）

【死亡家族の概況】

① 8／9 父 57歳 直爆1.0km 圧焼死 遺骨で

② 8／9 手伝いの方 NA 直爆1.0km 圧焼死

【死亡の状況・遺族の思い】

当時の住所（坂本町△番地） 父と兄そして手伝いの方を家に、母と私は3日前に疎開、佐世保市へ。兄は長崎県立長崎中学校より竹ノ久保の［三菱］兵器で被爆。何とか坂本町の自宅まで死体をいくつも踏むようにして、たどり着いたときは、坂本町は入れない程燃えていたそうです。兄はそのときのこと話そうとしません。思い出したくもないのでしょう。その時の状況は兄がくわしく書くと思います。やっとの思いで父の遺体を捜したときはあまりにも燃え過ぎて、ほんのひと握りのお骨をその辺にあった空き缶（それもこげていました）に入れて持ってきました。

そのあとすぐ、私は兄とまた入市したのです。城山の叔母達も家族4人、次から次と死んでいきました。

長崎から帰り、すぐ兄は発熱下痢と被爆症状がひどく、私も歯ぐきの出血、口の中のはれ、頭痛めまいと兄ほどひどくはなくても病院の先生に診てもらったこと記憶しています。

同居のおばさんのことはわかりません。

当時は悲しみの涙も出ない位ただぼう然としていました。母は父の死、手伝いのおばさんの死を聞き、一時気がおかしくなり［私は］随分心配して父の死を悲しむ暇もなかったように記憶しています。私は忘れもしません、原爆の日に生理がはじまったのです。

これほどたくさんの方達が亡くなったのですから、返してくれとかそのようなことは思いません。ただ私達だけ生きているのが悪いような気がするだけです。犠牲になってくれた父に、毎日今でも感謝しています。兄もひどい被爆症状が出たのにもかかわらず、何とか生きていますのも父が守ってくれているからと信じています。

〔長崎　入市　女　１４歳〕
（４０−０２５１）

【死亡家族の概況】

① ８／９　母　３９歳　直爆1.0km　不明　行方不明
② ８／９　弟　　９歳　直爆1.0km　不明　行方不明
③ ８／９　妹　　４歳　直爆1.0km　不明　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

遺体も遺骨も不明なので状態が書けない。その日は友人の協力を得て暗くなるまで捜した。その後友人宅から毎日１週間自宅付近を中心に、心当たりの所はくまなく捜し回ったが見つけ出すことができなかった。

後日鎮西中の校庭で抱きあって死んでいたことを聞いた時は胸がつまった。

残酷の一言につきるが、これ以上その惨状は思い出したくない。またできるものなら、母、弟、妹を返せと叫びたい。しかし不可能なことを言ったところで自分自身が悲しいだけだ。

〔長崎　直爆3.0km〜　男　１７歳〕
（４０−０３８３）

【死亡家族の概況】

① ８／９　父　４６歳　直爆1.3km　圧焼死　遺骨で
② ８／９　母　３６歳　直爆0.4km　圧焼死　遺骨で
③ ８／９　弟　　０歳　直爆0.4km　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕三菱兵器大橋工場内で圧死したと思われる。工場の鉄骨はアメのようになっており、他の多くの死者と一緒に一ヵ所に集められ火葬された。お骨を後で渡された。

〔母・弟〕長崎市山里町の自宅で圧焼死した。すっかり骨や灰になっていたが、弟の方は少しオムツカバーの焼け残りが見られた。

たとえ戦争とは言っても、前線の兵隊の死に方でもあのようなひどい死に方はないと思う。自宅で死んだ母と弟は助けることはできなかったとしても、父の場合は助かった人もいるので、私がすぐにかけつけて見つけていたら……とくやまれてならない。

〔長崎　直爆1.5km　女　19歳〕
（40−0560）

【死亡家族の概況】

①　8／9　姉　23歳　直爆0.5km　不明　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕五島列島に両親はいたため、8月11日夕帰宅。私の話から、ただちに船を雇い長崎市内に向かったが、2日間さがしたが遺体確認できず。何ヵ月か後、姉の同僚から、当日は工場を休み、カトリックだったため告解に（浦上天主堂）行くように話していた模様。

戦地（ビルマ）に行っていた兄2人は復員したが、戦死するはずの兄は帰り、元気でいるはずの姉が死んでは、兄の復員がうらめしく思った。

平和の礎となったのだと言いきかせても、生きていれば63歳、40年たったというのに、どうして［も］あきらめきれない。

戦後１８年目（Ｓ．３８年死）に亡くなるまで、姉の死を認めなかった亡母が不憫でならない。

〔長崎　直爆1．5km　男　１７歳〕
（４０－０６４２）

【死亡家族の概況】
①　８／９　姉　１８歳　直爆０．７km　圧焼死

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕長崎医科大学の看護婦だったので直爆でかげも形もなく、建物はくずれていたので、何日か後に分配遺骨を病院よりいただいたわけで、本当に残念でならなかった。

なんとも言えない、あっと言う間のできごとで親、姉妹を、失った人を帰せと言いたい。本当に死に方がむごすぎる。もしかしてどこかで生きているだろう、今日は帰ってくるだろうと、毎日毎日待ち続けて待って、１カ月が過ぎ、半年が過ぎ、１年たっても帰らない。本当に死に方がむごくて何とも言いようのない。

〔長崎　直爆3．0km　女　１２歳〕
（４２－０１４１）

【死亡家族の概況】
①　８／９　長女　１６歳　直爆０km　圧焼死　遺骨で
②　１２／１４　義母　７０歳位　直爆ＮＡ　病気

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長女〕８月９日から毎日、とうちゃんが浦上の工場（学徒で働いていた所）に捜しに行ったがみつからなかった。１３日に私も子どもの手を引き、下の子をからって［背負って］捜しに行ったが、途中とうちゃんが「小さい子をつれてこれ以上行ってもむずかしい、わしが行く」と言った。娘の元気な時の姿が目に浮かんで、背中を引っぱられる気持ちで家に帰ってまっていたら、バケツに焼いた娘の骨を入れて帰ってきた。腕章に名前があって、それだけが娘とわかるたった一つの印だったそうだ。

生きていてくれたら、生かしてやりたかった。

〔長崎　直爆３．０km～　女　４０歳〕
（４２－０４８８）

【死亡家族の概況】

①	８／９	父	５０歳	直爆距離ＮＡ	不明	行方不明
②	８／ＮＡ	姉	ＮＡ	直爆距離ＮＡ	不明	行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕私は学徒動員で製鋼所にいっていましたが、当日警戒警報のため道ノ尾駅前で待機している時被爆しました。その後（３日して）父の遺体捜しに入市しました。父の勤務先である［三菱］製鋼所に行きましたがガレキの山で、少年の私にはどうすることもできませんでした。帰りがけに姉の嫁ぎ先である橋口町に寄りましたが、家は跡形もなくきれいになくなっていました。隣の家は崖の下にあったのでつぶされたままになっていました。

父は職務がらあちこちと回っていたそうですが、とうとう遺体は見つからずじまいです。墓には製鋼所あと地の土がいれてあるだけです。わびしいかぎりです。

父や姉の遺体がなかったということはどうともいえない。生きていてくれたらもっと人生は変わっていたと思う。

〔長崎　直爆3.0km～　男　14歳〕
（42－0525）

【死亡家族の概況】

①	8／9	父	67歳	直爆0.08km	圧焼死	遺骨で
②	8／9	妹	26歳	直爆0.08km	圧焼死	遺体で
③	8／9	弟	25歳	直爆0.08km	圧焼死	遺骨で
④	8／9	弟の嫁	20歳	直爆0.08km	圧焼死	遺骨で
⑤	8／9	弟の子	2歳	直爆0.08km	圧焼死	遺骨で
⑥	8／9	弟の嫁	28歳	直爆0.15km	爆死	遺体で
⑦	8／9	弟の子	2歳	直爆0.15km	爆死	行方不明
⑧	8／9	同居人	50歳位	直爆0.08km	圧焼死	遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

家族のものを捜しましたが見つかりません。

家は床がコンクリートでしたので、木のかけらすらも見つかりません。だれも助けにくるものもなく、妹〔②〕はけいれんがきておりましたので名前を何十回となく呼び続けました。人工呼吸もしましたがもどりません。叫びました。水もありません。水をやることもできません。残酷だと思います。ひとり泣き叫びました。すぐ横に弟〔③〕が黒こげで死んでおります。妹も見たでしょう、そのまま死んだものと思います。

〔同居人〕台所で黒コゲで死んでいます。

〔弟の嫁④と子⑤〕骨や灰になって死んでいました。

〔弟の嫁⑥〕黒コゲで死んでいました。

〔弟の子⑦〕遺体や遺骨もなく（行方不明で）わかりません。
〔父〕爆風で飛ばされたようで１階と２階との間の崖で骨や灰になって死んでいました。

家族みんなの死に方があまりにもむごすぎる。もう少しでも早く見つけてやっていたら妹とも、助ける事はできなかったかもしれないけれど、話ぐらいはする事ができたかもしれないと思うと残念でなりません。

〔長崎　直爆1.5km　男　４０歳〕
（４２－０５４６）

【死亡家族の概況】

①	８／９	長女	１６歳	直爆０.７km	圧焼死	遺骨で
②	８／９	長男	１４歳	直爆０.８km	不明	行方不明
③	８／９	次女	１２歳	直爆０.７km	圧焼死	遺体で
④	８／９	三女	１０歳	直爆０.７km	圧焼死	遺体で
⑤	８／９	四女	７歳	直爆０.７km	圧焼死	遺体で
⑥	８／９	次男	２歳	直爆０.７km	圧焼死	遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕骨や灰になっていた。
〔長男〕行方不明、いまだに骨もなにもない。帰るのを待っています。遺体も遺骨もない。
〔次女〕家の下敷きになって生前のおもかげもなく死んでいた。
〔三女〕長女と一緒の所で焼けてしまっていた。
〔四女〕長女と他の子供と一緒の状態でした。
〔次男〕同じく骨も灰もない。

何もしてやれなくて自分と家内とだけが生き残った事がくやまれてならない。
今は年をとってなおいっそう子供のことが思いやられて、こどもを返してください と叫びたい。供養も十分できない。政府に対して補償を要求します。

〔長崎　直爆1.0km　男　39歳〕
（42－1370）

【死亡家族の概況】
① 8／9　同居人　年齢不詳　直爆0km　不明　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】
昭和19年頃朝鮮から引き上げてきて、私の家に同居していた△△△△というおばさんがいた。昭和20年8月9日、妹が松山町にいるので訪ねると、朝家を出たまま帰らぬ人となった。後日（10日位後）、父が松山町の妹宅だったあたりを捜索した結果、モンペの一片が白骨死体にこびりついていたとのことで、多分この人だろうと言って、骨を拾って来たとのこと、今でも、私の家の墓地に眠っている。

朝、私が出勤する時、途中空襲警報が発令されたので、同居のおばさんに今日は市内に行かない方がいいと止めたのに、毎日敵機は来るから、いつものことだろうと、私と一緒に市内へ入った。あたかも死を選んだようなものであり、もっと私が強く押し止めていればと思う。

〔長崎　直爆2.0km　男　15歳〕
（42－1384）

【死亡家族の概況】

① ８／９　母　３６歳　直爆２.０km　圧焼死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕自宅で焼失していたが、自分ですることができず親類の人が１週間位して竹ノ久保町（自宅）に行って整理してくれた。その時、地面に接した部分は肉がありウジがわいていた。上部は焼失していた。焼失した頭部の歯に金歯で母と確認できた。

即死したのか焼死したのか一人で一生懸命考えてただぼう然と焼け跡にしばらくたたずんでおりました。生きていてくれたらといつも命日になると思い考えております。

〔長崎　直爆１.０km　女　１５歳〕
（４２−１４１１）

【死亡家族の概況】

①	８／９	伯父	６４歳	直爆０.５km	圧焼死	行方不明
②	８／９	姉	３３歳	直爆０.５km	圧焼死	遺骨で
③	８／９	甥	８歳	直爆０.５km	圧焼死	行方不明
④	８／ＮＡ	姪	７歳	直爆０.５km	圧焼死	遺骨で
⑤	８／ＮＡ	甥	４歳	直爆０.５km	圧焼死	遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

「ナガサキ」中心街から疎開して、あの日の惨禍に幼児を含めて殺された怒りをわたし達は背負って生きている。（市商）付近、疎開していた甥１人、伯父の遺骨はない。知人が預かったとの便りがあったが、いろいろと手をつくしてもそ

の人に会えずじまい。郷里に帰られたのか。

姉、姪、甥１人、３名（三菱造船技師だった方の御家族と一緒に直爆死、三菱青年学校運動場近くの家）で空襲警報解除になって自宅で直爆死。吹けば飛ぶような紙切れのようなお骨になって、知人の技師さんから届けられた。

死者は語らずじまいで、わたしたちの家族は焼失してしまった。

人間の想像を絶した地獄の様相に誰がしたのか、甥、姪、姉、伯父虐殺された。日本、世界の平和の礎になった。あの可憐な甥、姪達に何の罪があるのか。十分食事もない状態で我慢して生きていた姿は、私の脳裡にひらめかない時はない。どんな思いで見えない世界からこの世界を、この状態を見ているのだろうか。一発落とせば地球が吹き飛んでしまうよと警告しているように思う。

「原爆の犠牲は自分達を最後にしてくれ」語る声が耳にする。生き残った（３名）家族「生きる」のに大変な事だった。学童疎開で生き残った長女は病弱で、病院にかかったのに支払うお金はなく、悲しい日々だった。どうしても元気にしてやりたかった。この子１人残して直爆死した姉に代わって、一生懸命にして助けた。被爆者にとっての日々は人間としてのたたかいにほかならない。原爆で亡くした母を恋いしたう子供をどうにか立ち直らせるのに、私とのたたかいでした。

被爆者の放置は平和に生きる権利にたいしての極限的な侵害である。３人で死を求めたことも何回かあった。だが死せば好戦者を喜ばせることだと思い直した。生きるのに精一杯努める。

〔長崎　入市　女　２４歳〕
（４２－１４１２）

【死亡家族の概況】

①　８／９　弟　１３歳　直爆1.3km　爆死・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕家の前の浦上川に泳ぎに行っていて被爆した。身体は真黒で、ちょっと息があって、水がほしいというので水が与えたら死んでしまった。

弟は兄弟思いであったので生きていてくれたらと思う。

〔長崎　直爆2.0km　女　16歳〕
（42－1599）

【死亡家族の概況】

①	8／9	夫	46歳	直爆1.3km	爆死・大けが・大やけど	遺骨で
②	8／9	甥	19歳	直爆1.3km	大けが	行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕捜したが見つからず、7年後、時津町、サバクサラシ岩近くに埋めてあることを知り骨を捜し出した。その日は、製鋼所で勤務中に被爆、重症でものも言えず、時津に入る峠の検問所で亡くなり、埋められたといいます。苦しんで死んだろうと悲しくなります。

〔甥〕製鋼所でクレーン運転中の被爆で、ふきとんだと思われます。遺体もみつからないままです。

夫が生きていたら、今の苦しみはないと思います。死に目にも会えなくて、何もしてやれなかったことが悔やまれます。

生きていてくれたらと、80歳を過ぎたいま、なおさらに思います。一人ぐらしにもならないで済んだものを……と思います。夫を返してほしい。

〔生活〕保護を受けているが、夫や子供が生きていればお世話にもならなくて、生活できたものを、と思います。私には、再婚した次の夫も被爆者で数年くらし

て亡くなり、最初の亡くなった夫の厚生年金も受けられず、次の夫には何もありません。

〔長崎　直爆1.5km　女　41歳〕
（42－1652）

【死亡家族の概況】
① 8／9　父　72歳　直爆1.6km　圧焼死　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕近所の家の中で爆焼死。被爆直後私は家の下敷きからやっと這い出して、父を捜しに行く時、近所の男の子がパンツ姿で泣いていたのを防空壕まで連れて行き、それから父がいた家へ行き大声でよんだり、下敷きになっているのではと耳を近づけたり、何の音もうめき声もなく、結局は直爆死でした。

5日後、人々の手をかりて焼けあとをしらべたら、畳の上にねそべった姿で焼けていました。父を想う時はその時の畳の目がありありと浮かびます。今となっては、苦しまなくてよかったと、思うことにしています。

〔長崎　直爆2.0km　女　年齢不明〕
（42－1658）

【死亡家族の概況】
① 8／9　母　56歳　直爆0.8km　爆死　行方不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕３日後母の遺体さがしに（竹の久保町）、主人が外海町より１週間通いましたが母の遺体は見当たらず、子供２人家の焼け跡にとんできていたのを焼いて、イナサの消防の方に渡したり、死の直前の人に水をやったり、それは今思ってもぞっとすることばかりだった由。母の遺体は諦めて玄関の土、台所、茶の間の土を持ち帰りました。調査の結果、母は局に行く途中（浦上駅前）、浦上川にとび込んだらしいのです。当時は浦上川も多くの方の死体がかさなり合って、腐り、とても息のつけない位の臭みでした。消防の人達が３日ほどしてから、死体をスコップですくったとのことでした。今も浦上川を通るのは当時のことを思い出し悲しくなります。

〔長崎　入市　女　３０歳〕
（４２−１６７０）

【死亡家族の概況】

①　８／９　長女　１７歳　直爆０．４km　爆死　遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長女〕浜口町の神社の近くで友人達といっしょに体中焼けて、お父さんがみつけた時腕がブツブツたぎっていたようでした。口は大きくふくれて、お父さんが「我が子であるかなかか疑うだろうから、お前も来て見れ」と言いました。

悲しくて涙もでず、あれがおったら、かいほうもしてやれたのにと思います。今さらに本当にあのひどか姿ば忘れられず……

〔長崎　直爆３．０km〜　女　４０歳〕
（４２−２０１０）

【死亡家族の概況】

① 8／9 夫 27歳 直爆0.5km 圧焼死 遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕自分の会社の建物の中で黒こげになっていました。

夫は心の広い思いやりのある人でしたので、私は何一つ心配することがありませんでした。私は鳥が片羽根をとられた思いで人生を過ごして生きて来ました。

夫は亡くなった時、上司の方から、この研究課には大学を出た人はたくさんいるけれど、数学のことについては、△△君の右に出る者はいなかったと、言って涙を流されたことを忘れることはできません。生きていてくれたらどんなにたのしい人生を過ごされたことかくやしくてなりません。子供にお父さんと言って呼ばせることができないのが何よりかなしい思いがします。夫婦揃っておられるところには行きたくありませんでした。

〔長崎 直爆3.0km～ 女 25歳〕
（42－2308）

【死亡家族の概況】

①	8／9	祖母	68歳	直爆0.8km	圧焼死	遺骨で
②	8／9	弟	13歳	直爆0.8km	圧焼死	遺骨で
③	8／9	妹	10歳	直爆0.8km	圧焼死	行方不明
④	8／9	妹	8歳	直爆0.8km	圧焼死	遺骨で
⑤	8／9	弟	5歳	直爆0.8km	圧焼死	遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕灰の中で一番大きい骨を祖母として拾っていましたが、一年後焼け跡整理

の時、コンクリート屋根の下から、浴衣をきたまま白骨になって発見され、指輪で祖母とわかり、当時、下敷きになったまま焼死して一年以上もそのままになっていたもの。

〔弟②、妹④、弟⑤〕自宅で昼食前の手洗い中らしく、洗面所と風呂場の所で３人ともバラバラの白骨で、④の妹だけは、胸に柱等を止めるカスガイが突きささ胸の部分が少し残って、洋服の焼けのこりでわかりました。

〔妹③〕家中の灰の中に見つからず、道や川の中のそれらしき死体を一体一体見つけましたが、わからないで、そのままあちこち救護所もみつけましたが、１人で外に出る事もなかったので外のものといっしょに焼死したと思いますが、遺骨はありません。

祖母と共に下の妹と弟は田舎にそかいしていたのに、夏休みになって８日の夜帰って来て、夕食をみんなでとって、９日の夜は楽しい一家だんらんをするつもりで、母と２人買い出しに行った留守に灰になってしまって、私達の身がわりになってしまってと母は狂ったようになっていましたが、私と母と死んで、みなし児になるよりはよかったのでは！等となぐさめたりしていましたが、何のたのしみもない時代に生まれて、戦争のぎせいになるにしても、余りにもかわいそうで、生涯忘れる事は出来ません。自分が死んでいた方がよかったのではないかと、よく思います。

戦争のない平和な世界を築いていかないと、本当に死んだ人がかわいそうです。

〔長崎　直爆０．５km　女　１６歳〕
（４３－０２５３）

Ⅱ．２週間以内の死（８月２３日まで）

【死亡家族の概況】

①　８／１１　父　年齢ＮＡ　直爆距離ＮＡ　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕全身やけどで苦しみ、うでの皮がやけただれてぶらさがり、からだが腐り、鼻をつくようなにおいが今でも忘れることは出来ない。うみみたいな、血みたいなものが、からだのどこからともなく流れて、今思い出すだけでもはらが立ちます。人間が人間をこんなめにあわせて良いのだろうかと。お願いです。こんな事を何回も書かさないでください。こんな事書きたくありません。

死んで行く時もさぞ苦しかったのでしょう。歯をキリキリ言わせて苦しみながら死んで行きました。死に方がむごすぎると思います。

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　年齢不明〕
（１３－１５－１２３）

【死亡家族の概況】

①　８／１１　弟　１４歳　直爆距離ＮＡ　爆死　　遺骨で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕長崎市立商業学校の２年生として在学中、学徒動員として三菱兵器製作所に勤務、学校が兵器の分工場として使用されていた。

８月１０日私どもが学校へ弟をさがしに行ったが見当たらず、分工場の人に尋ねたところ、兵器に使いに行ったのではないかとの事、学校付近、兵器付近、浦上一帯をさがし回りました。この世のものではない死体を一体一体のぞきこみました。８月１１日、人のうわさで諫早方面に負傷者を移送しているとの話

を聞き、姉に諫早の海軍病院に行ってもらったところ、弟が病院にいることがわかりましたが、８月１１日朝死亡したとの事、死に目にあえなくて残念でなりません。８月１２日遺骨を引き取りに行きました。

けがの程度は背中、手首の先のやけど、私どもの考えでは死因は毒じゃないかと思います。

何の罪もないのに死に方がむごすぎる。

死に目にあえなくて、もっと早く見つけてやっていたら、１日早く病院に行っておれば、生きてる時に会えたのに、残念でなりません。今でもそれがくやまれてなりません。一生私どもの心の中に残る事と思います。

〔長崎　直爆３.０㎞～　男　１７歳〕
（４２－０５０５）

【死亡家族の概況】

①　８／１２　父　３２歳　直爆１.０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕三菱製鋼所で全身ヤケドで、３日後死亡。とにかく苦しんで苦しんで死んだことは、一生忘れることはありません。

父のあの苦しんだ顔とヤケドの臭い。一家の大黒柱をなくし、田舎でも何度泣いたことか。父をなくした悲しみと、母は再婚せず３７歳の時から女手一つで私を育ててくれました。

それを見て、毎日何でお父ちゃんが死んだんだ、あの原爆さえなかったら死んでないのにと思うと、ほんとうにくやしくてくやしくてたまりません。

〔長崎　直爆１.５㎞　男　４歳〕
（４０－００２７）

【死亡家族の概況】

①	8／12	弟	17歳	直爆距離NA	大やけど・原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕１１日の午前中、油木谷の防空壕の中で父が見つける。ほとんどの人が死んでいた中で生きている弟を背負い、救護所にならんでいたが、なかなかじゅんばんがこないので、出島の朝永病院に行き、そこでも薬がなく、香焼の病院に船でわたる。そこの病院で、水、水といいつづけ、翌日の朝７時頃死亡。上半身黒こげ、首の所はうみただれ、痛い痛いと言いながらいきを引きとる。

水、水と言う弟に、みんなからやけどには水をやると死ぬと聞かされ、のましてやれず、ちいさい氷のかけらをやると、赤ん坊がおちちをすうようにチューチューすすり、もっと、もっと、というのにやれず、くやまれ、今もおなかいっぱいのませてやったらよかったと仏だんに水をたやさないようにしています。

〔長崎　直爆2.0㎞　男　２２歳〕

（42−1763）

【死亡家族の概況】

①	8／9	姉	21歳	直爆距離NA	爆死	行方不明
②	8／11	母	NA	直爆0.5㎞	大けが・大やけど	遺体で
③	8／13	父	NA	直爆0.5㎞	大けが・大やけど	遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母〕一緒に所用があって浦上方面へ出かけて被爆し、病院に収容され、そこで死亡したということを聞いた。

〔姉〕別居中であったが、その後音沙汰がなく、死んだものと思われる。

全くの天涯孤独になり、自分だけが生き残ったのさえ悲しかった。
今でも死んだのが信じられない。
どこかに生きているのではないかという気が今でもしている。

〔長崎　直爆3.0㎞～　男　9歳〕
（13－21－031）

【死亡家族の概況】
① 8／10　妻　21歳　直爆距離NA　爆死
② 8／14　母　59歳　直爆距離NA　爆死

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕仕事の都合で10日入市、妻を見つけた時は、家の下敷き助けて一助けて一と叫んだが誰もたすけてくれなかったと言った時、ああ生きていて良かったと、23時間もよく頑張っていたと、ようやくひっぱり出して戸板にのせた時は息を引きとっていた。妊娠7ヵ月だった。あのいたましい姿を想い出し、もう少し早く帰っていたらとおもうとたまらない。一生わすれることは出来ない。
〔母〕その日に妹が会社から帰ってきて、下の道に吹きとんでいるのを見つけて、香焼にはこんで治療をうけていたが、くるしみながら14日死亡した。

〔妻〕あまりにも死にかたがむごすぎる。もう少し早く見つけていたら助かっていたのでは、でも自分の帰るのを待って話をした、かわしたことが何〔より〕ものなぐさみです。
母とは10日夕方香焼であった。吹きとばされた時のキズで弱っていたが、意識ははっきりしていたので大丈夫だと思っていたが、だんだん元気もなくなり、苦しみながら14日死亡。たまらない気持だった。一生わすれることは出来ない。

〔長崎　入市　男　31歳〕
（42－0694）

【死亡家族の概況】

① 8／12 妹 33歳 直爆0.8㎞ 原爆症

② 8／14 姪 16歳 直爆0.8㎞ 原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕たんぼで草取り中直爆、からくも自宅にはいながらたどりつき「おりゃ（私は）もう死んとね（死ぬの？）」と言いながらことたえた。

〔姪〕みんなから可愛がられていたので、その叔母が被爆の身でありながら必死になって看護したが、半意識に陥った。生前好きであった賛美歌を一緒に歌おうと言ったら、一番だけ歌った。その声が瀕死の被爆者や看護人たちの感動を呼び起したということを後で聞かされた。

まさかの場合にと思って用意していたものが全然使えない状態が2、3日続いた。あと少しずつ捜し出して、まず食べもの衣類をあてがうようにしたが、多数の被爆者をかかえて手が届かない。水を求める声にも応じきれないで、むごい状態で死んで行ったのを思い出すとたまらない。その上、死の準備をすることができたかどうか心配である。

8月15日のカトリックの祭日に備えて、魂は清めていたろうと自ら慰めている次第である。

〔長崎 入市 男 36歳〕

（13－01－008）

【死亡家族の概況】

① 8／9 父 52歳 直爆0.6㎞ 爆死 遺体で

② 8／9 母 44歳 直爆0.6㎞ 爆死 遺体で

③ 8／9 弟 5歳 直爆0.6㎞ 爆死 遺骨で

④ 8／10 姉 22歳 直爆0.6㎞ やけど 遺体で

⑤ 8／15 妹 14歳 直爆0.6㎞ 大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕上半身焼かれ一部骨に（自宅庭）教諭、代休日。

〔母〕全身まっ黒コゲ（自宅庭)。

〔姉〕ショックによる気落ち（病気で女専休学中）で一日後死亡（自宅庭)。

〔妹〕全身放射線による〔ママ〕ひどいヤケド。意識ほとんどなく、うわごとばかり、１５日に佐賀市の病院で死亡。

〔弟〕父の足元で白骨化。

戦争が１週間早く終わっていたら！と思ってくやしかった。

また人間の生命のむなしさをとことん味わった。

人生を全うできなかったということはどんなに辛かったろうか、即死でなかった姉と妹がとてもかわいそうでならない。何を考えていただろう……。

〔長崎　直爆１.０㎞　女　１６歳〕
（１３－１５－２２４）

【死亡家族の概況】

①	８／９	甥	４歳	直爆０.３㎞	圧焼死	遺骨不明
②	８／９	姪	２歳	直爆０.３㎞	圧焼死	遺骨不明
②	８／１５	姉	２５歳	直爆０.３㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

私共と一緒に住んでいませんでしたが、姉の子供達の事が一番忘れられない事なので、ここで書かせてください。生きながら火に焼かれて死んだ４歳の甥と２歳の姪の話です。

城山町に住んでいました。家の下じきになって動けず、お母さん助けてと叫びつづけながら、火がもえて来た、熱い、あつい、助けてと叫びながら死んで行った２人の子供の事を話しながら、御免なさい、御免なさいと子供に詫びながら、

６日後の１５日に死んで行った姉の心の中を思うと、どんなに辛かったろうと思います。

上記に書きました姉の事を思うと、私も結婚して母になって見て、あの時子供の名を呼び「御免なさい」と叫びつづけて亡くなった姉の気持がよくわかり、姉に代わって原爆を憎みつづけています。出征した兄が帰って来て、話を聞いた兄の苦しみも可哀想でした。兄は子供を返せ、妻を返せと叫びたかったろうと思いました。私は原爆の記事を書いてとたびたび言われましたが、涙ばかりで書けませんでしたが、今度４０年目に初めて書きました。

〔長崎　直爆１.０㎞　女　２０歳〕
（４２－１４８６）

【死亡家族の概況】

①	８／９	母	４５歳	直爆０.７㎞	圧焼死	
②	８／ＮＡ	妹	７歳	直爆０.７㎞	爆死	行方不明
③	８／１５	弟	１０歳	直爆０.７㎞	大やけど	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕家の下敷きになり、助けを求めて焼け死んだ。一緒にいた弟が言っていた。白骨の顔らしきものがあったので、弟の手当てをして後、拾いにいったら骨がなくなっていた。

〔妹〕外で遊んでいたらしい、遺体も骨もない。どんな死にかたをしたかと思うと可哀想に思う。

〔弟〕１週間火傷で苦しみ、死んだ方がまし、体が痛いので畳で死にたいと、９歳の男の子が言いつつ、小学校の板の上で死んだ。

ア）職業軍人でもない母や子供達がむしけらのごとく死んだ。〔弟は〕生きてい

たのにどうしてあげることも出来なかった。今でもくやまれる。

イ）太陽のギラギラする何一つ影のない道を、生きていた弟を背おって駅までいき、肥前永田町の小学校で苦しんで死んだ。

ウ）私の結婚もお産も、母がいないのでつらい悲しい思いをした。

エ）元気でいる母のお友達を見て、生きていたらと悲しい思いをいつもしていた。

オ）なきがらのない妹が、ひょっこり生きて出てくる思いがいつもしていた。

〔長崎　直爆１.５km　女　２０歳〕
（１４－４００４）

【死亡家族の概況】

①　８／ＮＡ　弟　　ＮＡ　直爆距離ＮＡ　原爆症

②　８／１５　母　４２歳　直爆距離ＮＡ　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕（母の実家、島原にて死去）

・意識は非常に鮮明であった。
・下痢が続き、血便が最後まで続いた。
・背中に住居の柱の圧迫による内出血で、紫色の柱の跡が明確だった。
・食欲全くなし。
・玉音放送が母の耳に達した時、突然床に正座し涙ながらに耳を傾け力尽きた。

〔弟〕意識はかすかにあり、建物の圧迫により身体の半分は真黒であった。

・医師の診療は、全く治療効果がなく、打つ手がなく、やりきれない思いをした。
・２人の火葬を私の手で行ったが、その煙に手を合わせ、「何故私も一緒に連れて行ってくれないの……」と泣き叫んでしまったことを忘れられない。

〔長崎　直爆０.５km　女　１８歳〕
（１３－２０－０８０）

【死亡家族の概況】

① ８／９　弟　５歳　直爆０．５km　圧焼死　遺骨で
② ８／１５　妹　３歳　直爆０．５km　原爆症
③ ８／１６　母　３０歳　直爆０．５km　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕口もとが腐っていたようです。
〔妹〕様子がよくわかりません。
〔弟〕焼死して、ただ骨だけが焼跡に残っていた。

自分だけ防空壕の中に入って助かり、弟を家に残して来たことがくやまれます。

母も妹も失って、戦争がなければこんな悲しい思いをしなくてもよいのにと、何度か思ったことでしょう。

〔長崎　直爆０．５km　女　６歳〕
（４０－１０７０）

【死亡家族の概況】

① ８／９　妹　８歳　直爆０．５km　爆死　遺体で
② ８／１６　妹　１２歳　直爆０．５km　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹①〕防空壕の入口で、内臓破裂し即死。
〔妹②〕家の中で寝ていた時、家の下敷きになった。自力で這い出してきたが、食欲はなく、口に入れてもそのまま排泄。関節などきかなくなり、８月１６日未明死亡。死亡後打撲のあとが紫色になった。

５女〔＝妹①〕は飛行機の音がきこえたので防空壕へ行くといって、家を出た

（4女〔＝妹②〕の話）ということで、防空壕の入口まできた時に爆発し、そこで即死したわけですが、むごたらしいその姿はどうしても見ることができなかった。（母の話では、内臓が出ていたとのこと。母が呼びにきたけれど、まわりの死体を見ていたので、断った）

〔長崎　直爆2.0㎞　女　15歳〕
（03－0238）

【死亡家族の概況】
① 8／9　妹　8歳　直爆0.8㎞　圧焼死　遺体で
② 8／16　母　45歳　直爆0.8㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕長崎より父の故郷敦賀へ母と姉と、妹の遺骨を持って帰る途中、岡山駅で急に倒れたので市民病院へ運び手当てを受けたが、手当ての甲斐なく死亡しました。
〔妹〕母の話によると、家の下敷きになり腹部に傷を受け、母が助け出しましたが、間もなく出血多量で息を引きとったと話してくれました。

8月10日、姉と一緒に妹の遺体をそばにあったトタンの上に乗せ、近くで枯木を拾ってダビにふし、その辺にあった空缶にお骨をおさめました。世が世であればと、何もしてやれなくて、自分達の手で肉親を焼くということはむごいことと思いました。

母が亡くなった時は、大八車にお棺を乗せて、姉と2人で火葬場に運びました。亡くなった2人、お経のひとつも何もしてやれなくて、そのような思い出はいつまでも心の底に残り、永久に忘れることはないと思います。

〔長崎　直爆3.0㎞～　男　15歳〕
（27－0226）

【死亡家族の概況】

① 8／9　次男　9歳　直爆距離NA　大やけど・爆死　遺体で

② 8／NA　夫　50歳　直爆距離NA　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕1週間位生きていました。非常に大やけどしていて、死ぬ前に1本のタバコをほしがっていたのですが、それも手に入れること出来ず残念でした。

〔次男〕4、5日行くえがわからず、毎日あちこちさがしていて、ある人よりきき、やっと0.5㎞位のところのせまいみぞの中にころんでいたのを、バンドで見わけがついたのです。

子供のことが目の前にやきついて、今でもわすれることが出来ません。その子が生きていたら、今ではこんなくろうはしないだろうと思い、本当にいつもわすれられません。

〔長崎　直爆1.5㎞　女　39歳〕

(42−0820)

【死亡家族の概況】

① 8／11　母　38歳　直爆1.0㎞　大やけど

② 8／16　妹　10歳　直爆1.0㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕ヤケドは背中一面だったので、うつ伏せになったまま死んでいったのです。

〔妹〕前日まで山をいくつも歩いてこえたのに、力つきたように死んでいった。

母は息を引き取る前、口を動かしてなにか言ってたのですが、ききとることが出来ず、何もしてやれなかった。

あれから４０年、つらい事、悲しい事がいっぱいありました。母が生きていてくれたらとなんど思ったことか。

〔長崎　直爆１.０㎞　女　１２歳〕
（２８－０２６８）

【死亡家族の概況】
① ８／１６　父　５７歳　直爆１.０㎞　原爆症
② ＮＡ　　　姪　　３歳　直爆１.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕家の下敷きになり、自力ではい出してきたが、幸い外傷はなかった。そのため安心していたのに、１週間後ふっと突然に息をひきとった。
〔姪〕脱毛、衰弱死。

外傷がないのをよいことに放っておき、大やけどをした長兄の世話にかかわっていたので、何もしてやれなかったのが悔やまれる。父は自分ひとり苦しみを堪えて死んでいったのだと思うとさらに悲しい。

〔長崎　入市　男　１６歳〕
（１３－０１－００６）

【死亡家族の概況】
① ８／９　　姪　　７歳　直爆０.５㎞　圧焼死　遺骨で
② ８／９　　甥　　５歳　直爆０.５㎞　圧焼死　遺骨で
③ ８／９　　姪　　２歳　直爆０.５㎞　圧焼死　遺骨で
④ ８／１７　姉　３０歳　直爆０.５㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕１７日まで生きておりましたが、全身むくんで、毎日高熱、下痢に苦しみ、井戸につけてくれというほどのいたましい姿でした。

〔姪①〕被爆後火が回って、家の下敷きになり、どうしても助け出すことが出来なかったと、やっとの思いで逃げ出した姉の言葉です。

〔甥〕爆弾の破裂とともに家の棟木がおちて、姉の目の前で吐いて顔色が変わったそうです。

〔姪③〕姉も意識を失くし、パチパチ燃える音で気がついて逃げ出したそうですが、この一番下の子の記憶はなかったようです。

１５日の終戦も知らずに皆亡くなりました。原爆投下の直後の有様は、まるで「生地獄」だと思います。死ぬまで忘れることはないと思います。姪（①③）甥の遺体もなかなか掘り出せず、９月中旬大型台風がきて大雨のあと、やっと掘り出して頂きました。サラサラと海辺の貝のような骨でした。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　２３歳〕
（１３－１２－０９６）

【死亡家族の概況】

① ８／１０　妹　　４歳　直爆０.８㎞　圧死　　遺体で
② ８／１７　母　４２歳　直爆０.８㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕△子、満４歳。直爆で家の下敷きになり、家の梁ではさまれ８月１０日死亡。遺体を坂本町の焼跡に置いて、東彼杵町に帰り、翌日父がすぐ長崎に引き返し遺体をさがしに行ったが遺体はなく、あたり一面白骨の山だった。軍隊が来ていっしょにまとめて焼いたようです。それで遺体も遺骨もなく、父はそのまま帰って来ました。

〔母〕４０歳〔ママ〕。直爆で妹といっしょに家の下敷きになり、顔や手足に火傷をしていた。郷里東彼杵町に帰り、次第に容体が悪化し水さえ喉を通らなくなり、病院に行っていたが医者も手のほどこしようもなく、連れて帰る途中リヤカーの上でもだえ苦しみ、肩で息をしていたが、急に止まり亡くなった。

戦争ほど残酷で悲惨なものはありません。非戦闘員の上空に原爆を投下し、戦争に怒りをおぼえまた悲しくなります。

原爆さえ落ちていなかったら、４０年間の苦しみはなく、生きていてくれたらこんな悲しみや苦しみはなかったと思います。

戦争さえなかったら、ほんとうに父母や妹を返せとさけびたいです。

〔長崎　直爆2.0㎞　男　１４歳〕
（４１－００３１）

【死亡家族の概況】

①　８／１７　父　３４歳　直爆1.4㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕４～５日後に避難先より連絡があって連れ帰って来たが、身体全身やけどで、特に後ろ側は頭の先からかかとまでやけどがひどく、もううじ虫がわいていた。

水をくれ、水をくれというのでやっても、黄色いものをはくばかりで、どうすることも出来なかった。８月１７日朝１０時ごろ、おむかえが来たといったきり帰らぬ人となった。

原爆の恐ろしさを目のあたりにしたので、その惨状は何といっていいのかたとえようがない。当時の状況ではあのような大やけどをなおす薬はなかったろう。死んでいった人も残念で心残りだったろうが、残された家族も以後ずっと苦しい生活を強いられて来た。大黒柱の父だっただけに我々子供より母がかわいそうで、

この40年間さぞ無念の思いで過ごして来たろうと思うと、慰めてやる言葉もない。

〔長崎　直爆3.0㎞～　男　6歳〕
(41－0015)

【死亡家族の概況】

① 8／9　父　44歳　直爆1.4㎞　圧焼死
② 8／9　母　44歳　直爆1.4㎞　圧焼死
③ 8／18　兄　19歳　直爆1.4㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕長崎市内竹ノ久保1の△△△の自宅でデング病のため会社を休み、家の中にいて母、兄と3人で被爆。兄が一人だけ脱出し、3日後に兄が父の会社の人と骨を拾った。

〔母〕父の場合と同じ。

〔兄〕被爆後だんだん元気がなくなり、10日目に苦しみぬいて死亡。皮膚や腔内が腐っていた。最後に気が狂ってしまいたいへん怖かった。

両親を失い、兄を死なせ、少女時代の心の痛みは何ものをかえても補ってはもらえないほどの大きいものであった。死者の言いたいことは、またどれほどのものだったかと、今さら、親の、兄の死んだ年より過ぎて偲ばれる。

私一人の悲しみ、被爆者、死んだ人、残された人々の数の多さを思い、これはもうたいへんなものと、核廃絶がいつの日にかなうか、それのみ願っている。

〔長崎　直爆1.5㎞　女　15歳〕
(14－5001)

【死亡家族の概況】

① 8／19 父 47歳 直爆0.2㎞ 原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕帰ってからはそのままの状態で飲まず食わず（食も通りません）、苦しい息づかいと下痢を繰り返すばかり。私達は手のほどこしようもなくおろおろとただそばに寄り添い「お父さん、しっかりして」というばかり、それが精一杯でした。その状態が10日間続き、父は眼をうつろにしたまま息絶えてしまったのです。

父の死んだことは私達に大きな恐ろしさと、不安と、悲しみと、また父がただ一人の家計の柱であったため、明日からの生活が大きくのしかかって来ました。当時は敗戦の混乱の中で悲しむ暇もなく、生きてゆくための生活が負わされて来ました。今思いますと良くも生きて来たと思いながらも、原爆で父が亡くなっていなかったら（父は子ぼんのうで、私達女ばかりの将来をたのしみにして話していました)、と思っても、失ったものは返るものではありません。

〔長崎 入市 女 16歳〕
(42－1033)

【死亡家族の概況】

① 8／19 妹 15歳 直爆距離NA 大けが・大やけど

② 10／6 兄 27歳 入市 病気

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕被爆後自力ではい出し防空壕内に逃げ出し、そこで5日間意識不明になる。6日目の朝、だれもおらんかの大声に気がつき救急隊の方にたすけられ、諫早の学校につれて行かれ治療をうけた。頭のキズと火傷。1週間目に私のところ

に連絡があり、薬をもってかけつけた。頭を骨膜まで見えるように大きくかぎさきに、そこにウジ虫が１１３匹いました。それを一匹一匹ピンセットで取り薬をつけ、火傷にはリバ湿布をし手当てをしてやりました。妹はああらくになったと言ってねむりました。それから何時間。目をさました時、どうせ死ぬならタタミの上で死にたいという。あっちこっち探し、やっとの思いで諫早の職員保養所に１人位入れそうとの事、夕方６時頃戸板で運び、その日の夜中３時１５分頃息を引き取りました。死ぬまで、諫早の婦人会の皆さんにはお世話になった事をお礼いってねといったかと思うと、私をタヌキがつれに来た、頭の上でおいでおいでをしている、キツネも来た、ああ頭がわれそうといい、息たえました。

もう少し早く見つかっていれば、傷の手当ても火傷の手当てもしてやれたかも、胸部から腹部にかけての打撲傷で黒く内出血していたところも治療してやれたのに、と思うとあきらめられません。

それに、あるいは助かったかもしれないのにと思うたび、胸がせつなく痛む。悲しみがわいて来て、忘れることが出来ません。

〔長崎　入市　女　１９歳〕
（４２－０７９８）

【死亡家族の概況】

①	８／９	兄	９歳	直爆１.５㎞	爆死	遺体で
②	８／９	兄	７歳	直爆１.５㎞	爆死	遺体で
③	８／１１	祖父	６３歳	直爆２.０㎞	大やけど・原爆症	
④	８／１３	祖母	５６歳	直爆２.０㎞	大やけど・原爆症	
⑤	８／１６	母	３０歳	直爆２.０㎞	大やけど・原爆症	遺骨で
⑥	８／２０	妹	１歳	直爆１.８㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕大やけどと急性原爆症のため被爆者医療収容所（兵器製作所）へ送られて亡くなったと聞く。

〔兄①〕〔空襲警報が〕解除になったので、祖父の使いに出かけた直後被爆。死亡。

〔兄②〕上の兄と一緒に使いに出た直後被爆。死亡。

〔祖父〕母や祖母と一緒に田んぼに草取りに出かけていて被爆、大やけど、急性原爆症のため自宅で死亡。

〔祖母〕祖父や母と一緒に田んぼで被爆。仮収容所（長崎兵器）で死亡。

〔妹〕自宅で私と一緒に遊んでいて被爆。急性原爆症で自宅で死亡。

①８人家族だったのに、父と２人だけ生き残り、失った家族を返して欲しい。
②むごい死に方、一度に６人も、耐えられない悲しみ。家族を忘れられなくて、いつも生きていてくれたらという思いで、家族が揃っていたら、原爆さえなかったら、どんなに幸せだっただろうという思いで、現在もせめて遺族〔に〕対しての補償だけでもやって欲しい。

〔長崎　直爆２.０㎞　女　４歳〕
（４２－０８１９）

【死亡家族の概況】

①	８／９	妹	１８歳	直爆０.６㎞	圧焼死	遺骨で
②	８／１４	父	４８歳	直爆０.６㎞	大やけど	遺骨で
③	８／１４	妹	１０歳	直爆０.６㎞	大やけど	遺骨で
④	８／１６	弟	１６歳	直爆０.６㎞	大やけど	遺骨で
⑤	８／２０	母	４１歳	直爆０.６㎞	大やけど	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・弟・妹③〕行方不明のためどれだけ捜しましたことか、ようやく市役所に名

前がありましたので喜んで行きました。すでに土の下で、体全部３人とも大やけどでたいへん苦しんだそうです。

〔妹①〕家の中でしたので、焼跡の灰の中から遺骨を取り出しました。

〔母〕会うことが出来ましたが体はやけどで手当ての方法もなく、何一つ口に入らない状態で苦しんで２０日に亡くなりました。

せめて３人の行方が早く分かっていましたら、３人とも同じ部屋だったそうで、妹が亡くなり、父、それから弟ですが、父も心残りでしたでしょうが、それを見つめる弟もどんなだった事かと、未だに心の中に残っています。

〔長崎　直爆1.5㎞　女　２１歳〕
（４１－００１７）

【死亡家族の概況】

①　８／１４　父　　５１歳　直爆爆心地　大やけど・原爆症

②　８／２０　義母　４９歳　直爆爆心地　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕私は父の実家である諫早に住んでおり、当日は食糧を持って父の家へ行くため長崎へ入市しましたが、途中立ち寄った親類の家（五島町）で被爆し、そのため父の家へ行くことも出来ず、引き返しました。

３日目に父は、母とともに私どもの家へたどりつきました。衣服は破れ、顔半分焼けただれ、歩くことも出来ず、友人のリヤカーに乗せてもらって到着しました。その夜は防空壕で休ませ、翌日かかりつけの先生に診てもらい、そのまま入院しましたが、先生も翌日は長崎市内の救護班として、主な看護婦さんを連れて出かけられ、後は代診の先生と留守番の看護婦さんで手当てをしてくださいましたが、薬もなく、何をしてよいか分からぬ様子でした。ものすごいはきけと下痢、考えられない位の高熱とうわごと、どうすることも出来ないま

ま付きそっていましたが、入院して４日目の午後、文字どおり燃えつきたような最期でした。

〔義母〕やけどもなく、指先にガラスの破片で切った小さな切り傷だけだったが、体がだるく、座っていることも出来ない位で、寝てばかりいましたが、手や顔に紫色の斑点が出て来ましたが、日がたつにつれそれが大きくなり、ふくらみ、もりあがって来ました。ついには大粒の巨峰をくっつけたほどに大きくもり上がり、死の直前にはそれが破れ、まっ黒な汁が流れていました。頭の中に小さなやけどがあったらしく、髪の毛の根元にうじ虫が何匹がうごめいていました。

〔長崎　直爆３．０㎞　女　２４歳〕
（１２－０２６０）

【死亡家族の概況】

①　８／１６　父　４８歳　直爆０．５㎞　原爆症
②　８／２０　母　４０歳　直爆１．０㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後、帰宅した時は比較的元気に見えたが、４００ｍ位歩き病院から帰った。そのまま倒れ寝こむ。下痢症状後、翌日死亡。意識ははっきりとしていた。

〔母〕戸外で被爆。全身大やけど、食事もとれず、梨のしぼり汁と白湯のみで２０日まで生存。意識ははっきりしていたが、全盲となった。生存中うじ虫が発生していた。

父は元気でいてくれると思ったが、被爆地点があまりにも近距離のためか、アッという間になくなった。

母は全身大やけど、目は見えなくなり、食事もとれない状態であったが、私たち子供のことばかり心配してくれた。当時のことを思うとどうしても泣けてくる。

あの時の惨状は絶対に二度とあってはならない。

〔長崎　直爆1.5㎞　男　15歳〕
(04－0354)

【死亡家族の概況】
① 8／21　母　48歳　直爆0.5～1.0㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕死亡した時点で、その時は長崎市内に入市していたのですが、船便がなくて帰れず翌日に帰りましたが、葬儀がすんだ後でした。父や兄弟の話によると、上半身大やけどでつける薬もなく、ただカボチャを塗りつけて包帯を巻くだけの手当てだったそうで、皮フもドロリとただれてぶら下がり、生の身が出てとても痛そうであったそうです。皮フも出来ることがなく、9日から21日まで苦しみ抜いてなくなったそうです。やはり死の直前にはうめきともうわごととも取れぬ苦しみにのたうったそうです。

小生は上段でも書きましたが、志願して予科練に行き、終戦前4月頃から特攻隊員となり訓練中に終戦となりましたが、後に残って無事なはずの母が原爆で苦しみ、特攻隊で死ぬはずだった小生が生き残り、この矛盾した成り行きに本当にその怒りをどこに持って行っていいか、終戦から何ヵ月かはただぼんやりと、また怒りでやり場のない気持を持ちながら過ごしたものでした。土葬した母を何度か掘り起こして顔を見たいとも思って墓の前に何度立ったものか、思い出しても腹が立つ気持です。40年経過した今日でも、月日は40年でも、気持の上では1日も進んでいませんよ。

〔長崎　入市　男　17歳〕
(42－0675)

【死亡家族の概況】

① ８／２２　父　４２歳　直爆１.０㎞　大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕生年月日は明治３６年までは分かるのですが、年月日は私が子供の頃ですので分かりません。火葬場も焼けてなかったので、畑の中に材木を積み重ねて、家族の見守る中でダビに付しました。

投下して３日目に捜し出し、家に連れて帰りました。勤務中会社の建物の下敷きになって助け出しました。息を引き取る前には血の塊と枕もとには髪の毛がたくさん抜けていました。のどに血の塊がつまって、とても苦しそうだった。

何の罪もない人々なのに、どうしてこんな目に遭わなければならなかったのか、とても可哀想な姿でした。近所の人々や親しかった友達など、多くの人々が死に、とても自分が助かったのがふしぎな位でした。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１４歳〕
（１４－２３０５）

【死亡家族の概況】

① ８／９　父　５５歳　直爆０.４㎞　爆死　行方不明
② ８／９　兄　１２歳　直爆０.７㎞　圧焼死
③ ８／２３　姉　２１歳　直爆０.７㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕大工だったので家のそとでやられ、遺体もなく、何のために父は生きてきたんだろう。

〔姉〕原爆症にかかりながら、妹達の食事をつくった。髪の毛がぬけ、ふろしきを頭にまきながらやっていたことを想い出す。

〔兄〕私のすぐ上の兄で、家の下敷きで死んでいった人で〔私は〕遺体を見ていない。

被爆当時私が８歳で何もしてやれないし、くやしく思っています。ある日とつぜん家族が死んでしまった。今でも父、姉、兄のことが頭から離れない。

〔長崎　直爆１.０㎞　男　８歳〕
（１３－５３－０１７）

【死亡家族の概況】
① ８／２３　妹　２８歳　直爆２.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕竹の久保の自宅（爆心地より２㎞位）の外に出た時、原爆がたまたま爆発。石垣のかげになっていたので、また家から出ていたので、家の下敷きにはならなかったが、直接多量の放射能を受け、当夜は近所の防空壕で夜を明かし、翌日友人宅へ行き３日位寄宿した。
姉である私は、当日佐賀から帰って来たが、入市できないので道の尾の親類宅で夜を明かし、翌日８月１０日自宅にやっとたどりついたが全壊して妹等の消息不明。２、３日探して友人宅にいることが分かり、日見の親類宅に移し、８月１６日佐賀に移り、妹の病状がひどいので佐賀県立病院に入院したが、病院でも手のほどこしようがなく、薬品、手当て不明のまま輸血もなく、ついに８月２３日死去したものである。出血、脱毛、すい弱。

何でこのような苦しみを受けなければならないのか？　筆舌にはつくせない。

〔長崎　入市　女　３１歳〕
（４２－０９４８）

【死亡家族の概況】
① ８／１８ 姉 ２４歳 直爆１.０㎞ 大けが
② ８／ＮＡ 父 ５６歳 直爆１.０㎞ 大けが

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕姉の頼みで倉庫の建物を建築中、頭部を梁で砕き脳みそが外に飛び散り、頭皮半分が下の方にずり下がり、それをタオルで上の方にずり上げ、タンカで家まで運び、２週間後に死亡。
〔姉〕レンガの下敷きで足をつぶされ、無我夢中で肉をけずりながら這い出し、家の近くの溝の中でうめき声を上げている時に発見され、１０日目に死亡。

自分の病気や怪我で亡くなっても悲しい思いをするのに、自国の責任者達の都合で戦争をし、つぎつぎと戦場に国民を送り出し、尊い生命を奪われ、敵国からの爆弾で死亡させられる。こんなことで尊い命を奪われるなんてもっての外と思います。

〔長崎 入市 男 ２０歳〕
（２２－０３１１）

Ⅲ．8月以内の死

【死亡家族の概況】
① ８／１２ 弟 ０歳 直爆1.0㎞ 原爆症
② ８／１３ 姉 １６歳 直爆1.0㎞ 原爆症
③ ８／２３ 母 ３６歳 直爆1.0㎞ 原爆症
④ ８／２４ 弟 １２歳 直爆1.0歳 原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔末弟①〕当時6ヵ月の乳飲み子で苦痛を訴える術もなく死亡。無傷だった。

〔姉〕朝、気がついたら死んでいた。やはり無傷だった。

末弟、姉ともに衰弱はしていたと思うが、当時誰もが気力を失い呆然としていたので、さして気にもとめていなかった。家屋の中で被爆、倒壊した家屋から救出されたが、カスリ傷ひとつなかっただけに原因がわからなかった。

〔母〕２０日頃から衰えが激しく、歯茎からの出血、紫斑ののち死亡。意識はかなりはっきりしていた。カスリ傷程度。

〔弟〕４人の中ではもっともひどいガラス傷。これも２０日頃から衰弱。２４日朝死亡。

書きあらわせない残虐さ。８月９日夕刻、自宅跡へたどりついて、行方不明の父を除いてみんなが無事だったのを肩だきあって喜んだのはいったい何だったのか。

我が子を自らの手で火葬した母親の心は察することさえできないのではないだろうか。そしてその母親まで１０日後生命を奪われたのであり、悲惨さは語る言葉もない。空襲じゃなかったのに（空襲警報は出ていなかったのに）といった弟の言葉が耳に残る。

〔長崎　直爆3.0㎞～　男　１４歳〕
（４２－２２３６）

【死亡家族の概況】

①　８／１４　兄　５０歳　直爆距離ＮＡ　大けが・大やけど

②　８／２６　義姉４８歳　直爆距離ＮＡ　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

義姉も大けがをしているのに、リヤカーに兄をのせ１１日夕方おそく私宅に帰りました。

兄のけががひどくどうしてやることも出来ないので、翌日藤田病院に入院させましたけど、１４日に亡くなりました。

〔義姉〕ヤケド、それに大けがしてましたが、顔に黒い斑点が出来、そのうえ高熱がつづき、唇は先の方に尖り出し、頭にはウジがわき、生前のおもかげもなくなり、ほんとに何の罪も悪いこともしないのに、余りにもひどすぎると思います。２６日死亡。

〔兄〕高熱のためウワ言をいいながらも家族のことを死ぬまで口走って１４日、亡くなりました。

義姉はやっぱり自分の顔が少しおかしいと思ったのか、鏡を見せてくれとせがみましたけど見せることが出来ず、ほんとに残念に思います。

当時私宅の方に母も疎開しておりましたが、兄の死後すっかり弱りました。

〔長崎　入市　女　３６歳〕
（４２－２０５８）

【死亡家族の概況】

①　８／２７　父　５５歳　直爆2.０km　大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕私は当時、勤務先（長崎兵器製作所）に勤務中であり不在であったが、母の説明では、亡父は自宅の２階におり、家の梁の下敷きとなり片腕骨折、片目失明であり、稲佐小学校で応急の手当てを受け２日後防空壕より郊外（道尾）に疎開したが手当てするところもなく自然死。

周囲の方々のことはここで省略させていただき、肉親のみに限定して一番むごいと思われたのは、

①先述の如く治療するところがなく自然死を〔自然に死ぬのを〕待ったこと。

②死後周囲の人も同じことであったろうと思うが、自分自身のことで精いっぱ

いであり、まして急な疎開先のことでもあり死体の運搬のみ手伝って貰い、私１人で用意した薪では足りず山中で落葉枯枝を拾い集め、早く焼けるよう死体をつっついてむりやり一晩がかりで火葬したこと。

〔長崎　直爆1.0㎞　男　１８歳〕
（１７－００５８）

【死亡家族の概況】

①	８／９	三女	７歳	直爆0.５㎞	圧焼死	遺骨で
②	８／９	四女	４歳	直爆0.５㎞	圧焼死	遺骨で
③	８／１６	長男	１４歳	直爆0.５㎞		遺骨で
④	８／１８	二女	９歳	直爆0.５㎞	不明	
⑤	８／２５	五女	１歳	直爆0.５㎞	不明	
⑥	８／２８	妻	３５歳	直爆0.５㎞	不明	
⑦	８／２８	不詳	１２歳	直爆0.５㎞	不明	

【死亡の状況・遺族の思い】

直爆死者は弟一家で遺骨にしてくれていました。〔私の〕入市後死亡〔した者〕は自分で火葬し本当に涙も出ないほどでした。
〔妻〕体に傷を受けてそれが腐りウジ虫が出来、間もなく死亡。
また１人は元気でしたが体に班点が出来、３日間で死亡しました。

家族全部の死に対し自分１人がなぜ生きたのか、一時はくやまれてなりませんでしたが、全部の供養をするようにとの天のお知らせと心を取り直しました。

〔長崎　入市　男　３６歳〕
（４２－１８４８）

【死亡家族の概況】

① ８／９　兄　１６歳　直爆0.３km　爆死　行方不明

② ８／２９　母　２７歳　直爆1.５km　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕直爆死、勤務先にて。後日父親が関係者から当日の話を聞き、たぶんこの辺だろうということで5､6人分の遺骨を分けあった。

〔母〕8月２９日、２０日間苦しんで死亡。被爆直後は何ともなく見えたが、次第に身体中紫色になり、赤い斑点が出来て「苦しい、苦しい」と言って死んだ。

〔長崎　直爆3.０km　男　１４歳〕

（１３－５３－０３４）

【死亡家族の概況】

① ８／１０　姪　年齢ＮＡ　直爆距離ＮＡ　ＮＡ

② ８／１０　姪　年齢ＮＡ　直爆距離ＮＡ　ＮＡ

③ ８／３０　妻　２３歳　直爆0.８km　大けが・大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

８月９日長崎市竹之久保町にて被爆直後、重傷とやけどを受けて仮床していたが、救援に来た（島原某消防団員が通りかかった）人達は、後から来る、と言って北へ向かってしまったが、そのままで一夜を明かした。

翌１０日朝８時、姉の娘〔①〕は死亡。医大から避難した姉の次女〔②〕は山腹で死亡。２人の死体は並べて火葬にした。

私の妻は翌１０日の朝、やっと市内網場町養国寺に収容したが、大半の人はそのまま死についたようである。

①姪の死、しかも姉と妹が同じ日に、しかも一緒に並べて火葬されるとは、可哀想でならなかった。

原子爆弾の使用禁止は人類最大の願いである。今後絶対に使用してはならぬ。
②結婚わずか２ヵ月目、生死別。私は絶対に許容出来ない怒りをもっている。
将来の子孫のためにも、この地上から原爆の使用禁止は至上命令である。
私はそのためには身命財を賭しても実行する決意である。
③妻を返せ、健康を返せと第２回国連総会に渡米したときも叫び続けた。

〔長崎　直爆1.0㎞　男　３１歳〕
（０４－０７０８）

【死亡家族の概況】
①　８／１２　弟　　３歳　直爆1.8㎞　原爆症
②　８／３０　弟　　６歳　直爆1.8㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟①〕母に抱かれて防空壕の中で、夜中ふっと突然ねむるように。
〔弟②〕頭、顔、腕、腹と大やけどで２１日間、水だけで苦しみもだえながら。

死に方がむごすぎることと、何もしてやれなかったこと。

〔長崎　直爆2.0㎞　女　１２歳〕
（４０－０７０８）

【死亡家族の概況】
①　８／３０　母　４５歳　直爆1.0㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕８月９日は爆音を聞いてすぐに自宅近くの横穴に避難したため奇跡的に助かったが、逃げた喜々津の借りた家の二階で暮らすうち、2､3日後から村の医師に診察してもらったが、胃の薬をもらっただけで何の手当てもうけられず、日に日に胸が苦しいともだえ、出刃包丁で胸を切り裂いてくれといって苦しがり、顔はだんだん化け物のように変わってゆき頭髪は抜け落ち、全身に小豆大の紫斑が出て二目と見られないような形相で死亡した。

本当に体全体が腐っているようだった。

戦争をしている前線の兵隊さんが亡くなるのは仕方がないと言ってはいけないが、戦争である以上戦闘員は死ぬわけですが、何も悪いこともせず貧しい中にも一生けん命に生きてきた者が、あんなむごたらしい死に方をさせられる原子爆弾の恐ろしさ、絶対にこの地球上で二度とあってはいけない。

〔長崎　直爆3.0㎞～　女　２０歳〕
（２２－０１８３）

【死亡家族の概況】

①　８／３１　次女　３歳　直爆1.8㎞　原爆症　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔次女〕外傷や火傷はないが、放射能のため呼吸困難をともなって死亡する。腹部膨隆がひどい。

子供を亡くしたことはこの世の地獄である。戦争がなければ子供を亡くすことはなかった。

〔長崎　直爆2.0㎞　女　２８歳〕
（４２－０８７５）

【死亡家族の概況】

① ８／ＮＡ　兄　１８歳　直爆0.８㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕やけどがひどく、最後には苦しさのあまり気がおかしくなり「前え進め、とつげきー」などと口ばしり、あばれるものですから、ベッドに手足をくくりつけられ死んでいったそうです。

私の母と姉が兄の死を見とったそうですが、苦しみながら死んでいった兄を、母は自分がこの世を去るまで忘れなかったでしょう。

いつも口ぐせに「あの子が生きていたら」「あの子が生きていたら」と言っておりました。

〔長崎　直爆1.５㎞　女　９歳〕
（１３－２９－０２４）

Ⅳ．昭和２０年内の死

【死亡家族の概況】

① ９／１　姉　１６歳　直爆1.０㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕原爆投下後３日、帰宅した当時はケガの程度で１週間位休んでおりました。その後病状が悪くなり、死亡当日には鼻、口より出血がひどくなり、そのまま息をひきとった。

ただ見ているだけで何もすることが出来なかったことが、未だに忘れることが

出来ない。今さらどういうことでもないと思う。

〔長崎　直爆3.0㎞　男　１３歳〕
（４２－２１４１）

【死亡家族の概況】

①	８／９	弟	１２歳	直爆0.１５㎞	大けが・大やけど	
②	８／９	弟	９歳	直爆0.１５㎞	爆死	行方不明
③	８／１４	母	３９歳	直爆0.１５㎞	大けが・大やけど・原爆症	
④	９／３	父	４５歳	直爆0.２㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟②〕戸外に出ていたので、爆死した場所も遺体もわからない。

〔弟①〕家の中でひどいけがで夕方死亡。何の手当ても、なすすべなく。

〔父〕原爆投下後２５日目、下痢も血便、吐くのも血ばかり。食欲もなく髪は抜け、班点はでるで、息を引き取ると身体が一部分的に変色していった。

〔母〕大けが、やけどで救護所につれて行かれたが、手当てのかいもなく、もだえ苦しんで乳飲み子のことを気にしながら死亡した。

私自身重傷で自分の力では身を動かすことも出来なかった。現在生存していることじたい奇跡に近い状態であるから、私には何も出来なかった、不可能だった。結果は同じでも動ける身体だったら何か出来たのではと今でも残念です。

６日広島に投下された時で戦争終結が国として取られていたら、長崎の被爆は取り止められていたのでは、とくやまれてなりません。

〔長崎　直爆1.５㎞　女　１５歳〕
（４０－０７２７）

【死亡家族の概況】

①	8／9	父	44歳	直爆0.7km	圧焼死・大けが・大やけど	遺体で
②	8／9	兄	17歳	直爆距離NA	NA	行方不明
③	8／9	姉	15歳	直爆0.7km	爆死・大けが・大やけど	
④	8／9	妹	9歳	直爆0.7km	爆死・大けが・大やけど	
⑤	8／9	妹	7歳	直爆0.7km	爆死	行方不明
⑥	8／9	弟	4歳	直爆0.7km	爆死	行方不明
⑦	8／9	妹	2歳	直爆0.7km	爆死	遺体で
⑧	9／4	母	44歳	直爆0.7km	大けが・大やけど	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕やけどや、けがにもだえ苦しんだ。

〔母〕坂本町の防空壕にて、誰も助けるものもなく、頭が変になって死んだ。

〔兄〕行方不明でどのようになったかわからない。

〔姉〕生前のおもかげもなく、苦しみながらもだえ死んだ。

〔妹④〕姉、母と同様に、もだえ苦しみながら息を引きとった。

〔妹⑤〕妹はどこでどうなったか、行方不明でわからない。

〔弟⑥〕妹と同様、どこで死んだかわからない。

〔妹⑦〕遺体を見ただけ。

当時は考える事ができないくらいショックだったが、今思うとなぜ自分だけ生き残ったのだろうと、毎日毎日泣いて暮らしていました。

妹を、弟を、母を、父を返せと大声で叫びたいです。

〔長崎　直爆1.0km　女　11歳〕

（42－2133）

【死亡家族の概況】

①	8／9	妻	42歳	直爆0.6㎞	圧焼死	遺骨で
②	8／9	長女	12歳	直爆0.6㎞	圧焼死	遺骨で
③	8／9	次男	3歳	直爆0.6㎞	圧焼死	遺骨で
④	9／6	長男	7歳	直爆0.6㎞	原爆症	
⑤	9／6	次女	5歳	直爆0.6㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男・次女〕1ヵ月後二児が急に髪の毛が抜け、腹痛を訴え幾日も悶え苦しみ、顔面に紫の班点が出来、目が見えなくなり脳奨を起こして、亡き母を慕いたるも、胸がつまり返事が出来なかった。

それから歯ぐきから糸筋のような血筋が脱け、肉がくさり落ち歯が脱けて、枯れるようにして死亡した。断腸の思いがした。

〔長崎　直爆3.0㎞　男　43歳〕
（42－2207）

【死亡家族の概況】

① 9／6　父　年齢ＮＡ　直爆1.4㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕疎開した佐賀で、8月23日より髪がずるずる抜けだし下痢をし、佐賀の県立病院に入院し、親類の人達の輸血をずっとつづけて、「切れ物をもって来い、腹を切るから」と苦しみ、ばたぐるい、狂ったようにして亡くなった。

〔長崎　直爆2.0㎞　女　1歳〕
（42－2011）

【死亡家族の概況】
① 9／8 兄 16歳 直爆2.0㎞ 原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕しばらくは元気に生活していたのだが、ある日突然倒れ、そのまま亡くなってしまった。

兄弟を原爆のために突然に、また簡単に奪われた悲しみは大きく、つくづく戦争は嫌だと思いしらされる。

〔長崎 直爆3.0㎞～ 男 14歳〕
（42－1004）

【死亡家族の概況】
① 9／9 妻 24歳 直爆3.0㎞ 原爆症 NA

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕被爆して2週間位たった頃、髪の毛が抜け始め皮膚に斑点が出来始めて、だんだんと身体の異状を訴え始めてから、3週間目頃より血を吐くようになり、だんだんと身体の衰弱がひどくなり、いわゆる原爆三期症状により被爆1ヵ月目の9月9日に死去。

とにかく前記のように、妻がものすごく苦しみ通して死去しましたので、その当時は原爆症というような事は全然分かっておらず、近くの医者に診断してもらっても何も分からずただただ死を待つより外はなかった状態で、あの当時はただ何をして良いか分からぬままだったが、直接被爆した当事者として、原爆を使用した米国を心から憎むと同時に、当局のこのような悲惨な目に遭った原爆被爆者に、なぜに今に至るも援護法を制定しないのかと強く叫びたい。

〔長崎　入市　男　３０歳〕
（４２－０８７０）

【死亡家族の概況】

①	８／９	妹	１４歳	直爆1.2㎞	大やけど
②	８／９	弟	６歳	直爆1.2㎞	大けが・圧焼死
③	８／９	叔母	２７歳	直爆1.2㎞	大やけど・圧焼死
④	８／９	従弟	３歳	直爆1.2㎞	大やけど・圧焼死
⑤	８／１２	弟	３歳	直爆1.2㎞	大やけど
⑥	８／１６	従弟	１２歳	直爆1.2㎞	大けが
⑦	８／２８	父	４５歳	直爆1.2㎞	大けが・原爆症
⑧	９／１	従弟	５歳	直爆1.2㎞	大けが
⑨	９／９	祖母	７０歳	直爆1.2㎞	大けが・原爆症
⑩	９／１０	妹	１６歳	直爆1.2㎞	大けが・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

家族、親戚全部が直爆だったので、死ぬまでの容体は皆同じでした。焼け跡で援護隊の人達が来て、今思えば十分な手当てではなかった。病院へ入れられた者でも、注射をすれば注射の跡がすぐ紫色になり斑点が出、死ぬまで意識だけははっきりしていたので、とても高熱等で苦しんだ。

４０年の間には何度いっそ死んだ方がましだと思ったことか、でも自分が死んでしまえば亡くなった者の供養もできないし、自分１人生き残ったことが不思議なくらい。ただ、自分が病気をしたり辛いことがあった時、せめて妹１人だけでも生きていてくれたらと今でも思う。亡くなった時から４０年足せばもう皆それぞれに年を取っているはずなのに、私にはやはり父は４５歳の働き盛り、妹はまだまだ人を好きになる花のつぼみのままだったり、本当に口惜しくて悲しくてたまりません。

私も５８歳、私が生きている間に、絶対、核廃絶、遺族への国家補償を実現さ

せてほしいと思います。もう戦争は絶対に嫌です。

〔長崎　直爆1.5㎞　女　１８歳〕
（４２－０７４３）

【死亡家族の概況】
①　９／１０　父　年齢ＮＡ　直爆4.0㎞　大やけど

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕母からきいた話では、１ヵ月自宅でやけど（全身）にもだえ苦しんで亡くなった。

父の事を思うと今でも胸がはりさけそうです。
全身の火傷に何の治療も受けられなくて、自宅でただひたすらに耐えて死んでいった父のことを母に聞かされるたびに、こういうことが二度とあってはならないと思うのです。周りの人々がそれを目の前にしてどれほど苦しんだかと思うと、死ぬまで忘れられないことでしょう。

〔長崎　直爆3.0㎞～　女　１歳〕
（１１－０１７７）

【死亡家族の概況】
①　９／13　母　５７歳　直爆2.0㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕原爆投下の翌々日、同地域（浦上）を大浦地区（自宅）へ帰る途中、放射能

を吸入し、腹痛を訴え下痢症状と血便が続き、非常に苦しんで死亡した。

当時は病院にて完全治療することも出来ず、本当に何も特別に治療もしてやることが出来ず残念に思ってます。

〔長崎　直爆3.0㎞～　男　18歳〕
（40－0223）

【死亡家族の概況】

① 8／9 妹 1歳 直爆距離NA 圧焼死 遺骨で
② 9／15 母 30歳 直爆距離NA 大けが・大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕爆風で家が倒れ下敷きになった妹は即死でした。
〔母〕やけどや大けがをしましたが何とか助かり、鹿児島まで行きつくことが出来ましたが、そのまま病の床で苦しんで死亡しました。

母が死に継母に育てられました。継母に2人の女の子が産まれました。私と姉はじゃまもの扱いされ、大変に悲しい思いがあります。

〔長崎　直爆1.5㎞　女　4歳〕
（23－0027）

【死亡家族の概況】

①	8／9	甥	1歳	直爆1.3㎞	圧焼死
②	8／29	妹	25歳	直爆1.3㎞	原爆症
③	9／3	母	63歳	直爆1.3㎞	原爆症・大やけど
④	9／4	甥	2歳	直爆1.3㎞	原爆症
⑤	9／5	妹	19歳	直爆1.3㎞	原爆症
⑥	9／16	父	57歳	直爆1.0㎞	原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕生前のおもかげがなく、はぐきがくさって。

〔母〕口の中がくされ、ねつが高く、もだえ苦しんで。

〔妹②〕口の中、はぐきがくされ、もだえて苦しんで。

〔妹⑤〕口の中、はぐきがくされ、ねつ高く、もだえ苦しんで。

〔甥④〕ねつが高く、苦しみながら。

〔甥①〕家の中で下敷きになり、家ともにもえてやけ死に、死体も遺骨もない。

６人共、自分でどうしてやる事も出来ず、くすりもなく、きせる物ももえてなく、家ももえてなく、しんせきの家にお世話になりながら、次々に死んで行く悲しみは、人には言いつくせない思いがこみ上げてきます。

今でしたら葬式もしてやれたのに、あの時はどうする事も出来ませんでした。自分もいっしょに死んだ方がよかったのにと、くやしかった。

〔長崎　直爆2.0㎞　女　27歳〕

（42－1353）

【死亡家族の概況】

①	9／16	父	45歳	直爆0.5㎞	大やけど・原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕死ぬ直前には少し気が変になり、わけの分からないことをわめき、舌は紫色に腫れ上がり、ボツボツみたいなものがいっぱい出来ていました。身体中にささったガラスを抜き取りながら、涙があふれてどうしようもありませんでした。

何一つ悪いことの出来ない父、晩酌の一杯のお酒だけが楽しみだった父、やさしかった父。こんな父がどうしてこのような死に方をしなければならなかったのか。くやしくて、くやしくて、思い出すたび私は泣きたくなります。

〔長崎　直爆3.0㎞～　女　２４歳〕
（４２－２１５９）

【死亡家族の概況】

①　９／２０　父　５１歳　直爆1.5㎞　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕老齢で記憶のうすれた母の話です。死ぬ１ヵ月程前、父が川棚病院に収容されていることを知り、弟が様子を見にいった時は、傷も癒え退院も間近だから退院の時着る服を、という位元気でした。焼失をまぬかれた１枚の服等もって、時々病院へ通っていましたが、死ぬ５日程前いった時は、見違えるばかりふくれ上がりもう譫言ばかり言っていたそうです。死んだ時は退院の時着る服等とてもふくれ上がって着せられませんでした。何時間かするうち体から流れる水は床に流れる位たまったそうです。

原爆をうらんだでしょうに、死に顔は静かで眠っているようでした。また遺骨も残されました。遺族として何よりの救いです。やすらぎです。お遺体のない人のことを思えば、もう気の毒でたまりません。

何よりも頼りとする父の死でした。父も神戸から転勤で、身寄りもなく異郷で

どんなにか心残りと淋しい思いだったと思います。ましてや混乱の中、家族からも手厚い看護も受けられず、また私も動けなかったので死に目にあえなかったのが残念です。

今でも珍味の物、美味の物が手に入る度、父にもたべさせてあげたい思いでいっぱいです。

〔長崎　直爆1.5km　女　２２歳〕
（２８－００１０）

【死亡家族の概況】

①　９／２１　父　５４歳　入市　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕私達の父は原爆死になってはいませんけど、たしかに原爆に関係してると思います。その後下痢する人が多くて（チョウチフスか）何とかデンセン病とか言われたけど、血便で班点が身いっぱい出、何一つ食べられず、９月２１日もだえ苦しんでこの世を去りました。

死没者一人一人のむごさ、本当にかわいそうです。どこのどなたかもわからないまま死んでいかれた何百体何千体を思い出し、涙がこぼれてなりません。

私も父をなくして、またそれが原爆死にも認めてもらえないのが本当に残念です。

〔長崎　入市　女　１９歳〕
（４２－１９５０）

【死亡家族の概況】

①	8／9	祖母	84歳	直爆1.0㎞	圧焼死	遺骨で
②	8／9	父	51歳	直爆1.0㎞	爆死・大やけど	
③	8／9	母	48歳	直爆1.0㎞	大やけど	
④	8／9	兄	22歳	直爆1.0㎞	大けが	
⑤	8／9	姉	19歳	直爆1.0㎞	圧焼死・大けが	
⑥	8／9	姉	17歳	直爆1.0㎞	圧焼死・大やけど	
⑦	8／9	弟	12歳	直爆1.0㎞	圧焼死・大けが	
⑧	8／9	弟	9歳	直爆1.0㎞	圧焼死・大けが	
⑨	8／9	妹	3歳	直爆1.0㎞	圧焼死・大けが	
⑩	8／9	姉の子	3歳	直爆1.0㎞	圧焼死・大けが	
⑪	8／16	妹	7歳	直爆1.0㎞	大けが	
⑫	9／不詳	姉	24歳	直爆1.0㎞		

【死亡の状況・遺族の思い】
〔祖母〕家の下敷きになり出ることが出来ず焼け死に、骨や灰になっていました。
〔父〕全身やけどで何も見えず、苦しんでいましたがどうしようもなかった。
〔姉⑫〕ガスを吸い、9月〔日不詳〕出産後、死亡。

あまりにむごい死に方で言い表すことが出来ません。〔例示の〕（カ）と一緒で〔父、母、兄弟など失い〕途方にくれました。

〔長崎　直爆1.0㎞　女　14歳〕
（42－0823）

【死亡家族の概況】

①	9／不詳	父	55歳	直爆2.0㎞	大けが

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕家屋全壊の下敷きになり、全身打撲で緊急処置のみが施され、その後何の手当てもなく苦しみながら、顔から身体と腐るようにして、２８日目に亡くなりました。

何の罪もない人間を死に至らしめる行為は、絶対に許せません。本人の苦しみは、一家の大黒柱という立場からどんなにつらかっただろうと、その痛みが心から離れません。残された家族、それを支える母、兄の苦労もまた筆舌につきるものではなく、せめて普通の人生を送らせたかった父、被爆後背負い続けなければならない私共の傷は、年と共に深く心につき刺さってきます。

〔長崎　直爆2.0㎞　女　8歳〕
（１７－０００８）

【死亡家族の概況】

①	８／不詳	母	６０歳	直爆0.9㎞	不明	行方不明
②	８／不詳	妹	２５歳	直爆０㎞	不明	行方不明
③	１０／２	妹	１９歳	直爆1.0㎞	原爆症	

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母・妹②〕遺体もなし。

〔妹③〕内臓被爆のため、くさってしまっていた。仮の病院で手当ても出来ず「痛い痛い」といい、帰りたいと何度もくりかえし死んでいった。

当日自分だけ用事で出掛けていたので今こうして生きているけど、あの時一緒にいたら皆と一緒に死ねたのにと思い続けていたけど、こんな経験を再びくりかえしたくないので語りつたえていきたい。

〔長崎　直爆3.0㎞～　女　３５歳〕
（４３－０１８４）

【死亡家族の概況】

①　１２／２４　母　５９歳　救護　原爆症

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕体全体大きくはれ上がり、日増しに苦しみもだえて最後に息を引き取った。

母がくるしみもだえるのに、当時はどんな病気かわからずこれという方法も無く、ただ見守るだけで、まだ若い母を無くしたことがくやまれる。

〔長崎　救護　女　１４歳〕
（４２－０１６１）

【死亡家族の概況】

①	８／２８	妹	１２歳	直爆0.5㎞	大やけど	遺骨で
②	９／７	弟	１４歳	直爆0.9㎞	原爆症	遺体で
③	９／７	弟	８歳	直爆0.5㎞	原爆症	遺体で
④	９／９	母	３９歳	直爆0.5㎞		遺体で
⑤	12／２５	父	４２歳	直爆1.0㎞	病気	遺体で

【死亡の状況・遺族の思い】

みんな佐賀の病院に入院していたのですけど

〔父〕勤めのことで長崎の道ノ尾にある会社の寮に一晩とまった時、心不全で死亡。

〔母〕眠ったままふっと、目をあけませんでした。

〔弟２人〕それまで口から血をひっきりなしに出していたのですが、１０日程で眠るように、喉が蜂の巣のようになって真っ黒に焼けていたそうです。解剖して病院にホルマリン漬けにしてありました。

〔妹〕やけどで死亡。

最後の弟〔被爆時２歳、昭和25.12.死亡〕は、背骨の下の方に穴があいたみたいで、ウミが出て背骨が反って、死亡診断書には結核と書いてありました。

両親などが亡くなった時、私は涙が出ませんでした。ポロとこぼれた位です。悲しみは通りこしていて、ほったらかされた、死に遅れた、どうしょう……という不安がいっぱいで……きっと両親も死にきれなかったと思います。１７、１６歳の下に９歳、５歳、４歳、２歳を残したのです。それに私は御飯も炊けず何もできない上に放心状態です。幼い弟妹は淋しいとも言えず、抱き寄せてくれる人もおらず、どんなに心細い毎日だったことかと、私は今更ながら思い出しては泣いています。

１６歳の弟が志免鉱業所で働き、坑内で石炭掘をしました。そうして炭鉱の人達のお蔭で社宅を一つ下さって、そこで姉弟妹６人は暮らしました。ボロ布団一つに戦災者に渡った毛布が何枚かと、着たきり雀でした。炭鉱のお蔭で炭だけはあったので、冬も暖かくすごせました。家の中には何もないのです、鍋釜一つずつ。家に入って来た人がまず驚くのは、白い布に包んだお骨箱が、その時は５コ、ミカン箱を二段にしてお骨とお位牌を並べていました。引っ越す時は、お骨箱を５コ背負ってあるきました。

何よりも何よりも悲しく胸が痛むのは、幼い弟妹のことです。親をなくしてどんなに心細かったでしょう。どうしてやさしく抱きよせてやらなかったかとくやんでいます。死んでいった弟妹にもあいたい。いつも心の中で、ごめんね……とあやまっています。

現在残った弟妹と逢うことがありますけど、悲しくて昔のことは話しません。先に涙が出てきます。

〔長崎　直爆3.0㎞　女　１７歳〕
（４０－０６５４）

被爆者の死（その１）－参考資料－

この資料は、「あの日」から昭和２０年末までの原爆死の特徴を示すいくつかのデータを、日本被団協「原爆被害者調査」第２次報告から作成したものである。

◇　「原爆被害者調査」で確認された死没者は、「あの日」（昭和２０年広島８月６日、長崎８月９日）から調査時（昭和６０年１１月～６１年３月）までに亡くなった１２，７２６人である。その死亡時期は〔表１〕のようになっている。

「あの日」の死者は、死没被爆者総数の２２％、昭和２０年内に亡くなった被爆者（年内死者）は４５％である。

〔表１〕死亡時期別死没者数

昭和２０年内の死者 ………………	５，６９６人	（４４．８％）
内訳（広島 8/6、長崎 8/9の死者）	2,797人	(22.0%)
（投下の翌日～２０年末まで）	2,183人	(17.2%)
（月不詳・無回答）	716人	(5.6%)
昭和２１～２９年の死者 ………	１，４６３人	（１１．５％）
昭和３０～３９年の死者 ………	１，２４９人	（　９．８％）
昭和４０～４９年の死者 ………	１，５９５人	（１２．５％）
昭和５０～５９年の死者 ………	１，９２６人	（１５．１％）
昭和６０・６１年の死者 ………	２２３人	（　１．８％）
年不詳・無回答 ……………………	５７４人	（　４．５％）
総　数 …………………………………	１２，７２６人	（１００％）

◇　年内死者５，６９６人のうち被爆地と死亡月日がともに分かっている４，９６９人についての死亡月日の推移は〔表２〕のようになっており、広島、長崎ともほぼ同率である。

〔表２〕被爆地別、死没者の推移（年内死者全体）

	広　島	長　崎
	％	％
「あの日」の死	５７．５	５４．３
１週間以内	１５．３	１５．１
２週間以内	６．３	８．１
８月末まで	５．６	５．３
８月・日不詳	４．２	５．４
９～１２月	１１．１	１１．８
計	１００％ (3,055名)	１００％ (1,914名)

◇　「あの日」の死者２，７９７人のうち、性別・年齢の分かっている２，２３６人について〈こども、女、年寄り〉がどのくらい含まれているかを調べたのが〔表３〕である。「あの日」の死者の６５％、３分の２は〈こどもや女や年寄り〉であった。

〔表３〕「あの日」の死者

「あの日」の死者	実数（人）	比率（％）	
総　数	2,236	１００	
こども（９歳以下）	４０６	１８	
女　（１０～５９歳）	８７７	３９	６５
年寄り（６０歳以上）	１７７	８	
男　（１０～５９歳）	７７６	３５	

◇　「あの日」の死者のうち、その死亡の確認状況が分かっているのは２，６０３人である。

「あの日」家族にみとられながら逝くことのできた死者は全体の４％にすぎず、４０％は「行方不明」、遺体または遺

骨によってもその死は確認されていない。「爆死」または「圧焼死」したものと思われるが、遺族にはその死を確かめようもない。

◇　「あの日」の死者のうち、死亡原因が分かっている人数２，１７７人についての主な死亡状況は〔表４〕のとおりである。

〔表４〕死亡状況（「あの日」の死者）

	実数(人)	比率(%)
死者総数	2,177	100
建物内(下)で圧焼死	1,197	55
戸外で爆死	895	41
大やけど	234	11
大けが	75	3
急性原爆症	21	1

（複数選択）

◇　死亡原因が、直接被爆によるものとみなされる年内死者(上位３位)の死亡原因の推移が〔表５〕である。２週目以降「原爆症」による死者が次第にふえ、９～１２月の死者の３分の２は「原爆症」による死となる。

〔表５〕死亡状況の月日別推移

	死者数(人)	死亡原因 1位 (%)	死亡原因 2位 (%)	死亡原因 3位 (%)
「あの日」	2,164	圧焼死(55)	爆死(41)	大やけど(11)
１週間以内	704	大やけど(68)	原爆症(17)	大けが(16)
２週間以内	327	大やけど(49)	原爆症(38)	大けが(27)
８月末まで	246	原爆症(62)	大やけど(36)	大けが(29)
９～１２月	449	原爆症(73)	大やけど(21)	大けが(16)

日本被団協　# 原爆被害者調査に関する資料一覧

【報告書】

・原爆被害者調査第一次報告 ……………………………… ５００円

・原爆被害者調査第２次報告

　－原爆死没者に関する中間報告－ ……………… ３００円

【資料集】

・「あの日」の証言（その１） ………………………… １０００円

・「あの日」の証言（その２） ………………………… １０００円

・被爆者の死（その１）

　－「あの日」から昭和２０年末まで－ …… １０００円

・被爆者の死（その２）

　－昭和２１年からの４０年－ ……………………… １０００円

【パンフレット】

・被爆者は原爆を受忍しない ………………………………… １５０円

　（厚生省調査への見解・被団協調査が語ること）

・あなたは核戦争を受忍（がまん）できますか …… １５０円

【講演記録】

・被爆者の死と生

　－<原爆>の反人間性－（石田　忠） …………… ４００円

＊お申し込みは、日本被団協へ

〠105 東京都港区芝大門1-3-5 ゲイブルビル902

☎(03)438-1897

1989. 7. 28

日本原水爆被害者団体協議会

〒105 東京都港区芝大門１－３－５
ゲイブルビル902

☎03（438）1897